

シラバス

——平成 28 年度(2016)——

人間科学編

Kyushu Institute of Technology
School of Engineering

九州工業大学 工学部

シラバス

——平成 28 年度(2016)——

人間科学編

序 文

本シラバスは、下記に列挙する項目を通して工学部における授業、学習と学修目標に関する情報をまとめたものです。

- (1) 図書館の利用法
- (2) 各学科における学修目標
- (3) 各科目間の関連、科目の系統図
- (4) 授業の内容と受講の仕方、時間外学習への言及
- (5) 成績評価の方法

皆さん方が受講すべき標準的な科目は時間割に組み込まれていますので、時間割にある授業を受講し単位を取得すれば自動的に卒業要件単位は充足されると思われます。しかし、もう1歩踏み込んで、工学部の学生としてどのように工学のスキルを身につけ、どのように自分自身のキャリアを伸ばしていくか、自問しながら学部4年間で過ごす意識が重要です。本シラバスは皆さん方のそのような自発的な学習における重要な情報源です。毎年、担当の教員による多少の手直しと内容の改善を行いながら今日のシラバスに整理されており、工学部の教育内容を一目で把握できます。教員による授業・指導と本シラバスの活用、そして最も重要である皆さん方の努力によって、4年後には皆さん方が学修目標を十分に達成され、立派なエンジニアとして社会に船出してもらうことを期待しています。

なお、シラバス作成時期と授業の実施時期の関係で、担当者等一部を変更することもあります。

平成 28 年 4 月

九州工業大学工学部

教員編成表

(工学部担当教員)

学 長 尾家 祐二 ・ 工学部長 芹川 聖一

(H 28.4.1 現在)

氏 名	職 名
人 間 科 学 科 目	
アブドゥハン恭子	教 授
虹 林 慶	教 授
本 田 逸 夫	教 授
水 井 万 里 子	教 授
ラックストン イアン.c	教 授
小 江 茂 徳	准教授
大 野 瀬 津 子	准教授
小 幡 博 基	准教授
児 玉 恵 美	准教授
反 町 裕 司	准教授
中 村 雅 之	准教授
八 丁 由 比	准教授
東 野 充 成	准教授
李 郁 蕙	准教授
ロング・ロバート	准教授
前 田 雅 子	講 師

目 次

図書館利用案内

I. 人間科学基礎科目

1. 人文社会系科目

哲学 I	1
哲学 I	1
哲学 I	2
哲学 II	2
哲学 II	3
倫理学 I	3
倫理学 I	4
倫理学 II	5
倫理学 II	6
歴史学 I	7
歴史学 I	8
歴史学 II	9
文学 I	10
文学 II	10
心理学 I	11
心理学 I	11
心理学 II	12
教育学 I	12
教育学 II	13
法学 I	14
法学 II	15
日本国憲法	16
日本国憲法	16
社会学 I	17
社会学 I	17
社会学 II	18
社会学 II	19
経済学 I	20
経済学 II	21
政治学 I	21
政治学 I	22
政治学 II	23
政治学 II	24
地域研究 I	24
地域研究 I	25
地域研究 II	26
地域研究 II	27
経営学 I	28
経営学 II	29
国際関係論	29
グローバルイシュー論	30
東アジア論	30
職業と社会	31
日本語表現法	31
哲学と現代 I	32
哲学と現代 II	32
西洋社会史 I・II	33

日本政治論 I	34
日本政治論 II	35
教育システム論	36
経営組織論	36
サステイナビリティ論	37
選択英語 I	38
選択英語 II	38
選択英語 II	39
選択日本事情 A	39
選択日本事情 B	40

2. 外国語系科目

(1) 英語

英語科目についての概要	41
英語 A I	42
英語 A II	42
英語 B I	43
英語 B I	43
英語 B I	44
英語 B I	44
英語 B I	45
英語 B I	45
英語 B I	46
英語 B II	46
英語 B II	47
英語 B II	47
英語 B II	48
英語 B II	48
英語 B II	49
英語 B II	49
英語 C I	50
英語 C I	50
英語 C I	51
英語 C I	51
英語 C I	52
英語 C I	52
英語 C I	53
英語 C I	53
英語 C I	54
英語 C I	54
英語 C I	55
英語 C I	55
英語 C I	56
英語 C I	56
英語 C I	57
英語 C I	57
英語 C II	58
英語 C II	58
英語 C II	59
英語 C II	59
英語 C II	60

英語CⅡ	60
英語CⅡ	61
英語CⅡ	61
英語CⅡ	62
英語CⅡ	62
英語CⅡ	63
英語CⅡ	63
英語CⅡ	64
英語CⅡ	64
英語CⅡ	65
英語CⅡ	65
英語DⅠ	66
英語DⅡ	66
選択英語Ⅰ	67
選択英語Ⅱ	67
選択英語Ⅰ	68
(2) ドイツ語	
初修外国語について	69
ドイツ語Ⅰ	69
ドイツ語Ⅰ	70
ドイツ語Ⅰ	70
ドイツ語Ⅰ	71
ドイツ語Ⅱ	71
ドイツ語Ⅱ	72
ドイツ語Ⅱ	72
ドイツ語Ⅱ	73
ドイツ語Ⅲ	73
ドイツ語Ⅲ	74
ドイツ語Ⅳ	74
ドイツ語Ⅳ	75
(3) 中国語	
中国語Ⅰ	76
中国語Ⅰ	76
中国語Ⅰ	77
中国語Ⅰ	77
中国語Ⅰ	78
中国語Ⅱ	78
中国語Ⅱ	79
中国語Ⅱ	79
中国語Ⅱ	80
中国語Ⅱ	80
中国語Ⅲ	81
中国語Ⅲ	81
中国語Ⅳ	82
中国語Ⅳ	82
実践中国語Ⅰ	83
実践中国語Ⅱ	83
(4) フランス語	
フランス語Ⅰ	84
フランス語Ⅰ	84
フランス語Ⅰ	85
フランス語Ⅱ	85
フランス語Ⅱ	86
フランス語Ⅱ	86
フランス語Ⅲ	87
フランス語Ⅲ	87
フランス語Ⅳ	88
フランス語Ⅳ	88
(5) 韓国語	
韓国語Ⅰ	89
韓国語Ⅰ	89

韓国語Ⅰ	90
韓国語Ⅱ	90
韓国語Ⅱ	91
韓国語Ⅱ	91
韓国語Ⅲ	92
韓国語Ⅲ	92
韓国語Ⅳ	93
韓国語Ⅳ	93

3. 保健体育系科目

保健体育系科目の概要	94
スポーツ運動学実技A	94
スポーツ運動学実技B	95
健康スポーツ科学論	95

4. リレー講義科目

2016年リレーセミナー	
「労働問題の歴史と現在」	96
テーマ別リレー講義	
文化-過去・現在-	96

II-1. 教職に関する専門教育科目

教職論	97
教育原理	97
教育心理学	98
教育社会学	99
工業教科教育法	100
教科教育法(数学)Ⅰ	101
教科教育法(数学)Ⅱ	101
教育課程論	102
特別活動の指導法	102
教育方法	103
生徒指導(進路指導を含む。)	103
教育相談	104
教職実践演習(高)	104

II-2. 工業の教科に関する専門教育科目

職業指導	106
------	-----

III. 人間科学科目(留学生)

留学生科目概要	107
日本語AⅠ	107
日本語AⅠ	108
日本語AⅡ	108
日本語AⅡ	109
日本語BⅠ	109
日本語BⅡ	110
日本語CⅠ	110
日本語CⅡ	111
日本事情A	111
日本事情B	112
日本事情C	112
日本事情D	113

図書館利用案内

<https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/>

◇ 開館日・開館時間

曜日	授業期間	春・夏・冬季及び 臨時休業期間	学期末試験期間 (試験1週間前から)
月曜日～金曜日	8:30 - 20:00	9:30 - 17:00	8:30 - 22:00
土曜日	11:00 - 19:00	休館	11:00 - 19:00
日曜日・祝日	休館	休館	11:00 - 19:00

※詳しくは図書館ウェブサイトをご確認ください。

◇ 入館

学生証が図書館利用者票を兼ねています。

入館の際は、学生証を入館ゲートに読み取らせてください。

◇ 借りる・返す・コピーする

資料を借りるときは、借りたい資料に学生証を添えてカウンターへお持ちください。自動貸出機でも手続きが可能です。

[貸出冊数・貸出期間]

学生用図書	研究用図書	雑誌	視聴覚資料
10冊・2週間		5冊・1週間	2巻・3日間

(夏季休業期間には長期貸出を行います。詳細は掲示やウェブサイトでお知らせします)

返すときは、図書館開館中はカウンターへ、閉館中は返却ポストへお返しくください。返却が遅れた場合、返却が完了するまで貸出停止となります。返却期限は必ず守ってください。

館内にコピー機を設置しており、著作権の範囲内で資料のコピーを取ることができます。コピー機の利用には、生協で販売されているコピーカードが必要です。

◇ 取り寄せる

- 本館一分館間図書取り寄せ（無料）

飯塚の情報工学部分館にある資料（雑誌不可）を取り寄せることができます。カウンターでお申し込みください。

- 文献複写・相互貸借（有料）

学内にない資料は、国内や海外の他の図書館等から複写物や図書を取り寄せることができます。（複写料・送料がかかります）

他キャンパスの資料の複写物を取り寄せることもできます。（複写料がかかります。）

◇ レファレンスサービス

資料の探し方や、図書館の利用方法などについて質問や相談に応じています。カウンターへ直接、またはメールでお尋ねください。

E-mail: tos-service@jimu.kyutech.ac.jp 電話 093 (884) 3074

◇ 図書館にない本の購入希望を出す

図書館に必要な本がないときは、購入希望を出すことができます。ウェブサイトのフォームから申し込むか、カウンターに「図書購入リクエスト」を提出してください。

◇ パソコン等の機器を使う

• パソコン・無線 LAN

パソコン 25 台を設置しています。また、無線 LAN (KIT-A, B) が利用できます。

利用には九工大 ID が必要です。

• 機器の貸出

ノートパソコン (22 台) iPad (20 台) 電子辞書 (3 台) が利用できます。カウンターで貸出手続きを行ってください。

※当日館内のみの利用になります。ネットワークは無線 LAN を利用してください。

◇ ラーニングコモンズ

可動式の椅子や机を組み合わせて学生の皆さんのニーズに合わせた学習空間を作り出すことができる「ラーニングコモンズ」を設置しています。授業やイベント、プレゼンテーション、ディスカッション等に利用できるほか、パソコンや AV 機器を使った自学自習も可能です。アクティブラーニングの場として各人に合った使い方を探してみてください。

• ラーニングコモンズサポーター

図書館の使い方のほか、学習や研究などのサポートをおこなう学生スタッフです。

- ラーニングコモンズを利用する学生の皆さんに自分の学習経験や専門分野を活かしてアドバイス
- OPAC やデータベースを使って図書館資料や論文を探すお手伝い
- PC の基本的な操作方法や Word、Excel、PowerPoint 他の操作についてお手伝い

• 学修支援室

教員が時間を決めて駐在して相談を受け付けています。

「授業についていけない」「課題が解けない」「試験が不安」etc……、そんなみなさんのために、学習支援室では、ベテランの先生方が一人ひとりの疑問に丁寧に対応いたします。勉強に不安を感じたら、まずは一度、足を運んでみてください。

◇ ウェブサービス

• マイライブラリ

マイライブラリは図書館の情報に関する、利用者個人のページです。便利な個人サービスが Web 上で利用できます。

利用には九工大 ID が必要です。

[マイライブラリでできること]

- 学外からの文献複写取り寄せや図書借用の申込
- 貸出中資料の予約・予約取消
- 借りている資料、予約している資料の状況照会
- 貸出期間の延長
- 登録した条件にあてはまる新着図書・雑誌の表示
- これまでに借りた資料の表示
- マイフォルダの利用

◇ 九工大図書館蔵書データベース検索 (OPAC)

九工大の図書館にある図書・雑誌・視聴覚資料、また電子ジャーナル等も検索できます。

◇ インターネット上で利用できる資料

九工大図書館では、紙の資料以外にも、インターネットを通じて以下のようなさまざまな資料を提供しています。

すべて図書館ウェブサイトからアクセスできます。

基本的に学内からのみのアクセスとなりますが、九工大 ID でログインすることで、一部を除き学外からも利用することができます。

- 電子ジャーナル 出版社別一覧：<https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/?q=list/ejournal>

電子ジャーナルとは、雑誌論文を電子化し、Web 上で全文を読むことができるようにしたものです。

Elsevier 社や Wiley 社などが発行する雑誌の論文を読むことができます。

- データベース 出版社別一覧：<https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/?q=list/database>

テーマに沿った雑誌論文や新聞記事、データを探すことができます。

- 電子ブック 出版社別一覧：<https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/?q=list/ebook>

電子版の書籍で、パソコンやスマートフォン、携帯読書端末などのディスプレイで読むことができます。

- ビデオ・オン・デマンド (VOD)

タイトルリスト：https://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/gakunaisenyovod_tobata/index.htm

ウェブ上で利用できる映像資料です。 ※学内利用限定

- 九州工業大学機関リポジトリ (Kyutacar) <https://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>

学内で生産された教育・研究成果情報を電子的に蓄積・保存し、無償で学内外に発信・提供するインターネット上のデータベースです。博士論文や教員の論文が収録されています。

学術情報と学習支援ツールの活用法

全学科 1年次 前期 工学基礎科目の「情報リテラシー」の時間に行う。

担当 1) 図書館：学術情報の探し方・集め方

附属図書館業務委託請負業者

2) 学習教育センター ICT 支援部門：e-ラーニング教材の使い方

学習教育センター ICT 支援部門 大西淑雅講師、山口真之介助教

アシスタント 附属図書館の業務委託請負業者及び図書館職員（4～5人）、TA

概要

1. 目的

- 1) 大学の学術情報基盤を支える図書館のサービスを理解し、信頼性のある情報へアクセスすることによって、質の高い学習や研究を行えるようになる。
- 2) 学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの体験学習を行うことによって、大学内の自主学習環境を活用する習慣を涵養する。

2. 方法

新入生を対象として、工学基礎科目の情報リテラシーの1コマ90分の時間の中で図書館における情報収集について説明・実習を行う。また、学習教育センター ICT 支援部門による学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの説明、紹介を行う。

- 1) 図書館：学術情報の探し方・集め方（60分）
- 2) 学習教育センター ICT 支援部門：学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの体験学習（25分）
- 3) 授業アンケート（5分）

3. 評価

講義終了後、各自で Moodle 上の小テストを受け、その正答率によって評価する。

授業計画

1. 学術情報の探し方・集め方（図書館）

- 1) 授業目的の説明
- 2) レポート作成の基礎知識
 - ・作文とレポートの違い
 - ・レポート・論文作成の手順
- 3) レポートで使える情報＝信頼性の高い情報について知る
 - ・ウェブ上の情報を使う時の注意点
 - ・図書館とウェブ上にある情報の違い
 - ・図書館で探せる情報の種類
- 4) 信頼性の高い情報を集める方法
 - ・図書と論文の違いを知る
 - ・検索ツールを使って、図書や論文を探す
 - ・「参考文献リスト」の見方・書き方
- 5) 課題の説明

2. 各種サービスと自主学習教材の使い方（学習教育センター ICT 支援部門）

1) 学習支援サービス（Moodle）の紹介

- 2014 年度新システム Moodle2.7 を用いた予習・復習の解説
- ID の取り扱いから Moodle の利用について動画教材をベースに解説
- Moodle の操作について実習
- PDF 版「学習支援サービスの手引き」の紹介

2) モバイル端末の活用

- Handbook サービス、インストール方法の説明
- 就職活動対策 SPI、情報処理技術者試験対策（Handbook4 サービスの利用）
- TOEIC アプリケーションの紹介
- 無線 LAN サービスの登録と利用法

3) 自主学習（e-ラーニング）とグループ学習の支援ツールの紹介

- 英語自主学習「ALC ネットアカデミー」の使い方
- Web 会議システムの使い方

4) 動画教材を用いた自主学習（復習）と Moodle による小テスト回答

- 講義終了後、Moodle を用いた小テストの受け方について学習する
- 情報倫理ビデオを講義時間外に視聴して、Moodle の小テストを受けてもらう
- 図書館サービスに関する Moodle の小テストを受けてもらう（回答期間 2 週間程度）
- 小テストの点数で評価する

3. 授業の進め方

端末室でのインターネットを利用した実習形式

教科書・参考書

図書館作成のテキスト・演習問題他、『参考文献の役割と書き方』他

備 考

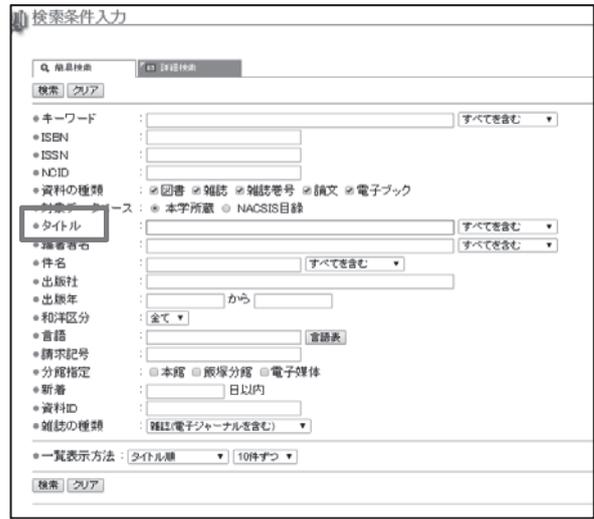
Moodle による授業アンケートを実施する。

附属図書館蔵書検索方法

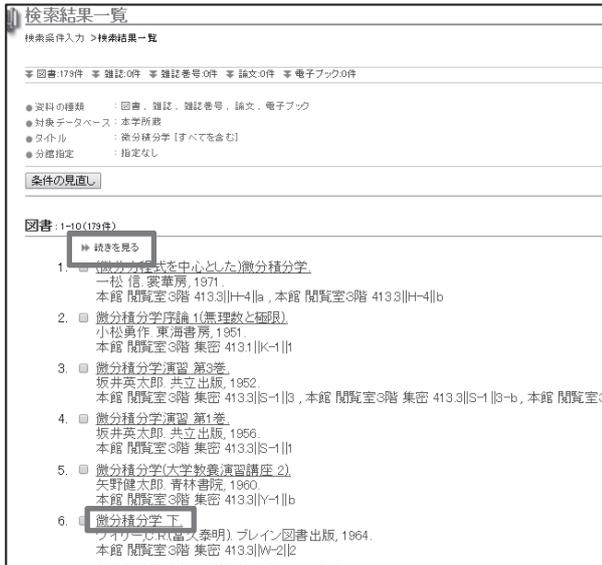
① 九州工業大学図書館ウェブサイトにて九州工業大学 OPAC をクリックする。



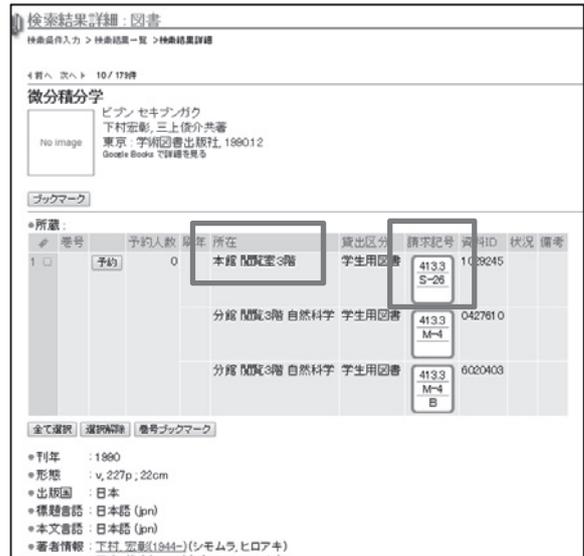
② 検索条件を入力する。



③ 探している図書ををクリックする。ない場合は「続きを見る」。



④ 所在・請求記号を確認する。



I. 人間科学基礎科目

(1) 人文社会系科目

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

2. 目標

1) 知識・理解

- 人間科学基礎科目・人文社会系の各選択必修科目において、多様な人間、社会及び文化に関して理解する。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「職業と社会」において、工学・技術が社会で果たす役割を理解する。
- G（グローバル教養）科目において、グローバル化を背景とした現代社会の技術者に不可欠な多様な文化、価値観についての理解を深める

2) 汎用的技能

- 副専門人間科学科目・上級科目の各選択科目において、問題解決に必要な論理的・批判的思考力、分析力、説明能力を修得する。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「日本語表現法」において、背景や文脈を理解して適切に説明できる日本語能力を修得する。

3) 態度・志向性

- 副専門人間科学科目・上級科目の各選択科目や、副専門人間科学科目・人間科学総合科目のテーマ別リレー講義及びリレーセミナー等において、自己を律する自己管理ができ、自発的な活動ができることを目指す。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「日本語表現法」において、人々と協調でき、個人の能力も発揮できることを目指す。
- G（グローバル教養）科目において多様な文化・価値観に寛容な態度・指向性を身につける

3. 科目の内容

- ・具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

4. 履修上の注意

- ・人間科学基礎科目・人文社会系の選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

ほとんど死語となりつつある「教養」概念について、現代、必要とされる内実をもっているか、考察する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

教養主義、旧制高校、反知性主義

3. 到達目標

- ・特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 大正教養主義
- 第2回 戦前の学制
- 第3回 阿部次郎
- 第4回 三木清
- 第5回 マルクス主義
- 第6回 河合栄治郎
- 第7回 岩波文化と講談社文化
- 第8回 新制大学
- 第9回 唐木順三
- 第10回 大学紛争
- 第11回 実用的教養？
- 第12回 サブカルチャーの位置
- 第13回 教養の退場
- 第14回 現代の教養
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義をよく聴きとって、ノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

筒井清忠『新しい教養を求めて』（中公叢書、2000年）本館
 閲覧室1階 002/T-7 研究用図書

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜2限）

●授業の概要

評論を「読み」かつ「考える」：高校までで「哲学」と名のつく授業を取った者はほとんどいないだろうが、じつは国語教科書の評論の中には、哲学的思考にかかわるものが少なくない。そうした評論を、試験勉強のためでなく、本格的に読みこなすことによって、哲学的思考のやり方を学ぶ。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

哲学的思考、読解

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1～2回 田中美知太郎「モームの哲学練習」
（『古典学徒の信条』）
- 第3～4回 鶴見俊輔「日本の哲学言語」（『記号論集』）
- 第5～6回 湯川秀樹「科学者の創造性」
（筑摩日本文学全集『現代評論集』）
- 第7～9回 会田雄次「ヨーロッパ・ヒューマニズムの限界」
（同）
- 第10～13回 中村光夫「近代を疑う」
- 第14回 小浜逸郎「人は何のために生きるのか」
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業時に取り上げた著者の他の評論にも目を通していただくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

3. 到達目標

・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。

・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

第1～2回 批判的・創造的思考

第3～5回 推論のやり方

第6回 レポート検討Ⅰ

第7～8回 因果的説明

第9～11回 表現の明確化

第12回 レポート検討Ⅱ

第13～15回 理由の評価

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。松永和紀著『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）141.5/F-5

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

哲学書はなぜ難解なのか

哲学の本は、なぜ難しいのだろうか。理解のしにくさ、難解さはどこから来るのだろうか。哲学の代表的古典を素材に、文化的差異、翻訳の問題、日本語の問題などを検討しつつ、哲学書の難解さの由来を探る。また、一般に「読むということ」はどのような営みなのかも考えてみたい。それゆえ、哲学の古典を素材に個々の哲学説を解説する講義ではないので注意すること。

●授業の目的

哲学の古典を読むことにより、難解さの由来、また一般に「わかる」とはどういうことか、「読む」とは、どのような行為なのかを理解する。

2. キーワード

西洋哲学、翻訳、日本語

3. 到達目標

・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。

・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

第1回 「分からない」とはどういうことか。

第2回 文化的背景の違い

第3回 翻訳の問題

第4回 日本語の問題

第5回 プラトン『パイドン』（1）

第6回 プラトン『パイドン』（2）

第7回 デカルト『省察』（1）

第8回 デカルト『省察』（2）

第9回 カント『純粋理性批判』（1）

第10回 カント『純粋理性批判』（2）

第11回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』（1）

第12回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』（2）

第13回 ハイデガー『存在と時間』（1）

第14回 ハイデガー『存在と時間』（2）

第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『プラトン全集』（岩波書店）131.3/P-5/1

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜2限)

●授業の概要

ほとんど死滅したかに思われる「知識人」について、その必要性、役割を考察する。

●授業の目的

現代における死の哲学的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

知識人、産業知識人、大衆

3. 到達目標

- ・特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 知識人の登場
 第2～5回 インテリゲンチヤ
 第6回 総合雑誌
 第7回 マルクス主義
 第8回 週刊誌の登場
 第9回 大宅壮一
 第10回 テレビの普及
 第11回 テレビ文化人の台頭
 第12回 知識人の溶解
 第13回 ネット言論
 第14回 知識人は絶滅したか？
 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義をよく聴き、ノートを作成すること。また、以下の参考図書、自宅学習に活用すること。

ボタン『知識人』（文庫クセジュ）。

本館 閲覧室1階 文庫 081/Q-1/340 学生用図書。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

倫理学Ⅰ Ethics Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

(月曜1限)

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、イデア、アウグスティヌス、キリスト教、唯一神、三位一体、西洋中世哲学、神の国、ローマの神々、ヴァロ、真の哲学者

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身につける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
 第2回 倫理学と哲学（2）
 第3回 倫理学と哲学（3）
 第4回 倫理学と哲学（4）
 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
 第8回 哲学とキリスト教
 第9回 西洋中世哲学
 第10回 アウグスティヌス著『神の国』全22巻についての概説
 第11回 『神の国』第1巻—自殺の問題
 第12回 『神の国』第2～5巻—キリスト教の神とローマの神々
 第13回 『神の国』第6～7巻—ヴァロ〔ウァルロ〕の説の批判
 第14回 『神の国』第8巻—真の哲学者（愛知者）は知恵なる神を愛する者である
 第15回 前期末試験
 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著／服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）132.1/A-8/1『神の国（二）』132.1/A-8/2

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2

アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2

アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a

宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19

田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7

西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/

田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1

藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1

アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30

山田晶著『アウグスティヌス講話』（講談社学術文庫）081/K-4/1186

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅰ EthicsⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、ソクラテス、プラトン、イデア、国家、正義、哲学者、哲人統治、「善」のイデア、太陽の比喩、線分の比喩

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 プラトン著『国家』第1～5巻の要旨（1）
- 第9回 『国家』第1～5巻の要旨（2）
- 第10回 『国家』第1～5巻の要旨（3）
- 第11回 『国家』第1～5巻の要旨（4）
- 第12回 『国家』第6巻—「哲学」のための弁明
- 第13回 『国家』第6巻—「善」のイデア、太陽の比喩
- 第14回 『国家』第6巻—線分の比喩
- 第15回 前期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（改版）（岩波文庫）131.3/P-30-2/1

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2

アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2

アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a

宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19

田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7

西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2

田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1

藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1

アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、イデア、アウグスティヌス、キリスト教、唯一神、三位一体、西洋中世哲学、神の国、ローマの神々、ヴァロ、真の哲学者、プラトン派（新プラトン派）

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身につける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 キリスト教と哲学
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』全22巻についての概説
- 第11回 『神の国』第1巻—自殺の問題
- 第12回 『神の国』第2～5巻—キリスト教の神とローマの神々
- 第13回 『神の国』第6～7巻—ヴァロ[ウォルロ]の説の批判
- 第14回 『神の国』第8～10巻—キリスト教と哲学
- 第15回 後期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著／服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）132.1/A-8/1『神の国（二）』132.1/A-8/2

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2

アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1

アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a

宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19

田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7

西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2

田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1

藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1

アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30

山田晶著『アウグスティヌス講話』（講談社学術文庫）081/K-4/1186

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、ソクラテス、プラトン、イデア、国家、正義、哲学者、哲人統治、「善」のイデア、太陽の比喩、線分の比喩、洞窟の比喩

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 プラトン著『国家』第1～5巻の要旨（1）
- 第9回 『国家』第1～5巻の要旨（2）
- 第10回 『国家』第1～5巻の要旨（3）
- 第11回 『国家』第6巻—「哲学」のための弁明
- 第12回 『国家』第6巻—「善」のイデア、太陽の比喩
- 第13回 『国家』第6巻—線分の比喩
- 第14回 『国家』第7巻—洞窟の比喩
- 第15回 後期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（改版）（岩波文庫）131.3/P-30-2/1『国家（下）』131.3/P-30/2

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2

アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1

アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a

宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19

田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7

西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b

田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1

藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1

アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

歴史学Ⅰ History I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「移民」「難民」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。人が生まれ育った地から移動する理由はいくつもある。歴史の中で、貧困や戦争、迫害から逃れ、多くの人々がグローバルに移動してきた。また、よりよい人生を求めて新天地に移動する人々、世界的に広がる貿易に従事しながらビジネスのために移動する人々もいる。移動した先での同化や包摂・排除の問題も、世界各地のマイノリティを取り巻く課題である。

●授業の目的

グローバル・ヒストリーの視角から、国境を越えた広域な人の移動を歴史的に検討し、現代にいたるまでの様々な事例を通して因果関係や変容過程の理解力、多様な文化への理解力を高める。調べめもと課題レポートの作成を通じて、歴史学の資料収集、情報整理、構成案作成、考察までの表現法を段階的に身につける。

●授業の位置づけ

暗記の必要はないので、高校の世界史の学習とは異なる学習方法を身につける必要が出てくる。調べめもについては図書館と連携した調査方法のガイドを授業内で行うので参考にすること。

2. キーワード

グローバル・ヒストリー、貧困、移動、ディアスポラ

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。
- ④グローバルな歴史観・世界観を身につける。
- ⑤調査学習により自律的・持続的学習の力をつける。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学の方法とテーマ設定
- ③移動と歴史
- ④ディアスポラ論
- ⑤テーマから探す情報の見つけ方（図書館）
- ⑥商業ディアスポラ
- ⑦セファルディン
- ⑧民族と移動
- ⑨レポート作成のための本の探し方（図書館）
- ⑩労働と移動
- ⑪女性と移動
- ⑫鉱山と移動
- ⑬移動と人権
- ⑭課題：現代の移動
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足的に説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振り返る。課題レポートは学期末に提出する。

- ・成績評価レポート①レポート40%②期末テスト60%。
60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

第1回目の授業で注意点を述べます。歴史学は暗記を必要とする学習ではなく、歴史的な事例とその背景の理解とを結びつける力、調査・表現の力が必要な学問分野です。レポートや論述テストで成績評価が決まります。レポート作成に向けて、授業内で図書館を利用した文献調査のスキルやレポートの書き方も学びます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

レポートについては学期を通して、自分で決めたテーマのもと、授業外の時間に自分のペースで情報収集・図書検索・資料整理・レポート構成案作成・執筆・図表の挿入という作業を行っていきます。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しません。参考書は授業内で指示します。

9. オフィスアワー

質問は授業の前後か、下記にメールで受け付ける。

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

歴史学 I History I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 宮浦 崇

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

グローバル化が進む現代にあって、自らの暮らす「国」「地域」についての歴史的な知識を持っていること、および自らの見解を交えて話題化できることは、グローバルなコミュニケーションを促進する上で重要なだけでなく、世界の中に自分自身を位置付ける際の重要な素材を獲得することでもある。本講義では、日本の近代化の歴史の変遷を追う。現代の諸課題を考察する際の基盤として存在する歴史的前提を確認する作業でもある。

●授業の目的

この授業では、歴史的な観点から、日本の明治維新前後から太平洋戦争敗戦前後までの期間の事象について広く取り扱う。日本の「近代化」のプロセスを概観し、各々考察を加えることを通じて、現在我々が生きる時代の諸課題との関連性や、世界的な視野で日本を位置付ける際の素材を受講者が獲得することを目的としている。

●授業の位置づけ

本授業は「歴史」という素材を通して、調べものや発表を取り入れながら、自分自身で問題探求できるような力をつけることができる。また、世界的な近代化の流れの中に日本の近代化を位置付けることで、グローバルな歴史的世界観の獲得に寄与する。将来的な視野の広がり、キャリアにつながる持続的な学習の力をつけることができる。

2. キーワード

日本近代史、社会政策、地域の歴史、殖産興業

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。
- ④グローバルな歴史観・世界観を身につける。
- ⑤調査学習により自律的・持続的学習の力をつける。

4. 授業計画

- ①受講にあたってのガイダンス、講義の全体像について
- ②「近代」について考える（1）「近代」とは「近代化」とは
- ③「近代」について考える（2）世界の中の「日本」の位置
- ④「翻訳」を通しての知識移入（1）
- ⑤「翻訳」を通しての知識移入（2）
- ⑥明治・大正期の政治・経済・文化（1）
- ⑦明治・大正期の政治・経済・文化（2）
- ⑧明治・大正期の政治・経済・文化（3）
- ⑨殖産興業と北部福岡地域（1）
- ⑩殖産興業と北部福岡地域（2）
- ⑪日本の近代化と九工大の歴史
- ⑫昭和（戦前期）の政治・経済・文化（1）
- ⑬昭和（戦前期）の政治・経済・文化（2）
- ⑭昭和（戦前期）の政治・経済・文化（3）
- ⑮講義総括

※受講人数や進度に応じて変更することがあります。

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式と受講者同士のディスカッション形式の混合で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。Moodle等のオンラインシステムの利用をすることがあるが、利用に際しては説明を行う。授業内課題の作成や、確認テストを実施することがある。

●成績評価

- 小課題・発表等 30%
中間レポート 20%

期末テスト 50%

6. 履修上の注意事項

特定の教科書は使用しない。配布資料等は可能な限りオンライン（電子媒体）で提供するので、履修にあたっては、Moodle等のコースツールを使用する。使用にあたってはガイダンスをおこなう。

授業は講義形式とグループ（あるいは2、3人）の対話形式でのワークの混合形式で実施するため、授業教室の変更が発生することがある。掲示やオンラインツールの連絡には注意すること。

また文献等の調査を必要とするので、図書館での調査や資料講読（ライブラリリサーチ）について取り上げる時間を設ける。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前の配布資料はかならず一読の上で授業に出席すること。またオンラインツール等によって授業のキーワード提示や事前の予習の指示をおこなった場合、事前にある程度のリサーチをおこなうこと。それら前提に授業を進行することがある。

8. 教科書・参考書

参考文献

柳文章『翻訳語成立事情』岩波書店、1982年。081/I-2-3/189

9. オフィスアワー

歴史学Ⅱ History Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」（15世紀末から18世紀）という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ（茶）の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

2. キーワード

グローバル・ヒストリー、交易史、社会史、モノの歴史学

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。
- ④グローバルな歴史観・世界観を身につける。
- ⑤調査学習により自律的・持続的学習の力をつける。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは？スパイスと世界商業
- ③理論
- ④ポルトガル・スペインの海洋進出
- ⑤テーマから探す情報の見つけ方（図書館）
- ⑥ヨーロッパ外交の展開
- ⑦オランダ・イギリスと世界商業
- ⑧ヨーロッパ各国の東インド会社
- ⑨レポート作成のための本の探し方（図書館）
- ⑩紅茶・コーヒー・砂糖
- ⑪イギリスの紅茶文化
- ⑫大量消費と植民地生産
- ⑬帝国の揺らぎ
- ⑭植民地：過去・現在
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足的に説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて内容を振り返る。課題レポートは学期末に提出する。

- ・成績評価①レポート40%②期末テスト60%。
60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

第1回目の授業で注意点を述べます。歴史学は暗記を必要とする学習ではなく、歴史的な事例とその背景の理解とを結びつける力、調査・表現の力が必要な学問分野です。レポートや論述テストで成績評価が決まります。レポート作成に向けて、授業内で図書館を利用した文献調査のスキルやレポートの書き方も学びます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

レポートについては学期を通して、自分で決めたテーマのもと、授業外の時間に自分のペースで情報収集・図書検索・資料整理・レポート構成案作成・執筆・図表の挿入という作業を行っていきます。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しません。参考書は授業内で指示します。

9. オフィスアワー

質問は授業の前後か、下記にメールで受け付ける。

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

文学Ⅰ Literature I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置付け

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

文体論・物語論・テーマ論

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。文学の言語表現について
 第2回 村上春樹『ふわふわ』
 第3回 新美南吉『ごんぎつね』
 第4回 宮沢賢治『やまなし』
 第5回 宮沢賢治『オツベルと象』
 第6回 太宰治『走れメロス』
 第7回 魯迅『故郷』
 第8回 森鷗外『舞姫』
 第9回 樋口一葉『たけくらべ』
 第10回 夏目漱石『こころ』
 第11回 芥川龍之介『羅生門』
 第12回 宮沢賢治『永訣の朝』
 第13回 中島敦『山月記』
 第14回 安部公房『赤い繭』
 第15回 試験
 第16回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80％）出席および授業への積極的状況（20％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回出席を取ることで、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習として教科書の輪読があるので、読めない漢字を調べておく。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

8. 教科書・参考書

- 教科書
『文学の力』花書院
- 参考書
授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日昼休み

備考

九州女子大学人間科学部荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

文学Ⅱ Literature II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と思考力を高める。

●授業の位置付け

毎回、宮沢賢治の作品を輪読し、作品の読解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

読解力・思考力・表現力

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。文学の言語表現について
 第2回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(一)
 第3回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(二)
 第4回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(三)
 第5回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(四)
 第6回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(五)
 第7回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(六)
 第8回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(七)
 第9回 宮沢賢治『注文の多い料理店』(八)
 第10回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(一)
 第11回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(二)
 第12回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(三)
 第13回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(四)
 第14回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(五)
 第15回 試験
 第16回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80％）出席および授業への積極的状況（20％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回出席を取ることで、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習として教科書の輪読があるので、読めない感じを調べておく。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

8. 教科書・参考書

- 教科書
『宮沢賢治』（花書院）
- 参考書
授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日昼休み

備考

九州女子大学人間科学部荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

心理学 I Psychology I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1・2 年次

学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

(月曜 1 限)

●授業の目的

さまざまな心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私達がそれらの問題にどのように対応したらよいかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

2. キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

3. 到達目標

①自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。

②心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

4. 授業計画

1 回 オリエンテーション・心の健康とは?

2 回 青年期を生きる①

3 回 青年期を生きる②

4 回 青年期を生きる③

5 回 ストレス

6 回 心身症

7 回 神経症

8 回 人格障害 (境界例)

9 回 うつ病

10 回 統合失調症

11 回 その他の精神病理①

12 回 その他の精神病理②

13 回 心の健康を保つために①

14 回 心の健康を保つために②

15 回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 80%、レポート 20%で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学 (第 2 版)』(2013) サイエンス社 140/E-7/2

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理学 第 2 版』(2006) ナカニシヤ出版 146/K-8/2

9. オフィスアワー

月曜日 4 限目

心理学 I Psychology I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 2・3 年次

学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

(金曜 2 限)

●授業の目的

さまざまな心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私たちがそれらの問題にどのように対応したらよいかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

2. キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

3. 到達目標

①自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。

②心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

4. 授業計画

1 回 オリエンテーション・心の健康とは?

2 回 青年期を生きる①

3 回 青年期を生きる②

4 回 青年期を生きる③

5 回 ストレス

6 回 心身症

7 回 神経症

8 回 人格障害 (境界例)

9 回 うつ病

10 回 統合失調症

11 回 その他の精神病理①

12 回 その他の精神病理②

13 回 心の健康を保つために①

14 回 心の健康を保つために②

15 回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 40%、レポート 60%で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』(第 2 版) (2013) サイエンス社 140/E-7/2

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理学 (第 2 版)』(2006) ナカニシヤ出版 146/K-8/2

9. オフィスアワー

月曜日 4 限目

心理学Ⅱ Psychology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の目的

性格が、内的要因・外的要因・自己形成の要因など、さまざまに影響し合って作られ変化していくことを知り、自分や他者に対しての理解を深める。

●授業の位置づけ

自分らしさはどのように作られているのだろうか。はじめに代表的な理論を通して、性格に関する基礎的な知識を学ぶ。また、他者との関わり、文化との交わりがどのように自分らしさに影響を及ぼしているのかについて、身近な事象を取り上げ体験的な理解を促す。

2. キーワード

性格、心理検査、人間関係、文化、性

3. 到達目標

- ①自分の性格について自己理解を深めることができる。
- ②自分の周りの人について理解を深めることができる。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 性格理解の方法
- 3回 性格に関する諸理論
- 4回 人格検査
- 5回 性格の形成要因
- 6回 ライフサイクル
- 7回 親子・家族関係
- 8回 さまざまな人間関係
- 9回 コミュニケーションに現れる性格
- 10回 性格の変化①
- 11回 性格の変化②
- 12回 文化と性格①
- 13回 文化と性格②
- 14回 性役割
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 80%、レポート 20%で評価する。
 60点以上で合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明『はじめてふれる心理学』（第2版）（2013）サイエンス社 140/E-7/2

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊共著『性格心理学への招待』（改訂版）（2003）サイエンス社 141.9/T-12/2

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 4限目

教育学Ⅰ Pedagogy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

（月曜2限）

●授業の目的

家族と子どもに焦点を合わせる。子どもにとって家族とは決して情愛の場のみではない。そもそも、「子をなす」という点からして、繰り返される中絶と日進月歩で進歩する生殖技術に象徴されるように、現代社会では様々な価値観が交錯している。また、たとえこの世に生まれ落ちたとしても、児童虐待や貧困によって生命・身体が危機にさらされる子どもも後を絶たない。

さらに、こうしたミクロな問題だけでなく、少子化や家庭の経済格差、家族政策など、家族と子どもはマクロな社会問題でもある。本講義では、こうした諸事情に焦点を合わせ、現代社会における家族と子どもの諸問題について講義する。

●授業の位置づけ

本講義では、臨床社会学という立場から家族と子どもの問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題や社会問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

中絶、生殖技術、少子化、児童虐待、格差、貧困、家族政策

3. 到達目標

- ①現代日本の家族と子どもの問題に関する理解を深める。
- ②問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な言説を相対化する視点を得る。
- ③中間テスト及びレポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 胎児とは何者なのか？
- 3回 生殖技術のポリティクス
- 4回 子どもが減って何が悪い！
- 5回 児童虐待論Ⅰ
- 6回 児童虐待論Ⅱ
- 7回 児童虐待論Ⅲ
- 8回 中間テスト
- 9回 家庭教育と格差社会
- 10回 子どもの貧困Ⅰ
- 11回 子どもの貧困Ⅱ
- 12回 現代の家族政策
- 13回 ワーク・ライフ・バランス
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%
 期末レポート 50%

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。

③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①開講期間中に下記参考文献を一読すること。
- ②子ども問題に関する最新の動向を把握するため、講義期間中には新聞等を講読すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

増田雅暢『これでいいのか少子化対策』ミネルヴァ書房 334.3/M-7

上野加代子ほか『児童虐待のポリティクス』明石書店 367.6/U-3

阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波書店 081/I-2-4/1157-2

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ Pedagogy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

（月曜2限）

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観、日本国憲法、子どもの権利条約、自己決定権

3. 到達目標

- ①子どもの相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
- ③自分の意見を的確に表現できるようにすること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 ガイダンス
- 2回 子どもの権利条約
- 3回 校則問題
- 4回 公教育と宗教
- 5回 法の下での平等と教育
- 6回 内申書開示請求事件
- 7回 教育権論争
- 8回 中間テスト
- 9回 体罰
- 10回 学校事故
- 11回 いじめ自殺
- 12回 淫行規制
- 13回 メディア規制
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%

期末レポート 50%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①開講期間中に下記参考文献を一読すること。

②子ども問題に関する最新の動向を把握するため、講義期間中には新聞等を講読すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版 367.6/H-3

佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社 373.2/S-8

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学Ⅰ Introduction to Japanese Law I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の中で、特に重要な法律の存在や仕組みを知りその基本的な考え方を理解し、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

- ①日常生活を規律する法の仕組みや役割、基本原則を知る。
- ②法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得する。
- ③社会における人間関係の有るべき姿を考えることができるようになる。

4. 授業計画

第1回 法学を学ぶために

第2回 憲法の役割と基本原則を知る①

—最高法規、個人の尊厳、基本的人権

第3回 憲法の役割と基本原則を知る②

—国民主権、権力分立、違憲審査制

第4回 民法の役割と基本原則を知る①

—私的自治、所有権の絶対、過失責任

第5回 民法の役割と基本原則を知る②

—公共の福祉、信義則、権利濫用

第6回 刑法の役割と基本原則を知る①

—罪刑法定主義、犯罪の要件

第7回 刑法の役割と基本原則を知る②—刑罰、刑事手続き

第8回 刑法の役割と基本原則を知る③

—裁判員制度、刑事責任と民事責任

第9回 法の特性、構造と機能を知る①

—社会規範、法規範の特性

第10回 法の特性、構造と機能を知る②

—社会統制、活動促進、紛争解決、法源

第11回 判例の読み方を知る

—判例の意味、判例集、判例の読み方・調べ方

第12回 判例を読む①—事実の概要、判旨、判例部分の抽出

第13回 判例を読む②—判例と学説、判例研究の意味

第14回 法律の視点から社会を読む

第15回 試験

第16回 解説・まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前にレジュメを配布しますので、教科書の該当部分を読んで講義に参加してください。上記「履修上の注意事項」記載のとおり、講義後のノートづくりを通じて理解を深めてください。

8. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 佐藤幸治他著『法律学入門』(第3版補訂版)有斐閣 321/S-6/3-2
- 2) 石川他編集代表『法学六法 '16』信山社 ISBN: 9784797257397

●参考書

- 1) 中川善之助著 泉久雄補訂『法学』(補訂版)日本評論社 321/N-8/2
- 2) 五十嵐清著『法学入門』(第4版)悠々社 ISBN: 9784862420312
- 3) 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法』(第6版)(岩波書店、2015年) ISBN: 9784000227995 (第4版) 323.1/A-10/4
- 4) 川井健『民法概論 1 民法総則』(第4版)有斐閣 324/324/K-2/1-4
- 5) 井田良著『基礎から学ぶ刑事法』(第5版)有斐閣 ISBN: 9784641220140

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

法学Ⅱ Introduction to Japanese Law Ⅱ

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目) 学年: 1・2 年次
 学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

(月曜1限)

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の中で、特に家族関係に関する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

家族共同生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、家族の一員として要求される素養を身につけ、家族関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、婚姻、離婚、親子、相続

3. 到達目標

- ① 家族関係を規律する法の存在や仕組みを知る。
- ② 法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得する。
- ③ 家族における人間関係の有るべき姿を考えることができるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 法学を学ぶ意味、家族の機能
- 第2回 家族法の独自性、家族法を学ぶための基礎知識
- 第3回 婚約、内縁
- 第4回 婚姻の成立
- 第5回 婚姻の効果①—一般的な効果
- 第6回 婚姻の効果②—財産関係
- 第7回 離婚制度
- 第8回 離婚の成立
- 第9回 離婚の効果
- 第10回 親子関係①—実親子
- 第11回 親子関係②—養親子関係
- 第12回 親権制度、後見制度、扶養の制度
- 第13回 法定相続制度
- 第14回 遺言相続制度
- 第15回 試験
- 第16回 解説・まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

事前に簡単なレジュメを配布しますので、教科書の該当部分を読んで講義に参加してください。上記「履修上の注意事項」記載のとおり、講義後のノートづくりを通じて理解を深めてください。

8. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 松川正毅著『民法 親族・相続』(第4版)有斐閣 ISBN: 9784641220300
- 2) 石川他編集代表『法学六法 '16』信山社 ISBN: 9784797257397

●参考書

- 1) 泉久雄著『親族法』有斐閣 ISBN: 4641038678
- 2) 中川善之助、泉久雄著『相続法 法律学全集』(第4版)有斐閣 ISBN: 4641007748
- 3) 有地亨『新版家族法概論』(補訂版)法律文化社 ISBN: 4589028255
- 4) 川井健『民法概論 5 親族・相続』有斐閣 ISBN: 9784641134867

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜2限）

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて、日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。憲法とは何なのか、何のために存在するのかということを理解した上で、国家や社会とのかわり方を考えていかなければなりません。

●授業の目的

憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意義や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなります。我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材を与えることができると思います。

2. キーワード

個人の尊厳、基本的人権、平和主義、民主主義

3. 到達目標

- ①憲法とは何か、その存在意義と役割を理解する。
- ②人権保障に関する基本的な知識を身につける。
- ③憲法問題の解決の仕方を通じて、国や社会とのかわり方について主体的に考えることができるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意義・特質
- 第3回 国民主権の原理
- 第4回 平和主義
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・幸福追求権
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済活動の自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 国家統治の機構①—国会
- 第13回 国家統治の機構②—内閣
- 第14回 憲法と死刑制度②—裁判所
- 第15回 試験
- 第16回 全体のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。なじみのない用語や言い回しが出てくるありますが、慣れるように心がけてください。政治問題や社会問題、国際情勢など関心を持ちながら受講すると効果的です。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を中心に講義内容を十分理解するよう心掛けてください。講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしましょう。

8. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 伊藤正巳 著 憲法入門〔第4版補訂版〕有斐閣 323.1/I-17
- 2) 石川他 編集代表『法学六法 '16』信山社 ISBN: 9784797257397 (2009年版) 320.9/I-1/09 (2010年版) 320.9/I-1/10

●参考書

- 1) 芦部信喜（高橋和之 補訂）『憲法』（第5版）（岩波書店）ISBN: 9784000227810
- 2) 長谷部恭男『憲法』（第6版）新世社 ISBN: 9784883842186
- 3) 伊藤正巳『憲法』（第3版）弘文堂 ISBN: 9784335300578

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜2限）

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて、日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。憲法とは何なのか、何のために存在するのかということを理解した上で、国家や社会とのかわり方を考えていかなければなりません。

●授業の目的

憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意義や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなります。我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材を与えることができると思います。

2. キーワード

個人の尊厳、基本的人権、平和主義、民主主義

3. 到達目標

- ①憲法とは何か、その存在意義と役割を理解する。
- ②人権保障に関する基本的な知識を身につける。
- ③憲法問題の解決の仕方を通じて、国や社会とのかわり方について主体的に考えることができるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意義・特質
- 第3回 国民主権の原理
- 第4回 平和主義
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・幸福追求権
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済活動の自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 国家統治の機構①—国会
- 第13回 国家統治の機構②—内閣
- 第14回 憲法と死刑制度②—裁判所
- 第15回 試験
- 第16回 全体のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。なじみのない用語や言い回しが出てくるありますが、慣れるように心がけてください。政治問題や社会問題、国際情勢など関心を持ちながら受講すると効果的です。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を中心に講義内容を十分理解するよう心掛けてください。講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしましょう。

8. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 伊藤正巳 著『憲法入門』（第4版補訂版）有斐閣 323.1/I-17
- 2) 石川他 編集代表『法学六法 '16』信山社 ISBN: 9784797257397 (2009年版) 320.9/I-1/09 (2010年版) 320.9/I-1/10

●参考書

- 1) 芦部信喜（高橋和之 補訂）『憲法』（第5版）（岩波書店、2011年）ISBN: 9784000227810
- 2) 長谷部恭男『憲法』（第5版）（新世社、2011年）ISBN: 9784883841684 ISBN: 9784883842186（第6版）
- 3) 伊藤正巳『憲法』（第3版）弘文堂 ISBN: 9784335300578

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

社会学 I Sociology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 森 康司

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

社会をつくりだしているのは私たちである。同時に、私たちの考え方や感じ方も、社会に規定されているともいえる。私たちをとりかこむ「環境」である社会は、多くの場合はそれと意識されることなく、人々に特定の行為をさせたり、行為をさせないように誘導する。

社会学は、こうした社会のとらえがたい影響力を、独自の概念や方法によってとらえようとする学問である。社会学の観点から見れば、私たちは社会的環境から多くを与えられつつ、みずから社会のいろいろな側面を成り立たせていくという、循環的な関係のなかに生きている。

こうした循環的な関係を目に見える形で（社会的に）とらえることは、変化の激しい現代社会を生きる上で、なんらかの形で有益な準拠点となるだろう。

●授業の目的

社会学の基本的な考え方について理解し、日常生活で生起する何気ない現象から、現代社会の諸問題まで社会的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会規範、社会化、地位と役割、基礎集団と機能集団、官僚制の逆機能、格差社会、記号的消費、少年犯罪、非婚化、草食化の虚実

3. 到達目標

- ①社会的なものの方・考え方について理解する。
- ②社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説する力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：「社会」とは
- 第2回 社会学の歴史
- 第3回 行為論
- 第4回 相互作用論
- 第5回 集団論
- 第6回 官僚制組織
- 第7回 科学的管理法①
- 第8回 科学的管理法②映画『Modern Times』
- 第9回 階級と階層
- 第10回 社会移動
- 第11回 消費社会論①
- 第12回 消費社会論②
- 第13回 現代若者論①
- 第14回 現代若者論②
- 第15回 現代若者論③

5. 評価の方法・基準

原則として、期末試験（80%）、出席状況（15%）、その他受講態度など（5%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

社会現象や現代人の生き方に関心がある人は、「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても十分参加できる学問である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

社会学の入門書を一冊は探して読んでみる。また、配布の復習を行うこと。

8. 教科書・参考書

適宜、プリントを配布する。

9. オフィスアワー

質問等は講義中、講義終了後に受けつける。

備考

内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

社会学 I Sociology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 山本 努

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

近代化、産業化によって、我々の暮らしは大きく変化した。このように変化した「現代社会」を解説するのが社会学という学問の営みである。いいかえれば、社会学は「私たちがなぜ、いまあるように振る舞い、いまあるように暮らすのか」について考える学問である。社会学を学ぶことを通して、「社会」という問題領域の面白さについて気づいてほしい。

●授業の目的

社会学の入門的な考え方が理解できるようになることを目指す。特に「家族」や「地域」などの身近な生活領域から、現代社会を考えるための基礎知識を身につける。

●授業の位置づけ

これは金曜日の2限に開講される選択必修であるが、「社会学」の初級・中級レベルとして位置づけられる。

2. キーワード

行為と構造、社会と文化、集団と組織、家族、都市と農村、など

3. 到達目標

- ①社会的なものの方・考え方について理解する。
- ②「行為・構造」「集団・文化」「家族」「地域社会」「都市化、過疎化」「高齢化、少子化」「近代化、産業化、グローバル化」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 社会学の基本的な考え方の紹介。
- 第2回 文化（1）：
文化とは何か。文化の三次元と文化の定義・本質。
- 第3回 文化（2）：
文化の多様性と共通性。文化のグローバリゼーション。
- 第4回 社会（1）：社会とは。微視的世界と巨視的世界。
- 第5回 社会（2）：制度、社会構造という考え方。
- 第6回 集団（1）：集団とは何か。内集団と外集団。大きな集団と小さな集団。
- 第7回 集団（2）：第一次集団と第二次集団。
- 第8回 家族（1）：人間にとって家族が重要であるという事についてのいくつかの学説。
- 第9回 家族（2）：現代家族の特質、家族類型、家族変動についての基礎知識。
- 第10回 都市（1）：種々の都市概念。都市とは何か。
- 第11回 都市（2）：
日本社会における都市化・産業化をめぐる問題。
- 第12回 農山村（1）：
現代社会における農業・農山村の重要性について。
- 第13回 農山村（2）：過疎農山村の現状と問題
- 第14回 「現代社会」を解説するために：社会学の方法、社会学の視点。
- 第15回 まとめ：授業で取り上げた内容から重点項目を解説する。

5. 評価の方法・基準

期末試験（85%）、出席（15%）で評価する。
 100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業時間外では講義の内容を整理した上で、適宜紹介する文献を参考にしながら、理解を深める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

・授業外学習で読むべき参考文献は教科書に示してあるので、授

業中に紹介する。

- 教科書を用いて授業するので、教科書の当該箇所を使っての復習を求める。
- 前もって教科書や参考資料を読んでくる必要がある時は、予習の指示を授業にておこなう。
- その他、適宜、文献を紹介するので、授業外での学習に役立てて欲しい。

8. 教科書・参考書

●教科書

山本努・辻正二・稲月正『現代の社会学的解説：イントロダクション社会学』学文社 361/Y-13

その他については、講義中に紹介する。

9. オフィスアワー

講義中、授業終了後の時間などに質問等は受け付ける。

備考

内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

社会学Ⅱ Sociology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 園田 浩之

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離において眺めていくやり方にはいくつかのヴァリエーション（選択肢）がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段（日常）がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方（社会学的想像力）と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会」というもののリアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想（その独自性と豊かさ）にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」（より豊かで、柔軟で、批判的な見方）に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的」に捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。本講義では、とくにブーム・流行などの消費文化と、現代人の自己意識の問題を取り上げつつ、身近で具体的な文化・社会現象を考察していく。社会学の目をとおして、「日常」を再発見し、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義になればと思う。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。関連する学習としては、社会学Ⅰ（前期）を中心に、広く人間科学系の講義全般。教育目標は、社会学的なものの見方と思考のセンスを、社会学以外の領域を専攻する（理科系の）受講者に身につけてもらうこと。

2. キーワード

消費文化（ブーム・流行・欲望）、豊かさ、ファッション、現代人の自己意識、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方に親しみ、その意義（性能）を理解できるようになること。とりわけ、「日常」への批判的な視点（別の見方／複眼的な見方）の意義を理解できるようにすること。
- ②自己理解を深めつつ、それが他者理解へとつながっていくような思考（と想像力）の回路を受講者各自のうちに開いていくこと（と同時に、普段の生活においてそのような回路を見出しづらい理由・背景についても、社会学の視点から考察できるようにすること）。
- ③不確かで見通し難い「社会の現在」を、身近な事柄との関係においてイメージし、そこに生きる「私」たちの豊かさや空虚さ（あるいは、自由さと不自由さ）の両方に触れる感受性と思考力を涵養すること。

4. 授業計画

- 第1回 社会学を学ぶ／社会学で学ぶ 社会学的想像力に向けて
- 第2回 複眼的思考としての社会学
（あたりまえな日常を問い直す別な見方へ）
- 第3回 消費社会としての現代社会① 消費社会（論）とは何か？
- 第4回 消費社会としての現代社会② 「欲しい」のつくられ方
（ブームと欲望の社会学）
- 第5回 消費社会としての現代社会③

「豊かな社会」とその空虚さ

- 第6回 ファッションを考える／ファッションから考える①
「着ること」をめぐる社会学のロジックとトピック 自然／文化を超えて
- 第7回 ファッションを考える／ファッションから考える②
「着ること」から考える社会の現在 模倣／個性を超えて
- 第8回 消費する自己／消費される自己（現代人の「自己」をめぐる社会学① 消費社会の中の「私」たち／個性消費・浪費の時代？）
- 第9回 消費する自己／消費される自己（現代人の「自己」をめぐる社会学② モノ語る人々の現在／モノ離れの若者たち）
- 第10回 消費社会の中の身体・自己・他者①
「自分らしさ」の社会学／商品化される個性
- 第11回 消費社会の中の身体・自己・他者②
「美しさ」の社会学／美容整形からダイエットまで
- 第12回 選ぶのは私／選ばれるのも私①
消費社会とアイデンティティの自由
- 第13回 選ぶのは私／選ばれるのも私②
消費社会とアイデンティティの不安
- 第14回 「豊かな」社会の（不）幸せと（不）自由
豊かさのパラドクス
- 第15回 消費社会の果て（外）？
豊かさの中の不安／不安の中の豊かさ

5. 評価の方法・基準

（講義への一定の出席と参加を条件としたうえで）、講義中のコメントペーパー＆小レポートなど（10%）、学期末試験（90%）によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

何気ない日常（の成り立ち）を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい（あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む）。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義ごとの配布資料（＋講義中にとった自身のメモやノート）を、講義内容をふりかえりながら、丁寧に読み返すこと。そのとき改めて「わからないこと」や「質問したいこと」「さらに知りたいこと」などが生じたら、次回の講義で遠慮なく質問して欲しい。次回の講義までにこうした事後学習を行うことは、そのまま有意義な事前学習にもなる（ように、講義をデザインしてある）。

8. 教科書・参考書

テキストは使用しない（講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやビジュアルな資料を交えつつ、講義を進める）。また、講義で扱う事柄（テーマ）に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進行に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができるとも思う。

9. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に（あるいは講義中にも）、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

備考

内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

社会学Ⅱ Sociology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 園田 浩之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離において眺めていくやり方はいくつかのヴァリエーション（選択肢）がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段（日常）がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方（社会学的想像力）と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会」というもののリアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想（その独自性と豊かさ）にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」（より豊かで、柔軟で、批判的な見方）に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的」に捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。本講義では、とりわけ、現代社会における「自己」のありよう（と変容）、アイデンティティの問題、他者とのかかわり（（ディス）コミュニケーション）に関した素材を選び、身のまわりにある具体的な文化現象を取り上げながら、社会の現在を生きる人々（とくに若者）の自由と不自由を描き出してみたい。社会学をつうじた「日常（ふだん）」の再発見によって、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義になればと思う。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにいくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。関連する学習としては、社会学Ⅰ（前期）を中心に、広く人間科学系の講義全般。教育目標は、社会学的なものの見方と思考のセンスを、社会学以外の領域を専攻する（理科系の）受講者に身につけてもらうこと。

2. キーワード

社会の現在と自己（アイデンティティ）、ポストモダン（現代）、（ディス）コミュニケーション、生きづらさ、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方に親しみ、その意義（性能）を理解できるようになること。とりわけ、「日常」への批判的な視点（別の見方／複眼的な見方）の意義を理解できるようにすること。
- ②自己理解を深めつつ、それが他者理解へとつながっていくような思考（と想像力）の回路を受講者各自のうちに開いていくこと（と同時に、普段の生活においてそのような回路を見出しづらい理由・背景についても、社会学の視点から考察できるようにすること）。
- ③不確かで見通し難い「社会の現在」を、身近な事柄との関係においてイメージし、そこに生きる「私」たちの豊かさや空虚さ（あるいは、自由さと不自由さ）の両方に触れる感受性と思考力を涵養すること。

4. 授業計画

- 第1回 社会学的想像力のために
- 第2回 あたりまえをみるために
- 第3回 「日常世界」と「私」の成り立ち
- 第4回 現代社会における自己
（アイデンティティをめぐる社会学的な問題①）

- 第5回 現代社会における自己
(アイデンティティをめぐる社会的な問題②)
- 第6回 多元化し分散する自己
- 第7回 若者のコミュニケーションと社会の現在①
(その現実と日常)
- 第8回 若者のコミュニケーションと社会の現在②
(その豊かさと病理)
- 第9回 若者文化を / から社会的に考える
(社会意識からの若者論再考①)
- 第10回 若者文化を / から社会的に考える
(社会意識からの若者論再考②)
- 第11回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ
(不確かな生) ①
- 第12回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ
(不可解な他者) ②
- 第13回 つながりの不安と過剰
(ディス) コミュニケーションからみる現代社会①)
- 第14回 つながりの不安と過剰
(ディス) コミュニケーションからみる現代社会②)
- 第15回 社会学の使いみち (不安と危機の向こう側へ?)

5. 評価の方法・基準

(講義への一定の出席と参加を条件としたうえで)、講義中のコメントペーパー&小レポートなど(10%)、学期末試験(90%)によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

何気ない日常(の成り立ち)を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい(あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む)。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

講義ごとの配布資料(+講義中にとった自身のメモやノート)を、講義内容をふりかえりながら、丁寧に読み返すこと。そのとき改めて「わからないこと」や「質問したいこと」「さらに知りたいこと」などが生じたら、次回の講義で遠慮なく質問して欲しい。次回の講義までにこうした事後学習を行うことは、そのまま有意義な事前学習にもなる(ように、講義をデザインしてある)。

8. 教科書・参考書

テキストは使用しない(講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやビジュアルな資料を交えつつ、講義を進める)。また、講義で扱う事柄(テーマ)に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進行に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができるとも思う。

9. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に(あるいは講義中にも)、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

備考

内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

経済学 I Economics I

対象学科(コース):全学科 学年:1・2年次
 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 三輪 仁

1. 概要

(集中講義)

●授業の目的

この講義は、ミクロ経済学の基礎を学ぶことで、身近な経済活動を理解することを目的とします。講義では、ミクロ経済学の基本である「需要」と「供給」、「市場」の概念を手がかりに、基本的なフレームワークの理解と今日的なトピックを取り上げていきます。

●授業の位置づけ

ミクロ経済学はマクロ経済学と並んで経済学を学ぶ上で経済理論の基礎をなす学問です。マクロ経済学が一国の経済状況を分析するのに対し、ミクロ経済学が個々の経済活動を分析します。また日本経済が直面する課題がミクロ経済の中でどのように把握することが出来るのかについて解説していきます。

2. キーワード

ミクロ経済学、需要、供給、市場

3. 到達目標

- ①ミクロ経済学の基礎的な概念を理解する。
- ②現実経済の状況についてミクロ経済学の観点から理解できる。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション:ミクロ経済学とマクロ経済学
- 第2回 分業の利益:比較優位と競争優位
- 第3回 需要と供給
- 第4回 現代経済トピック:地方創生と地域経済構造
- 第5回 価格メカニズム
- 第6回 市場の効率性:オークション理論
- 第7回 市場の失敗
- 第8回 現代経済トピック:知的所有権とパテントビジネス
- 第9回 市場の限界:モラルハザードと情報の非対称性
- 第10回 労働市場:様々な格差…地域間、男女間
- 第11回 経済学の歴史①:産業革命と経済学の発展
- 第12回 経済学の歴史②:限界革命-マクロ経済学の誕生
- 第13回 経済学の歴史③:市場主義とグローバル化
- 第14回 現代経済トピック:多国籍企業と課税・TPP
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

小テスト(20%)と期末試験(80%)で評価します。

6. 履修上の注意事項

ニュースや新聞等で、経済やビジネスに関する情報を収集しておくこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

事前に前回のノートや資料を見直した上で、講義に望むこと。各回に記載されているテーマについて講義前に調べておくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しません。

●参考書

中谷武・中村保『1からの経済学』碩学社 ISBN: 9784502680809

その他に関しては、適宜紹介します。

9. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。

経済学Ⅱ Economics II

対象学科（コース）：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 小江 茂徳

1. 概要

●授業の目的

この講義は、マクロ経済学の基礎を学ぶことで、身近な経済活動を理解することを目的とします。講義では、マクロ経済学の基本的なフレームワークを捉えることができるよう、実物面に絞って説明していきます。

●授業の位置づけ

マクロ経済学はミクロ経済学と並んで経済学を学ぶ上で経済理論の基礎をなす学問です。ミクロ経済学が個々の経済活動を分析するのに対し、マクロ経済学では一国の経済を分析します。また日本経済が直面する今日の課題がマクロ経済の中でどのように把握できるのかを解説していきます。

2. キーワード

マクロ経済学、GDP、インフレ、デフレ、経済成長、財政政策、金融政策、失業、物価

3. 到達目標

- ①マクロ経済学の基礎的な概念を理解する。
- ②現実経済の状況についてマクロ経済学の観点から理解できる。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：マクロ経済学とは
 第2回 GDPとは何か：GDPとGNP・ストックとフロー
 第3回 何がGDPを決めるのか：ケインズ理論
 第4回 現代経済トピック：日本のGDPの推移 リーマンショック 東日本大震災
 第5回 消費需要と投資需要
 第6回 貨幣の役割：インフレとデフレ
 第7回 金融政策：日本銀行と財務省
 第8回 政府の役割：大きな政府と小さな政府
 第9回 外国為替と為替レート：円安・円高
 第10回 現代経済トピックス：アベノミクスと円安傾向、デフレの解消
 第11回 政府の借金：年金の未来
 第12回 現代経済：消費税増税と私たちの暮らし・たばこ税
 第13回 経済成長一名目と実質：成長から成熟へ
 第14回 現代経済トピック：新興国の台頭と日本の立場
 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

小テスト（20%）＋期末試験（80%）で評価します。

6. 履修上の注意事項

ニュースや新聞等で、経済やビジネスに関する情報を収集しておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を各自で見直しておくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しません。

●参考書

中谷武・中村保『1からの経済学』碩学社 ISBN: 9784502680809

その他に関しては、適宜紹介します。

9. オフィスアワー

初回の講義でお知らせします。

政治学Ⅰ Political Science I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（月曜1・2限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書（の抜粋）などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的な思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネットなども活用）、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
 第2回 ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む
 第3回 ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む
 第4回 「鉄の三角形」の意味と概要
 第5回 「鉄の三角形」ケース・スタディ（1）
 第6回 「鉄の三角形」ケース・スタディ（2）
 第7回 政官関係・公益法人論など
 第8回 戦争と政治（1）
 第9回 戦争と政治（2）
 第10回 従来の講義の補足と展開
 第11回 ナショナリズム論（1）
 第12回 ナショナリズム論（2）
 第13回 市民的实践とNGO
 第14回 試験
 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験（60%）および小テストの結果（40%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生

き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12時 - 13時 30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学 I Political Science I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜2限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義（1）
- 第4回 自由主義と民主主義（2）
- 第5回 現実主義（1）
- 第6回 現実主義（2）
- 第7回 従来講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任（1）
- 第9回 政治的責任（2）
- 第10回 保守主義（1）
- 第11回 保守主義（2）
- 第12回 従来講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ（1）
- 第14回 自由テーマ（2）
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12時 - 13時 30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（月曜1・2限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等の活字資料＝プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。一方通行的な講義＝筆記ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、これをうけた討論等を特に重視する。政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
 第2回 批判的思考について
 第3回 談合・独占と競争（1）
 第4回 談合・独占と競争（2）
 第5回 天下りと天上り
 第6回 補足と展開
 第7回 開発と補助金政治
 第8回 開発と地方自治
 第9回 「特別会計」
 第10回 労働と政治
 第11回 軍事化と平和研究
 第12回 日常性と政治
 第13回 補足と展開
 第14回 試験
 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験（60%）および小テストの結果（40%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学

生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるとは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。

講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜2限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義（1）
- 第4回 自由主義と民主主義（2）
- 第5回 現実主義（1）
- 第6回 現実主義（2）
- 第7回 従来の講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任（1）
- 第9回 政治的責任（2）
- 第10回 保守主義（1）
- 第11回 保守主義（2）
- 第12回 従来の講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ（1）
- 第14回 自由テーマ（2）
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究Ⅰ Regional Studies I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との闘ぎあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるという disposition を身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1
- 第5回 親族の解釈学1－親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2－普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3－相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力その1
- 第13回 世界観パート1－構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2－構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の読法）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95％）及びレポート（5％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1978『Lethal Speech』Cornell University Press. ISBN: 0801411939
- 2) Stephen A. Tyler (ed.) 1969『Cognitive Anthropology.』Holt, Rinehart and Winston, inc. ISBN: 0030732557
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968『Dialectic in Practical Religion.』Cambridge University Press. 389/L-8

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がごぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との間を具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるという disposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

第1回 「文化」という概念の定義

第2回 文化相対主義の問題点

第3回 象徴人類学から見た文化の概念

第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1

第5回 親族の解釈学1－親族分類の多様性、概念整理

第6回 親族の解釈学2－普遍的な解釈（親族の代数学）

第7回 親族の解釈学3－相対的な解釈

第8回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1

第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」

第10回 インセスト・タブーの多様性

第11回 インセスト・タブーの存在理由

第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力その1

第13回 世界観パート1－構造主義入門：親族の基本構造分析

第14回 世界観パート2－構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解読法）

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書 特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. 『The Curse of Souw.』 Cornell University Press.. 389.7/W-1
- 2) Tambiah, S. J., 1985, 『Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective,』 Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) E. R. Leach 1995 『高地ビルマの政治体系』(訳：関本照夫) 弘文堂. ISBN: 4335051131
- 4) Marilyn Strathern. 1988. 『The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia.』 University of California Press. 367.2/S-15

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

メラネシアからパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく、我々から見ると一見奇妙に見える対象社会の生活世界を分析することで、むしろ我々自身の生活世界を客観化することを目指す。また世界各地の均一化とローカル化との間きあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。後期は Roy Wagner が創始したフラクタル人類学の観点から神話・儀礼に焦点をおいて講義を行う。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、フラクタル、ホログラフィ

3. 到達目標

- ①相対主義的に考える disposition を身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究と文化人類学：方法論の解説
- 第2回 文化の概念：その多様性と解釈
- 第3回 象徴人類学の解説：シンボルとは何か
- 第4回 グローバル化を考える：部族的な社会に生きる人々の映像を見る
- 第5回 フラクタルの視点からの地域分析：フラクタル及びホログラフィという隠喩の使用について。ニューギニア・ハーゲン地域のビッグマンの概念の分析
- 第6回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：二進法的世界を生きること。
- 第7回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：世界認識の枠組みとしての神話とその神話の実現としての Ate 結婚。
- 第8回 グローバル化を考える 4 Hip-Hop の感染力その 2
- 第9回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：ダリビ族に関する概況解説。
- 第10回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：文化の弁証法—ホログラフィックな世界観
- 第11回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：生物学的な関係性を前提としない親族構築
- 第12回 グローバル化を考える 5 ロックの浸透力その 2

- 第13回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：神話と Habu 儀礼—ホログラフィックな世界製作。
- 第14回 フラクタルの観点からの他者理解が気づかせてくれるものについて。
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press.389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S-15

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

メラネシアからパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく、我々から見ると一見奇妙に見える対象社会の生活世界を分析することで、むしろ我々自身の生活世界を客観化することを目指す。また世界各地の均一化とローカル化との間きあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。後期は Roy Wagner が創始したフラクタル人類学の観点から神話・儀礼に焦点をおいて講義を行う。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、フラクタル、ホログラフィ

3. 到達目標

- ①相対主義的に考える disposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究と文化人類学：方法論の解説
- 第2回 文化の概念：その多様性と解釈
- 第3回 象徴人類学の解説：シンボルとは何か
- 第4回 グローバル化を考える：部族的な社会に生きる人々の映像を見る
- 第5回 フラクタルの視点からの地域分析：フラクタル及びホログラフィという隠喩の使用について。ニューギニア・ハーゲン地域のビッグマンの概念の分析
- 第6回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：二進法的世界を生きること。
- 第7回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：世界認識の枠組みとしての神話とその神話の実現としての Ate 結婚。
- 第8回 グローバル化を考える 4 Hip-Hop の感染力その2
- 第9回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：ダリビ族に関する概況解説。
- 第10回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：文化の弁証法—ホログラフィックな世界観
- 第11回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：生物学的な関係性を前提としない親族構築

- 第12回 グローバル化を考える5 ロックの浸透力その2
- 第13回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：神話とHabu 儀礼—ホログラフィックな世界製作。
- 第14回 フラクタルの観点からの他者理解が気づかせてくれるものについて。
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 『Symbols That Stand for Themselves.』 The University of Chicago Press. 389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, 『Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective,』 Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 『Dialectic in Practical Religion.』 Cambridge University Press. 389/L-8

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

経営学 I Business Administration I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 小江 茂徳

1. 概要

●授業の背景

社会には企業の生産物（商品やサービス）が溢れており、我々の日常生活をより豊かにしています。しかし、それについて我々が知っていることと言えば、せいぜい企業名や商品・サービス名とその中身程度ではないでしょうか。実際には、企業の掲げる経営理念の下、緻密な市場調査や試作品の製作、ライバル企業との駆け引き、組織管理、業務の効率化など、企業による不断の熟考や試行錯誤、努力によって、それらは生み出されています。経営学とは、こうした商品やサービスを生み出す様々な企業行動について研究してきた学問です。この講義を通じて経営学的な視点を身に付けることで、皆さんが日常的に目にする商品やサービスに対する見方が変わる端緒となればと考えています。

●授業の目的

本講義は、経営学の基本概念や理論を理解することを目的としています。会社の成立や会社形態の種類といった制度的な領域から始め、企業経営の中枢である経営戦略やマーケティング、生産管理、そして後半では近年の経営課題について取り上げていきます。

●授業の位置づけ

主に講義形式で行います。

多くの学生は、大学卒業後、企業組織の一員として社会の中で活動します。企業では、単にエンジニアとしてのキャリアのみならず、営業や生産、人事等の職種や管理職といった多様なキャリアが提供されています。経営学は、企業行動に関する専門知識を学べるだけでなく、こうした多種多様なキャリアに対応していくための知識も学ぶことができるため、教養として是非修得して欲しいと考えています。

2. キーワード

企業、経営戦略、マーケティング、生産管理、コーポレートガバナンス、CSR

3. 到達目標

- ①経営学の基本概念を理解する。
- ②経営学の概念を用いて、様々な企業行動を説明できる。
- ③企業が今日抱えている課題について理解する。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：経営学とは何か
- 第2回 株式会社の誕生
- 第3回 会社の形態
- 第4回 マネジメントとは何か
- 第5回 経営戦略①：企業環境の分析
- 第6回 経営戦略②：経営理念と全社戦略
- 第7回 経営戦略③：競争戦略
- 第8回 マーケティング①：市場の創造
- 第9回 マーケティング②：マーケティング・ミックス
- 第10回 生産管理
- 第11回 日本的経営
- 第12回 企業制度の実態
- 第13回 コーポレートガバナンス
- 第14回 企業の社会的責任
- 第15回 総括

5. 評価の方法・基準

レポート（40%）、期末テスト（60%）で評価します。

6. 履修上の注意事項

平日頃から、ニュースや新聞に目を通し、企業行動に関する情報を得ておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しません。

●参考書

適宜、お知らせします。

9. オフィスアワー

初回講義に案内します。

経営学Ⅱ Business Administration Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 小江 茂徳

1. 概要

●授業の背景

社会には企業の生産物（商品やサービス）が溢れており、我々の日常生活をより豊かにしています。しかし、それについて我々が知っていることと言えば、せいぜい企業名や商品・サービス名との中身程度ではないでしょうか。実際には、企業の掲げる経営理念の下、緻密な市場調査や試作品の製作、ライバル企業との駆け引き、組織管理、業務の効率化など、企業による不断の熟考や試行錯誤、努力によって、それらは生み出されています。経営学とは、こうした商品やサービスを生み出す様々な企業行動について研究してきた学問です。この講義を通じて経営学的な視点を身に付けることで、皆さんが日常的に目にする商品やサービスに対する見方が変わる端緒となればと考えています。

●授業の目的

本講義は、経営学の基本概念や理論を理解することを目的としています。テーマは、モチベーションや人材マネジメント、リーダーシップ、組織設計論、組織文化、グループダイナミクス等であり、主に企業内部のマネジメントに関わるトピックについて取り上げていきます。

●授業の位置づけ

主に講義形式で行います。

多くの学生は、大学卒業後、企業組織の一員として社会の中で活動します。企業では、単にエンジニアとしてのキャリアのみならず、営業や生産、人事等の職種や管理職といった多様なキャリアが提供されています。経営学は、企業行動に関する専門知識を学べるだけでなく、こうした多種多様なキャリアに対応していくための知識も学ぶことができるため、教養として是非修得して欲しいと考えています。

2. キーワード

企業、モチベーション、リーダーシップ、組織設計、組織文化、グループダイナミクス

3. 到達目標

- ①経営学の基本概念を理解する。
- ②経営学の概念を用いて、様々な企業行動を説明できる。
- ③企業が今日抱えている課題について理解する。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：経営学とは何か
- 第2回 仕事とモチベーション①：内容理論
- 第3回 仕事とモチベーション②：過程理論
- 第4回 人事制度①：人材育成
- 第5回 人事制度②：報酬制度
- 第6回 リーダーシップの資質論と行動論
- 第7回 リーダーシップの状況適合理論
- 第8回 変革型リーダーシップ論
- 第9回 組織設計の原理①
- 第10回 組織設計の原理②
- 第11回 組織の基本形態
- 第12回 組織の応用形態
- 第13回 組織文化の管理
- 第14回 グループダイナミクス
- 第15回 総括と今日的課題

5. 評価の方法・基準

レポート（20%）、期末テスト（80%）で評価します。

6. 履修上の注意事項

常日頃から、ニュースや新聞に目を通し、企業行動に関する情報を得ておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義の最初に前回の復習をするので、ノートや資料を見直しておくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しません。

●参考書

適宜、お知らせします。

9. オフィスアワー

初回講義に案内します。

国際関係論 International Relations

対象学科（コース）：全学科学年：1－3年次
 学期：適宜 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 玉村 健志

1. 概要

いま世界では、紛争や軍拡など戦争や平和に関わる問題を初めとして、経済、環境、開発など、様々な分野で国際的な問題が発生している。現在の国際関係がどのように形成され、どのように変化してきたのか、またそれをどのように捉えられるかを考えることがこの講義の目的である。国際政治の性質とはどのようなものか、グローバル化とは何か、国際的問題の解決のために国際機関はどのような役割を果たしているのかなどの点を初めとして、現代の国際関係をどう捉えられるかを学んでいく。将来国際的な仕事に就くための、あるいは新聞や専門書などを読んで理解するための、国際関係に関する基礎的な知識を学ぶ。

受講者には、授業の復習を兼ねて毎回授業の終わりにミニッツペーパーを書いてもらうが、その授業で扱ったトピックに関する簡単な質問に答え、自分の考えを論じてもらう。

2. キーワード

戦争と平和、グローバル化、国際関係、国際機構、国連、PKO、EU

3. 到達目標

国際社会と国際機関に関する導入的な知識を身につけてもらうことを目標とする。受講生が国際関係について学問的な理解を深めるとともに、自分なりの視点を持って意見を述べられるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グローバル化とは
- 第3回 国際関係の性質①：「リアリズム」における国際政治観
- 第4回 国際関係の性質②：「リベラリズム」における国際政治観
- 第5回 主権国家体系と現代国際政治
- 第6回 勢力均衡～力による「平和」の構築
- 第7回 国際協調の萌芽①～交流と国際機構
- 第8回 国際協調の萌芽②～抗争と国際機構
- 第9回 集団安全保障と抑止
- 第10回 PKOと紛争解決
- 第11回 相互依存
- 第12回 EU
- 第13回 非国家主体の台頭
- 第14回 国境を越える問題と国際機構
- 第15回 国際関係の変容

5. 評価の方法・基準

ミニッツペーパー（授業内課題）40%、レポート60%。合計で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

教科書を使わないので、自分で講義を聴き、ノートを取り、配布資料を整理する必要がある。

授業ではみなさんに色々な質問をするので、積極的な発言を期待する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

ニュースを見たり新聞を読んだりして世界情勢や国際機構についての予めある程度情報を得ておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しないが、参考文献は授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

質問は、講義の前後や下記のメールアドレスにて随時受け付けます。tamamura@lrc.kyutech.ac.jp

グローバルイシュー概論 Introduction to Global Issues

対象学科（コース）：全学科 学年：1－3年次
 学期：適宜 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 水井・玉村

1. 概要

●授業の背景

急速なグローバル化が進展する現代社会、身の回りの事柄であっても、地球規模でおこっている変化の中に位置づけて考えることが、21世紀を生きる人々にとって必要な力となる。グローバル化の時代であることを認識し、そこでおこっている人類共通の課題 {イシュー} について考察を深めることができるような能力が求められている。

●授業の目的

この授業を通して、グローバル化について概観し、これを背景とする3つのイシューについて認識を深め、自分の意見を持ち発信する力を身につけることが学習の目的である。そのために、グローバル化の現状を前提に、①地球規模の環境変化、②紛争や貧困など世界的に広がる課題と国際社会の対応、③越境する人たちをめぐる受容の課題について、授業を通して考える。最後に、グローバルな環境に自分を位置づけ、これらの課題に対しどのように考えるのか、文章で表現する。

●授業の位置づけ

グローバル教養科目の一つでありGEコースの修了要件単位となる。GEコースに所属しない学生には、人文社会系選択必修科目となる。

2. キーワード

グローバル化、サステナビリティ、国際関係、多文化受容、人権、包括と排除

3. 到達目標

- ①地球規模の環境変化への国際社会の対応
- ②国際的な協調のあり方
- ③多様な文化背景を持つ人々の受容と共生の課題、上記3つの課題を理解し、これに対する考えを表現する力を身につける。

4. 授業計画

授業内容。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レポートの書き方
- 第3回 グローバル・イシュー概説
- 第4回 国際機関と国際的課題（1）
- 第5回 国際機関と国際的課題（2）
- 第6回 国際機関と国際的課題（3）
- 第7回 視聴覚による課題の確認（1）
- 第8回 多文化の受容と課題（1）
- 第9回 多文化の受容と課題（2）
- 第10回 多文化の受容と課題（3）
- 第11回 視聴覚による課題の確認（2）
- 第12回 環境と開発をめぐる国際的課題（1）
- 第13回 環境と開発をめぐる国際的課題（2）
- 第14回 環境と開発をめぐる国際的課題（3）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

レポート3回（90%）
 授業内視聴覚課題ミニッツペーパー2回（10%）
 合計で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

教科書を使わないので、自分で講義を聴き、ノートを取り、配布資料を整理する必要がある。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業で出される予復習用のプリントを翌週提出する。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しないが、参考文献は授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

最初の授業で知らせる。

東アジア論 East Asian Studies

対象学科（コース）：全学科 学年：1－3年次
 学期：適宜 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 後藤 啓倫

1. 概要

●授業の背景

現在の東アジアとりわけ日本、中国、韓国は、歴史認識や国境に関する様々な問題を抱えています。しかし、日本、中国、韓国は、これら問題の解決の糸口を見つけたところか、これらをめぐって相互の対立を深めているように見えます。日中韓がともに納得するような共通理解はすぐには出てこないかもしれませんが、今後も模索し続ける必要はあるでしょう。そこで、この授業では、近代以降の日本と東アジア（特に中国・韓国）の歴史を学び今後の日本と東アジアとのかかわりについて考えます。

●授業の目的

本授業では、近代以降の日本がどのように東アジア（特に中国・韓国）とかわかってきたのかについて学びます。主に、戦争や植民地支配に関する事実と背景を解説していきます。日本と東アジアの関係性には現在でも未だに争点となる問題が多く含まれています。東アジアの歴史を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた近代以降の東アジアの歴史を理解することを目指します。

●授業の位置づけ

本授業では、現在の東アジア（特に日中韓）が抱える諸問題について歴史的観点からアプローチすることで、東アジアの歴史的事実に関する知識を習得し、東アジアを多角的な観点から論じる姿勢を身につけます。歴史的に考察することを通じて、現在の問題を相対化する視点を養います。

2. キーワード

日本、中国、韓国、東アジア、歴史

3. 到達目標

- ①日本と東アジアの歴史的事実に関する知識の習得
- ②歴史認識において多様な立場があることを理解する。
- ③歴史的に考察することを通じて、現在の東アジアが抱える問題とそれに関する報道などを相対化して考える姿勢を養う。

4. 授業計画

授業は講義形式で行なう。配布資料等を用いて補足説明をする。以下の計画は学生の理解度に応じて変更する場合もある。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近代国家日本の登場と東アジア国際秩序の変容
- 第3回 日清戦争と義和団事件
- 第4回 韓国併合
- 第5回 第一次世界大戦と東アジア
- 第6回 満洲事変
- 第7回 日中戦争（1）
- 第8回 日中戦争（2）
- 第9回 アジア太平洋戦争（1）
- 第10回 アジア太平洋戦争（2）
- 第11回 日本の敗戦と東アジア
- 第12回 日韓国交正常化と日中国交正常化
- 第13回 戦後の日中韓関係（領土問題）
- 第14回 戦後の日中韓関係（歴史認識問題）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100%）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

教科書を使わないので、自分で講義を聴いてノートをとる必要がある。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業で扱う事件や登場人物に関する参考文献をその都度紹介するので、参考文献を通じて復習し、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

授業時間の前後に質問を受け付ける。

職業と社会 Occupation and Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 小江 茂徳

1. 概要

●授業の目的

この講義は、「働くこと」に関する様々なテーマを取り上げ、職業と社会との関わりについて理解することを目的とします。講義の内容としては、人事労務管理、産業社会学の内容を主とし、労働環境の歴史と現状を捉えていきます。

●授業の位置づけ

主に講義形式で行います。

本講義を通じて、受講生自身の職業観の相対化や将来のキャリア形成の一助になればと考えています。

2. キーワード

キャリア形成、職業、労働環境

3. 到達目標

- ①キャリアに関する諸概念を理解する。
- ②多様な職業について理解する。
- ③日本における労働環境の現状について理解する。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 働き方の変化
- 第3回 キャリアデザイン
- 第4回 求職と求人
- 第5回 就職活動と大学教育
- 第6回 雇用と賃金の仕組み①：賃金格差
- 第7回 雇用と賃金の仕組み②：内部労働市場
- 第8回 前半の総括と中間復習テスト
- 第9回 労働時間と休暇
- 第10回 福利厚生
- 第11回 ダイバーシティ
- 第12回 離職と転職
- 第13回 多様なキャリア
- 第14回 仕事の引退とその後
- 第15回 総括と後半復習テスト

5. 評価の方法・基準

中間試験（20%）＋期末試験（80%）で評価します。

6. 履修上の注意事項

新聞やニュースを読み、社会情勢や企業環境、労働環境について知識を得ておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回のテーマに関して、事前に自分なりに文献や Web で調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しません。

●参考書

阿部正浩他『キャリアのみかた』（改訂版）有斐閣，2014. ISBN: 9784641164383 （2010年版）377.9/A-5

小川慎一他『産業・労働社会学』有斐閣アルマ，2015. ISBN: 9784641220430

9. オフィスアワー

初回講義に案内します。

日本語表現法 Japanese Writing

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

他人に伝わる文章を書く前提として、インターネットに頼らない調査の仕方および文献の基本的な読解力を身につける。特定の主題についてのさまざまな説を比較検討するやり方を学び、期末にはある程度の長さのレポートが作成できるようにする。

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

文献調査、要約、翻訳

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、文献調査、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第1～2回 辞書を引く
- 第3～5回 文献調査のやり方
- 第6回 レポート検討Ⅰ
- 第7～8回 要約を作る
- 第9～11回 翻訳をする
- 第12回 レポート検討Ⅱ
- 第13～15回 論理的推論のやり方

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

開講時に述べる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示をする調査課題を、次回までに準備しておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅰ Contemporary Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

思考停止、法令遵守

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第3回 食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止

第4回～第6回 思考停止するマスメディア

第7回～第9回 厚生年金記録改竄を巡る思考停止

第10回～第12回 「遵守」はなぜ思考停止につながるのか

第13回～第15回 司法への市民参加を巡る思考停止

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項

各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

郷原信郎『思考停止社会』（講談社現代新書）081/K-3/1978

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第2回 ニセ科学

第3回～第5回 自然志向の罫

第6回～第9回 警鐘報道の功罪

第10回～第15回 科学報道のメディア・リテラシー

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項

各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

松永和紀『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ History of European Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期・後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えている。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・バックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」、「技術史」、「科学史」、「社会史」

3. 到達目標

<レポートに関する目標>

- ①文献調査
- ②資料分析
- ③プレゼンテーション（2回）
- ④オリジナリティ：独自の議論
- ⑤プログレス（PR2とFRのみ）

<個別発表に関する目標>

- ①簡潔明瞭な発表
- ②的確な質疑

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド：テーマを深める情報の探し方
- ③調査ガイド：図書の見つけ方と入手方法
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント・個別発表
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表

⑬個別発表

⑭ファイナルレポート提出

⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

プログレス・レポート1	20%
プログレス・レポート2	30%
ファイナル・レポート	40%
発表および質疑参加	10%

*総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業時間内で示された調査課題の提出、および期末時に提出が求められる自由課題レポートについて、毎回の授業の時間外に調査学習し、授業時には進捗レポートを提出する。

8. 教科書・参考書

ヨハン・バックマン『西洋事物起源1－4』岩波文庫、1999年。502/B-7（担当教員が管理し、授業中に閲覧した後で貸出）

9. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論 I Japanese Politics, Past and Present I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2・3・4 年次

学期: 前期 単位区分: 選択 単位数: 2 単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本 (の抜粋) や資料などを精読して学問的に (ジャーナリストィックに、ではなく) 学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国 (史) 的な視野におちらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治 (制度) 論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 人間性と政治 (権力分立の問題など)
- 第3回 自由・人権観
- 第4回 戦後社会と管理化 (1)
- 第5回 戦後社会と管理化 (2)
- 第6回 戦後社会と管理化 (3)
- 第7回 東北アジアと日本 (1)
- 第8回 東北アジアと日本 (2)
- 第9回 東北アジアと日本 (3)
- 第10回 補足と展開
- 第11回 琉球・沖縄と日本 (1)
- 第12回 琉球・沖縄と日本 (2)
- 第13回 宗教と政治 (1)
- 第14回 宗教と政治 (2)
- 第15回 戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論 (80%)・レポート (20%) で評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力 (知識、読解・思考、表現等) の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習 (自ら補習) することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくべきことは、いうまでもない。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し (= 予習)、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き (= 復習を兼ねた課題)、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定 (複数)。
- 参考書
講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12 時 - 13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。
email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストィックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会話をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 自由主義論（1）
- 第3回 自由主義論（2）
- 第4回 諸文明と「国際化」（1）
- 第5回 諸文明と「国際化」（2）
- 第6回 諸文明と「国際化」（3）
- 第7回 市民社会論（1）
- 第8回 市民社会論（2）
- 第9回 市民社会論（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 厚生行政をめぐる政治（1）
- 第12回 厚生行政をめぐる政治（2）
- 第13回 政治的リアリズム
- 第14回 戦後政治をめぐる
- 第15回 補足とまとめ

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書
講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

教育システム論 Educational Systems Theory

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかかわりについて検証する。

●授業の位置付け

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

テーマは、教育や子どもに関する法律問題、生命倫理、社会政策・刑事政策などの中から班ごとに決定する。また、初回授業時に役割分担を決定し、講義期間中に3回模擬法廷を開催する。

2. キーワード

日本国憲法 教育基本法 教育権 社会政策 刑事政策 生命倫理

3. 到達目標

- ①教育と法律のかかわりについて理解を深める。
- ②調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
- ③討論の技術を身につける。

4. 授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

講義期間中に3回模擬法廷を開催する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 プレゼンテーション①
- 3回 プレゼンテーション②
- 4回 プレゼンテーション③
- 5回 模擬法廷①
- 6回 プレゼンテーション④
- 7回 プレゼンテーション⑤
- 8回 プレゼンテーション⑥
- 9回 模擬法廷②
- 10回 プレゼンテーション⑦
- 11回 プレゼンテーション⑧
- 12回 プレゼンテーション⑨
- 13回 模擬法廷③
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 総括

5. 評価の方法・基準

プレゼンテーション 40%

模擬法廷 40%

討論での貢献度 20%

プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ・授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
- ・その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①模擬法廷で実施する判例に関しては、全員必ず一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない。

●参考文献 授業の中で適宜指定する。

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

経営組織論 Business Organization

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 小江 茂徳

1. 概要

●授業の目的

本講義は、経営学の基本概念や分析枠組を用いて、現実の企業行動を説明できるようになることを目的とします。経営学の修得とは、単に概念の意味や理論を理解することではありません。それらを用いて、現実の企業行動を説明できてこそ意味をなします。主に経営管理論や経営戦略論の中から報告テーマを選び、各自で情報収集をして発表し、ディスカッションをすることで、企業行動への理解をさらに深めていきます。

●授業の位置付け

この講義は演習形式で行います。グループもしくは個人で各テーマを選んだ上で、講義内でプレゼンテーションとディスカッションを行います。全15回のうち、半分近くを基本的には、教員の提示した概念や分析枠組について発表してもらいますが、場合によっては受講生の希望を応じて柔軟に変更してきたいと考えています。（またテキストを選択し、輪読形式で進める可能性もあります。）

受講生は、経営学Ⅰや経営学Ⅱの既修者であることが求められます。

2. キーワード

企業、経営戦略、人事管理、事例分析

3. 到達目標

- ①経営学の概念や理論の意味を説明できる。
- ②経営学の概念や理論を用いて、企業行動を説明できる。
- ③適切なプレゼンテーション資料を作成できる。

4. 授業計画

講義は、演習形式で行います。講義初回に、具体的な講義計画を説明します。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 SWOT分析
- 第3回 業界の構造分析
- 第4回 戦略グループマップ
- 第5回 産業の競争構造
- 第6回 競争ポジション
- 第7回 ダイバーシティマネジメント
- 第8回 コーポレートガバナンス
- 第9回 プレゼンテーション①
- 第10回 プレゼンテーション②
- 第11回 プレゼンテーション③
- 第12回 プレゼンテーション④
- 第13回 プレゼンテーション⑤
- 第14回 プレゼンテーション⑥
- 第15回 総括

5. 評価の方法・基準

発表内容や資料の質（70%）＋講義への貢献（30%）で評価します。

6. 履修上の注意事項

日常的にニュースや新聞からの企業経営に関する情報収集を心がけること。

経営学Ⅰならびに経営学Ⅱの既修者であることが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必要であれば学外の図書館等を使い、情報収集を行うこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しません。

●参考書

網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞社
ISBN: 9784532134037

9. オフィスアワー

講義の初回に案内します。

サステナビリティ論 Introduction to Sustainability

対象学科 (コース): 全学科 学年: 2・3・4 年次

学期: 前期 単位区分: 選択 単位数: 2 単位

担当教員名 大田 真彦

1. 概要

●授業の背景

1980年代以降、地球規模の環境破壊・劣化等を背景として、グローバルなサステナビリティ（持続可能性）への認識が高まっている。国連は、環境、貧困、人権、平和、開発など、持続可能な開発に向けた様々な課題を、自らの問題として捉え、サステナビリティに関する新たな価値観や行動を生み出すための「持続可能な開発のための教育（ESD）」の重要性を指摘している。

●授業の目的

本授業では、生物多様性とその保全を題材として、サステナビリティのあり方について考える力を養う。生物多様性への理解はESDの中でも重要な一要素と位置づけられており、また、開発や政策のあり方といった様々な側面に関連する分野横断的なテーマである。

●授業の位置づけ

①生物多様性についての基本知識、②生物多様性消失が起こるメカニズム、③昨今実施されている生物多様性の保全策を具体的に扱う。これらに加え、フィールド訪問やディベートを実施する予定である。

主に熱帯アジア（東南・南アジア）と日本の具体的事例を中心に展開する。また、多様性や近代化に関し我々が有する価値観についての議論も含む予定である。

2. キーワード

サステナビリティ、生物多様性、保全、価値、グローバル、熱帯アジア

3. 到達目標

- ・持続可能な世界へ向けたグローバルな動向を理解できるようになる。
- ・生物多様性の価値をめぐる議論や生物多様性の具体的な保全について、グローバルな関係性や個別の地域の状況の中で、考察することができるようになる。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーション: サステナビリティ、ESDについて

第2回 生物多様性とはどのようなものか

第3回 生物多様性を保全する論理: 道具的価値と内在的価値

第4回 生物多様性条約を読む: 先進国・途上国間の問題

第5回 生物多様性消失・自然環境劣化の背景①: 開発

第6回 生物多様性消失・自然環境劣化の背景②: 非持続的利用

第7回 生物多様性消失・自然環境劣化の背景③: アンダーユース

第8回 生物多様性消失・自然環境劣化の背景④: シンプリフィケーション

第9回 フィールド訪問: 日本の里山について

第10回 生物多様性の保全策①: 自然保護区

第11回 生物多様性の保全策②: 住民参加型保全

第12回 生物多様性の保全策③: グリーン財

第13回 生物多様性の保全策④: 生物多様性の価値の金銭化

第14回 ディベート①

第15回 ディベート②

※受講者数や進度により適宜変更する場合がある。

5. 評価の方法・基準

中間レポート50%、期末レポート50%で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

教員からのレクチャーと、受講者間でのディスカッションを組み合わせて進行する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎週、予習用の文章を配布する。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

- ・トレイシー・ストレンジ, アン・ベイリー著; OECD 編; 濱田久美子訳 (2011) よくわかる持続可能な開発. 明石書店, 519/S-14
- ・本川達雄 (2015) 生物多様性: 「私」から考える進化・遺伝・生態系. 中央公論新社, 081 C-1 2305
- ・大沼あゆみ (2014) 生物多様性保全の経済学. 有斐閣, ISBN: 4641164479

9. オフィスアワー

若松キャンパス (1030 号室)

授業に関する質問等は、授業の前後、あるいは下記のメールアドレスで随時受け付ける。

ota@ltc.kyutech.ac.jp

選択英語Ⅰ Selective English I

対象学科（コース）：全学科 学年：全年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 渡邊 浩明

1. 概要

This intensive course is both an orientation to TOEFL (Test of English as a Foreign Language), and a communicative course aimed at improving students' oral and interactive skills. The course is divided on various academic and communicative skills as they pertain to visiting and studying abroad. Students will be asked to discuss TOEFL questions (listening, grammar and reading) in groups, and to demonstrate their competency in interactive skills.

2. キーワード

Communication, interactive skills, discussion, reading, listening, grammar, TOEFL

3. 到達目標

- To learn practical communication in English by working in pairs.
- To learn academic skills measured by TOEFL and to improve them by completing training assignments.
- To improve interactive skills through activities in pairs and in groups.

4. 授業計画

1. Introduction, TOEFL style mini-test
2. Communicative activities in pairs 1/TOEFL questions and group discussion 1
3. Communicative activities in pairs 2/TOEFL questions and group discussion 2
4. Communicative activities in pairs 3/TOEFL questions and group discussion 3
5. Communicative activities in pairs 4/TOEFL questions and group discussion 4
6. Communicative activities in pairs 5/TOEFL questions and group discussion 5
7. Communicative activities in pairs 6/TOEFL questions and group discussion 6
8. Communicative activities in pairs 7/TOEFL questions and group discussion 7
9. Communicative activities in pairs 8/TOEFL questions and group discussion 8
10. Communicative activities in pairs 9/TOEFL questions and group discussion 9
11. Communicative activities in pairs 10/TOEFL questions and group discussion 10
12. Communicative activities in pairs 11/TOEFL questions and group discussion 11
13. Communicative activities in pairs 12/TOEFL questions and group discussion 12
14. TOEFL style mini-test
15. Final Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Quiz 30 % , Active participation in class activities 30 % , Daily English Training 20% , Final Exam 20%
 Students must have at least 60 % to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries will be needed.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Daily practice is required to complete Daily English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.

8. 教科書・参考書

Handouts will be provided as needed.
 参考書：『TOEFL test によく出る英単語 2500』水本，篤 明日香出版社

Available at the library and Language Lounge 830.7/M-100

9. オフィスアワー

Instructor is available after each class session.

選択英語Ⅱ Selective English II

対象学科（コース）：全学科 学年：全年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 渡邊 浩明

1. 概要

This course is both an orientation to TOEFL (Test of English as a Foreign Language), and a communicative course aimed at improving students' interactive skills. The course is focused on various academic skills as they pertain to studying abroad. Students will be asked to discuss TOEFL questions (listening, grammar and reading) in groups, and to demonstrate their competency in interactive skills.

2. キーワード

TOEFL, interactive skills, discussion, reading, listening, grammar

3. 到達目標

- To learn academic skills measured by TOEFL and to improve them by completing training assignments.
- To improve interactive skills through activities in groups.

4. 授業計画

1. Introduction, TOEFL style mini-test
2. TOEFL questions and group discussion 1
3. TOEFL questions and group discussion 2
4. TOEFL questions and group discussion 3
5. TOEFL questions and group discussion 4
6. TOEFL questions and group discussion 5
7. TOEFL questions and group discussion 6
8. TOEFL questions and group discussion 7
9. TOEFL questions and group discussion 8
10. TOEFL questions and group discussion 9
11. TOEFL questions and group discussion 10
12. TOEFL questions and group discussion 11
13. TOEFL questions and group discussion 12
14. TOEFL style mini-test
15. Final Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Quiz 30 % , Active participation in class activities 30 % , Weekly English Training 20% , Final Exam 20%
 Students must have at least 60 % to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries will be needed..

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Daily practice is required to complete Weekly English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.

8. 教科書・参考書

Handouts will be provided as needed.
 参考書：『TOEFL test によく出る英単語 2500』水本，篤 明日香出版社

Available at the library and Language Lounge 830.7/M-100

9. オフィスアワー

Wednesday 14 : 40 – 16 : 00

選択英語Ⅱ Selective English II

対象学科（コース）：全学科 学年：全年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

This intensive course is both an orientation to student exchange programs, and a communicative course aimed at improving students' social, interactive, pragmatic and oral skills. The course is divided on various skills as they pertain to living abroad as well as better understanding foreign societies and cultures. In addition, students will be asked to discuss various aspects of Japanese culture in role-plays, and to evaluate their own performance.

2. キーワード

Exchange program, interactive skills, cultural literacy, discussion, critical thinking, Japanese culture, foreign cultures

3. 到達目標

- To learn how to initiate discussions with foreigners, and to respond to various kinds of situations and problems.
- To discuss aspects concerning Japanese culture in-depth.
- To improve one's self-assessment in communicative effectiveness

4. 授業計画

1. Introduction: Asking about travel plans/Talking about Japanese sports
2. Asking and answering questions at immigration/Japanese music
3. Giving directions/Japanese food
4. Reserving rooms/Japanese handicrafts
5. Talking about interests, sight-seeing/Japanese holidays
6. Selecting and renting a car/Japanese games
7. Meeting and talking with strangers/Japanese cities and places
8. Mid-term exam
9. Negotiating prices/relaxing in Japan
10. Inviting and socializing with friends/famous people in Japan
11. Reading a menu, ordering food/Japanese superstitions
12. Simulating a trip to Los Angeles/Japanese anime
13. Simulating a side-trip to San Francisco/Japanese Arts and Theater
14. Simulating a trip to ODU/Japanese customs
15. Final exam
16. Simulating a trip to Malaysia/Japanese Buildings and Gardens

5. 評価の方法・基準

Homework, class participation and exams will make up the credit of this class. Students must have at least 60 points to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries might be needed. It is important to participant and to prepare for various role-plays beforehand. As this course is intensive, class time will involve three periods per day.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Daily practice is required, and thus students should be prepared to handle homework for the next day.

8. 教科書・参考書

Michael Critchley『Encounters Abroad.』南雲堂 ISBN: 9784523175391

9. オフィスアワー

Tuesday: 8:00 - 12:00

選択日本事情A Elective Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に、日本の地理・歴史・政治・経済などに関する知見を広め、考えを深める。日本人が持つ日本の地理・歴史・政治・経済などに関する知識を「外国人が日本と関わる際に必要となる知識」として捉え直す。留学生の出身地の地理・歴史・政治・経済などを学び、日本との同異を分析し、その背景を考察する。

●授業の位置付け

本科目では、日本人学生と留学生が協同して学習を進める。日本人学生は日本の地理・歴史・政治・経済などについて、留学生は自分の出身地の地理・歴史・政治・経済などについて発表を行う。その際は基本的な事項の確認と共に、時事問題にも目を向ける。発表終了後はクラス全体で討論をし、その結果を振り返りシートにまとめる。

2. キーワード

「日本史」、「日本地理」、「政治・経済」、「異文化理解」、「討論」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す。
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
- ③異なる文化や社会を客観的に分析する力を持つ。
- ④日本の社会についての考えを深める。

4. 授業計画

- 第1回 データでみる日本
- 第2回 日本の地理・気候
- 第3回 憲法
- 第4回 政治制度
- 第5回 選挙と世論
- 第6回 戦後経済史
- 第7回 消費者をめぐる問題
- 第8回 労働問題と社会保障
- 第9回 宗教
- 第10回 日本の歴史（1）
- 第11回 日本の歴史（2）
- 第12回 現代日本社会の諸問題
- 第13回 福岡県の地理と歴史
- 第14回 日本の地理・歴史・政治・経済についてのまとめ作成
- 第15回 総まとめ討論会

5. 評価の方法・基準

レポート（30%）、発表（30%）、振り返りシート（20%）、授業への参加度（20%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

積極的に自己を振り返り、意見を出すこと。
 他人の考えを深く知る姿勢を持つこと。
 授業は日本語で行う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

新聞やテレビなどで日本や世界の最新の動向を確認しておくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

9. オフィスアワー

アブドゥハン教員を通して質問すること

選択日本事情 B Elective Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

最近のニュースの話題を、留学生と共に考察する。日本社会における様々な事象を他国の状況を踏まえて理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。日本社会を世界的な視野で捉え直すきっかけとする。

●授業の位置付け

最近のニュースから、学生自身が興味ある話題を取り上げ、討議する問題を提起する。討議のための資料作成、討議資料の説明、討議の司会を経験する。グループで意見を出し合って考えを深める。討議後に興味のあるテーマについてさらに調べて考察し、レポートにまとめる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す。
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
- ③異なる文化、社会について理解する視点を持つ。
- ④日本の社会や文化について考えを深める。
- ⑤グループで協働して討議を深め、意見をまとめる姿勢を獲得する。

4. 授業計画

第1回 アイスブレイキング

第2～13回 問題提起と討論、グループ発表

第14～15回 まとめのポスター発表

5. 評価の方法・基準

ポスター発表・レポート（60%）及び毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

ニュースに関心を持ち、日本や世界の最新の動向を確認しておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業中に出された課題から興味のあるテーマについて考えを深めて、ポスター発表し、レポートにまとめる準備をする。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

9. オフィスアワー

月曜日3限

英語科目についての概要

英語の選択科目について（選択科目：全年次）

英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

英語 A I/A II（1年次）では、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養に加え、英作文とプレゼンテーション技能の訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。英語 A では、CEFR A2 のレベルを目標としている。

英語 B I/B II（1年次）は、英語 A I/A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に 4 技能を訓練する。読解力については、CEFR B2 を参照した読解レベル（「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。」）を目標としている。

英語 C I/C II（2年次）は、英語 A I/A II や B I/B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。

英語 D I/D II（2年次）は、ドイツ語Ⅲ/Ⅳ、中国語Ⅲ/Ⅳ、フランス語Ⅲ/Ⅳ、韓国語Ⅲ/Ⅳを合わせた選択科目群から選択する科目で、総合英語 A I/A II、B I/B II、C I/C II の学習内容を補完する。世界の諸問題を題材に批判的思考力を身につけるとともに、自分の意見を発信できる英語運用能力を涵養する。なお、1年次に本学で一斉受験した TOEFL ITP スコアの高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。英語 D では、CEFR A2 のレベルを目標としている。

*CEFR : Common European Framework of Reference for Languages 欧州共通言語参照枠

2. 履修上の注意

- 1) 出席率が 3 分の 2 以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第 11 条 2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、再履修については事前に必ず担当教員に相談すること。
- 3) 編入生の場合も、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども評価要素となる。
- 5) TOEFL ITP（レベル 1）スコア（550 点以上）、TOEFL IBT（80 点以上）、TOEIC（865 点以上）、英検 1 級で、必修英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。

1. 目的および目標

英語 A、B、C、D と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなる学習の機会を提供することを主眼としている。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

選択英語 I

選択英語 II

2. 履修上の注意

- 1) この科目は学期内あるいは学期外に適宜開講されるので、掲示に従って履修すること。
- 2) 履修希望者が多い場合、人数制限を行う。
- 3) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、この科目をもって行なう。

その他

大学院においても英語（ラクストン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解 I、II（虹林）を開講している。こちらの聴講（履修は不可）を希望する学生は、担当教員に相談すること。

英語 A I English A I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1 年次

学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long・Mason Lampert・James Hicks・
Kevin Weir・Michael Berg・Mike Mackay・
渡邊 浩明・福永 淳

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, presenting, communication, culture

3. 到達目標

ディスカッション、作文、および正式なプレゼンテーションに必要な基本的技能を身につける。

4. 授業計画

1. Self-introductions.
2. Meeting new people.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English CDs in the library.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 14:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

英語 A II English A II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 1 年次

学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long・Mason Lampert・James Hicks・
Kevin Weir・Michael Berg・Mike Mackay・
渡邊 浩明・福永 淳

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, presenting, communication, culture

3. 到達目標

ディスカッション、作文、および正式なプレゼンテーションに必要な基本的技能を身につける。

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English CDs in the library.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 14:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感じるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
3. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
4. 新聞・雑誌の英語 I
5. 新聞・雑誌の英語 II
6. 新聞・雑誌の英語 III
7. 新聞・雑誌の英語 IV
8. 新聞・雑誌の英語 V
9. 中間テスト
10. エッセイの英語 I
11. エッセイの英語 II
12. エッセイの英語 III
13. プレゼンテーション I
14. プレゼンテーション II
15. 学期末テスト
16. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、小レポート、中間テスト、学期末テストを総合的に判断して評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書を持参すること。
- ・自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- ・3分の2以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・事前に指示された課題を行った上で出席すること。
- ・授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1. The Slippery Case of the Missing Butter
3. "
4. 発表
5. Topic 5. Success Story Starts with a Goat (I)
6. Topic 6. Success Story Starts with a Goat (II)
7. "
8. 発表
9. Topic 10. DNA Testing Is Unsettling Paternity Law
10. "
11. 発表
12. Topic 21 The Basques
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。
- ・加えて、レポート提出日には、教科書に関連する英語の記事を調査し、指示されたやり方でまとめておくこと。
- ・発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

- 教科書：
1. 九頭見一士『Snapshots of Life Today』（朝日出版社）830/K-8
 2. Humorous Homestay Stories（南雲堂）ISBN: 9784523175544

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

英語 B I English B I

対象学科（コース）：電気電子・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Crops for Food or Fuel?
3. Oceans Awash in Toxic Plastic
4. Global-warming Super Typhoons
5. Slingshot: Water Purification Innovation
6. Engineering Earth is Possible
7. Engineering Earth is Possible
8. Review
9. Making Stem Cell Therapy into Reality
10. Learning from the 2011 Tohoku Tsunami
11. Gigantic Oil Spills and Clean-ups
12. Public Construction Projects Under Review
13. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
14. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834

9. オフィスアワー

木曜日 4限目（総合教育棟 4階 414）
 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
 総合システム工学科・マテリアル工学科
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction / Annotated Art: Netherlandish Proverbs
2. Symmetry Breaking (1)
3. Symmetry Breaking (2)
4. Symmetry Breaking (3)
5. A Brief Look at Relativity (1)
6. A Brief Look at Relativity (2)
7. A Brief Look at Relativity (3)
8. Review Test 1
9. Reading National Geographic (1)
10. Reading National Geographic (2)
11. Evolution Goes Digital (1)
12. Evolution Goes Digital (2)
13. The Archaeology of Toothbrushes (1)
14. The Archaeology of Toothbrushes (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：『The Universe of English II』（東京大学出版会）837.7/T-1/2

参考書：新版研究社英和中辞典（第7版）（辞書を持たない人に）833/K-31/7（研究社）

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6（英英辞書に関心がある人に）

9. オフィスアワー

水曜日（17：00～18：00）（総合教育棟 3階：S313）

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・

応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

科学技術や環境問題、自然などの様々な科学に関する題材に英語で触れることで、科学論文の読解能力の基礎を培うとともに、国際社会で活躍するための教養を育むことを目標とする。また、与えられた英文の構造、組み立て方を学ぶことで、より難易度の高い英文読解の礎を築くとともに、自らの興味のある題材を英語を用いて発信する能力を育成する。

2. キーワード

科学技術、環境問題

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Welcome to My Bower
3. Memory
4. Exotic Species
5. Smells Like Trouble
6. Seven Sisters
7. Review Activity 1
8. Danger-Detecting Animals
9. Denizens of Antarctica
10. Sky Watchers
11. One-celled Wonder
12. Coral Reef
13. Moon Rocks
14. Wind Power
15. Review Activity 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- ・授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読み、指示した課題をやってもらうこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Square（成美堂）ISBN: 9784791910830

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前に掲示
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B I English B I

対象学科（コース）：

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 池田 景子

1. 概要

人間の脳をテーマに扱った Sally P. Springer & Georg Deutsch による「Left Brain, Right Brain」に挑戦する。本書は当該テーマに関する専門知識のない者にも読めるように書かれているが、人間の脳が持つ機能から脳と言語活動への関連性まで、幅広く網羅しており、大学生にふさわしい知的題材である。また、編集された英文ではなく、原書に敢えて挑戦することで、大学院で将来必要になる、論文の書き方や読み方の基礎を学び取っていく。また、TOEFL 対策としてリスニングの練習をするため、小テストを毎回行う。

2. キーワード

脳、言語、精読

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
3. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
4. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
5. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
6. Chapter 1: Evidence from Brain Damage and the Rise of Neuropsychology
7. 中間テスト
8. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
9. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
10. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
11. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
12. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
13. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
14. Chapter 2: Splitting the Brain: Insights from the Surgical Separation
15. 課題提出
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

平常点、課題提出、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。但し、リスニング小テストを10パーセント以上含める。上記の総合評価が60点以上になった者を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とするため、十分注意すること。
- ・予習、復習を前提とした授業形態である点を心に留めること。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・辞書を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習・復習・課題の範囲は授業内で指示する。また、課題は期日内に仕上げて発表・提出すること。期日を守らないものには単位を出さないので、注意すること。

8. 教科書・参考書

- ・ハンドアウトを配布する。
- ・参考書：Left Brain, Right Brain: Perspective from Cognitive Neuroscience (Series of Books in Psychology) (第5版) ISBN-10: 0716731118/ISBN-13: 978-0716731115

9. オフィスアワー

質問等は講義終了後に申し出てください。

英語 B I English B I

対象学科（コース）：建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義は、スタンフォード大学で行われた集中講義録の読解を通し、総合的な英語読解能力を高めることのみならず、枠組みにとられない柔軟な発想力を身につけることを目的としている。毎回の授業ではそれぞれ担当者を決め、授業内容に関連した英語でのプレゼンテーションを行ってもらうが、その際、自らの論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。また、毎回の授業では、語彙力強化の為、テキストに即した単語テストを行う。

2. キーワード

リーディング、プレゼンテーション、論理的思考力、主体的学習

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Buy One, Get Two Free -1
3. Buy One, Get Two Free -2
4. Buy One, Get Two Free-3
5. The Upside-Down Circus -1
6. The Upside-Down Circus -2
7. The Upside-Down Circus -3
8. Bikini or Die -1
9. Bikini or Die -2
10. Bikini or Die -3
11. Please Take Out Your Wallets -1
12. Please Take Out Your Wallets -2
13. Please Take Out Your Wallets -3
14. The Secret Sauce of Silicon Valley -1
15. The Secret Sauce of Silicon Valley -2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はパワーポイント、あるいはレジュメ等の資料を作成すること。

8. 教科書・参考書

What I Wish I Knew When I Was 20 (Tina Seelig) ISBN: 978-0-06-204741-0

9. オフィスアワー

メールにて対応します。

tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・

電気電子工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英文理解、文献調査、発表の仕方、発表の聞き方、質問の仕方等を学ぶ。ニュース英語の概要を理解する。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション
2. 発表と評価
3. 発表と評価
4. 発表と評価
5. 発表と評価
6. 発表と評価
7. 発表と評価
8. 中間テスト
9. 発表と評価
10. 発表と評価
11. 発表と評価
12. 発表と評価
13. 発表と評価
14. 発表と評価
15. 学期末テスト
16. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各自オピニオンシートを作成したうえで出席すること。
- ・発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。
- ・発表担当箇所に関する疑問は、オフィスアワーなどを利用して事前に解決しておく。

8. 教科書・参考書

- ・辞書
- ・TOEFL テスト ITP リーディング完全攻略（アルク）ISBN: 978-4-7574-1021-3

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）
学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 2. By Bike round Australia (I)
3. Topic 3. By Bike round Australia (II)
4. "
5. 発表
6. Topic 8. Change of Heart
7. "
8. 発表
9. Topic 11. From The Daydreamer
10. "
- 11.
12. Topic 14. Knowing Where You Stand
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ 毎回辞書を持参すること。
- ・ 図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。加えて、レポート提出日には、与えられたテーマについて、自分の意見を英語にまとめておくこと。発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：

1. Snapshots of Life Today (朝日出版社) 830/K-8
2. Topics and Tactics for the Toefl Test (南雲堂) 830.7/K-141

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 B II English B II

対象学科（コース）：電気電子・マテリアル（人間科学科目）
学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。また TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題、

3. 到達目標

- ・ さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・ 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. A Bright Future for LED Lights
3. Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
4. Civil Engineers Test New Concrete
5. Solar-powered Planes and Yachts
6. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
7. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
8. Review
9. Electric Cars
10. Preparing for the Trip to Mars
11. 3D TV Gadget
12. Controlling Cadget with Your Own Thoughts
13. Gesture-based Computing
14. Gesture-based Computing
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。なお評価に TOEFL に関連した内容を 10%以上含める。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：1.Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834

教科書：2.Boost Your English 2 --Practice for TOEFL UTP--- (Seibido) 830.7/S-95/2

9. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外にも、アポイントメントにより面談可能

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. How Strange Is the Universe? (1)
2. How Strange Is the Universe? (2)
3. What Is Sleep For? (1)
4. What Is Sleep For? (2)
5. What is Sleep For? (3)
6. What Science Can and Cannot Predict (1)
7. What Science Can and Cannot Predict (2)
8. Review Test 1
9. Living in a Packaged World (1)
10. Living in a Packaged World (2)
11. Living in a Packaged World (3)
12. Consumption as a Way of Life (1)
13. Consumption as a Way of Life (2)
14. Consumption as a Way of Life (3)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Universe of English II (東京大学出版会) 837.7/T-1

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第7版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6 (英英辞書に関心がある人に)

9. オフィスアワー

水曜日(17:00~18:00)(総合教育棟3階:S313)

英語 B II English B II

対象学科(コース)：機械知能・電気電子・
応用化学(人間科学科目)

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

人間が人間である限り、時代を超えていつまでも話題になり、議論を呼び、深く考えさせるような題材に英語で触れることで、読解能力の基礎を培うとともに教養を深めることを目標とする。また、与えられた英文の構造、組み立て方を学ぶことで、自らの興味のある題材を英語を用いて発信する能力を育成する。

2. キーワード

社会問題、環境問題

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Cruelty of Strangers
3. Fertility Now
4. Crime and Punishment
5. Education
6. The Disabled
7. Review Activity 1
8. Strange Brains
9. Marriage
10. Gender
11. Globalization
12. Cults
13. Immigrants
14. Gambling
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(課題、発表、小テストを含む)と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用(携帯内蔵辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- ・授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読み、指示した課題をやってもらうこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Burning Issues(松柏社) ISBN: 9784881986950

TOEFL 教材は別途指示する。

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前に掲示
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B II English B II

対象学科 (コース): 建設社会工学科

学年: 1 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 池田 景子

1. 概要

前期に引き続き、人間の脳をテーマに扱った Sally P. Springer & Georg Deutsch による「Left Brain, Right Brain」に挑戦する。本書は当該テーマに関する専門知識のない者にも読めるように書かれているが、人間の脳が持つ機能から脳と言語活動への関連性まで、幅広く網羅しており、大学生にふさわしい知的題材である。また、編集された英文ではなく、原書に敢えて挑戦することで、大学院で将来必要になる、論文の書き方や読み方の基礎を学び取っていく。また、TOEFL 対策としてリスニングの練習をするため、小テストを毎回行う。

2. キーワード

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
3. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
4. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
5. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
6. Chapter 5: The Puzzle of the Left-Hander
7. 中間テスト
8. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
9. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
10. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
11. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
12. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
13. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
14. Chapter 6: Sex Differences in Cognition and Asymmetry
15. 課題提出
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

平常点、課題提出、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。但し、リスニング小テストを 10 パーセント以上含める。

上記の総合評価が 60 点以上になった者を合格とする。

TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とするため、十分注意すること。
- 予習、復習を前提とした授業形態である点を心に留めること。
- 授業態度が悪い場合 (私語、内職、携帯の使用など) は減点や除名の対象となることがある。
- 辞書を持参すること。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

予習・復習・課題の範囲は授業内で指示する。また、課題は期日内に仕上げて発表・提出すること。期日を守らないものには単位を出さないの、注意すること。

8. 教科書・参考書

- ハンドアウトを配布する。
- 参考書: Left Brain, Right Brain: Perspective from Cognitive Neuroscience (Series of Books in Psychology) (第 5 版) ISBN-10: 0716731118 / ISBN-13: 978-0716731115
- Mastering the TOEFL iBT: Reading and Listening (研究社) ISBN: 978-4-327-42181-6

9. オフィスアワー

質問等は講義終了後に申し出てください。

英語 B II English B II

対象学科 (コース): 建設社会工学科

学年: 1 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

前期に引き続き、本講義ではスタンダード大学集中講義録をテキストとして用い、英語読解能力を高めることに加え、創造的な発想力の強化を図ることを目的とする。前期同様、毎回の授業において担当者を決め、テキストの内容に即したプレゼンテーションを行ってもらう。さらには、単語テストも毎回実施する。TOEFL ITP 対策も同時に行っていく。

2. キーワード

リーディング、プレゼンテーション、論理的思考力、主体的学習

3. 到達目標

読解および聴解において、単純もしくは複雑な意味を理解できる基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. No Way...Engineering Is for Girls -1
3. No Way...Engineering Is for Girls -2
4. Turn Lemonade into Helicopters -1
5. Turn Lemonade into Helicopters -2
6. Turn Lemonade into Helicopters -3
7. Paint the Target around the Arrow -1
8. Paint the Target around the Arrow -2
9. Paint the Target around the Arrow -3
10. Will This Be on the Exam? -1
11. Will This Be on the Exam? -2
12. Will This Be on the Exam? -3
13. Experimental Artifacts -1
14. Experimental Artifacts -2
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- 十分な予習をすること。
- 積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はパワーポイント、あるいはレジュメ等の資料を作成すること。

8. 教科書・参考書

What I Wish I Knew When I Was 20 (Tina Seelig) ISBN: 978-0-06-204741-0

TOEFL ITP テスト 本番模試 [改訂版] (旺文社) ISBN: 978-4-01-094023-5

9. オフィスアワー

メールにて対応します。

tmnagakawa@yahoo.co.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

演習型授業。最終的な目標は英語で情報発信ができるようになること。英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って構成される。よって、これを理解することにより、的確に読み、理解される文章を書き、話すことができる。本授業では、英文の特徴を分析しながら英文を読み、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の後半には、口頭発表による情報発信も行う。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Report
3. Report
4. Report
5. Speech
6. Essay
7. Essay
8. Speech
9. Review
10. Review
11. Project
12. Project
13. Critiques
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、小レポートを総合的に判断して評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- ・3分の2以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- ・自主学习として、図書館のJapan Timesや、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuriなどの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・事前に指示された課題を行った上で出席すること。
- ・授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Chap 1 Herbivorous Males
3. Chap 3 Uniformity
4. Chap 4 Universities in Japan
5. Chap 5 English as a Lingua Franca
6. Chap 7 Immigrants Needed
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館のEnglish Journal等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

Good-bye, Galapagos-Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ ラーニング) ISBN 978-4-86312-216-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Four-legged fish
3. Reproduction without males
4. Deeper and deeper
5. An explosive world heritage
6. Fierce fungi
7. Extreme weather
8. Review
9. Finding Nessie
10. Crop circles
11. Smart roots
12. Insecticide resistance
13. Unwelcome guests
14. Gallileo's inclined plane
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。（私語、内職、携帯電話等は厳禁。）
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Updates (Seibido) ISBN: 9784791947836

9. オフィスアワー

木曜日 4限目（総合教育棟 4階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とスピーチを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Daisy Miller についての全体説明
2. Daisy Miller (1)
3. Daisy Miller (2)
4. Daisy Miller (3)
5. Daisy Miller (4)
6. Daisy Miller (5)
7. Review Test 1
8. Daisy Miller (6)
9. Daisy Miller (7)
10. Daisy Miller (8)
11. Daisy Miller (9)
12. Daisy Miller (10)
13. スピーチ (1)
14. スピーチ (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：『Daisy Miller』（研究社）ISBN: 9784327012694

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第7版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）（総合教育棟 3階：S313）

英語 C I English C I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

科学技術、環境問題など、身近な問題を扱う英文を的確に読む力を培う。特に、英文構造を、日本語との対比研究や他の認知機能との相互作用の中でとらえることで、英文法のより根本的な理解を目指す。また、簡単な英語を用いて情報発信する訓練をする。

2. キーワード

科学技術、環境問題、プレゼンテーション

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Psychology
3. Women
4. Young People
5. Food
6. Presentation
7. Presentation
8. Presentation
9. Space
10. Language
11. Family
12. Work
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加 (課題、発表、小テストを含む) と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用 (携帯内蔵辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- ・ 毎回辞書を持参すること。
- ・ 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

・ 各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読んでおくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや英字新聞、書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書 : A World of Ideas (南雲堂) ISBN: 9784523177180

9. オフィスアワー

- ・ オフィスアワー : 研究室前に掲示
- ・ 研究室 : 総合教育棟 412
- ・ 連絡先 : maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にした DVD、CD を活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、「英語耳」を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解、外国から見た日本の特徴を知る比較文化的視野を持つこと。

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Waste Not, Want Not
3. Unit 2 Dancing Toward Closer Friendship
4. Unit 3 Creature Comforts
5. Unit 4 White-hat Hackers Wanted
6. Unit 5 Rescue Bike
7. Unit 6 Crash Course Boom
8. Unit 7 Big Returns
9. Unit 8 Sweet Acts of Kindness
10. Unit 10 Cafes Beyond Coffee
11. Unit 11 Indoor Navigation
12. Unit 12 Reaching New Heights
13. Unit 14 Fishing for a Market
14. Unit 15 Stressing the Rural Life
15. 関連情報を使ったまとめ

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。(授業内活動に関して初回の授業で配点を詳しく説明するので、必ず出席すること)

6. 履修上の注意事項

- ・ 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・ 毎回辞書を持参すること。(携帯電話の辞書機能は使用禁止)
- ・ 授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・ 教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・ 予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしておくこと。
- ・ 毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- ・ 復習方法としては「音読」、「付属 DVD を使ったシャドーイング」を勧める。最低でもスクリプトを 3 回音読し、DVD を視聴すること。
- ・ 本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語で日本の社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書 : What's on Japan 10 (金星堂) ISBN: 9784764740136

9. オフィスアワー

授業時間前後

(連絡方法はオリエンテーションで伝えます)

英語 C I English C I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

英字新聞記事を読むことにより、英語の運用能力を高めると同時に、現代という時代を感知し、視野を広げ、新しい時代に向けた知見を得ることを目標とする。英文読解力を強化し、練習問題を通じ、リスニング力、ライティング力と総合的に英語の能力を高めていく。関連する学習として、毎回、最新のニュースの提示、解説も行なう。英語を読み解き、英文を通じ、現代社会を捉え、未来への橋渡しとすることを教育目標とする。

2. キーワード

英字新聞読解、最新ニュース、文法理解

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 1 Scientists Akasaki, Amano, Nakamura win Nobel Prize in Physics
3. Chapter 1 Scientists (2)
4. Chapter 2 A name for Britain's new princess: Charlotte Elizabeth Diana (1)
5. Chapter 2 A name (2)
6. Chapter 3 Stem cell transplant gives hope to patients suffering from eye (1)
7. Chapter 3 Stem cell (2)
8. Chapter 4 Renowned actor Ken Takakura dies at 83 (1)
9. Chapter 4 Renowned actor (2)
10. Chapter 5 Japan successfully launches Hayabusa2 space probe (1)
11. Chapter 5 Japan (2)
12. Chapter 6 Scots reject independence in historic vote (1)
13. Chapter 6 Scots (2)
14. Chapter 7 "Asatte-kun" author recalls 40-year run of comic in the Mainichi Shimbun
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- ・各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- ・小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書: 『News Gallery 2016』 (Kaibunsha Publications)
ISBN: 978-4-87571-727-0 C1382

参考書: リーダース英和辞典 (研究社) の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。メールアドレス: teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

この授業では「生物環境」、「自然資源」、「医療」、「生活様式」に関する内容を盛り込んだ科学的な読み物を取り上げて、現代社会において問題視されている話題に目を向け、興味、関心を持つことを目標とする。

2. キーワード

日常的基礎知識、基本的文法力、読解力、リスニング力

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション (授業の進め方、目標等の説明)
2. Unit 1. Four-Legged Fish
3. Unit 2. Reproduction Without Males
4. Unit 3. Deeper and Deeper
5. Unit 4. An Explosive World Heritage
6. Unit 5. Fierce Fungi
7. Unit 6. Extreme Weather
8. Unit 7. Smart Roots
9. Unit 8. Galileo's inclined Plane
10. Unit 9. The G Factor
11. Unit 10. A trip to the Land of Nod
12. Unit 11. Lab-Grown Organs
13. Unit 12. Looking for New Earths
14. Unit 13. Carbon Capture and Storage
15. Unit 14. 試験
16. Unit 15. 試験の解説等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験 (70%)

出席点、受講態度 (30%) により総合的に評価し、60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

予習: 次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習: 前回の本文の内容をまとめておき、次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書: 『Science Updates』 (SEIBIDO) ISBN: 9784791947836

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 池田 景子

1. 概要

Arthur Conan Doyle の Holmes シリーズのひとつ“The Speckled Band”を読む。書かれている英語の構文を理解して、あらすじを追うだけに終わらず、小説特有の表現（比喩、アイロニーなど）にも注目することで、作品に対する理解を深め、異文化理解の一端を極めていく。

2. キーワード

異文化理解、読解、文学

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション (Doyle と Holmes について概説)
2. “The Speckled Band” (1)
3. “The Speckled Band” (2)
4. “The Speckled Band” (3)
5. “The Speckled Band” (4)
6. “The Speckled Band” (5)
7. 中間テスト
8. “The Speckled Band” (6)
9. “The Speckled Band” (7)
10. “The Speckled Band” (8)
11. “The Speckled Band” (9)
12. “The Speckled Band” (10)
13. “The Speckled Band” (11)
14. “The Speckled Band” (12)
15. 課題提出
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

平常点、課題提出、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。但し、毎回行う小テストを10パーセント以上含める。

上記の総合評価が60点以上になった者を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とするため、十分注意すること。
- ・予習、復習を前提とした授業形態である点を心に留めること。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・辞書を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習・復習・課題の範囲は授業内で指示する。また、課題は期日内に仕上げて発表・提出すること。期日を守らないものには単位を出さないの、注意すること。

8. 教科書・参考書

- ・ハンドアウトを配布する。
- ・参考書1（原書）：The Complete Sherlock Holmes：ISBN: 978-0-553-328257
- ・参考書2（日本語注釈つき）：The Adventures of Sherlock Holmes（英光社）ISBN: 978-4-87097-006-9

9. オフィスアワー

質問等は講義終了後に申し出てください。

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 河野 世莉奈

1. 概要

本講義では、大統領選、人種問題、法律問題や移民問題などの主にアメリカにおける問題をテーマにした英文を読み解くことで、読解力を高めると同時に、現代社会における問題に意識的になり、様々な問題を英語で考えられるようになることを目的とする。1回の授業につき1つのチャプターを読む。受講者には、各チャプターのテーマに沿ったプレゼンテーションを英語で行ってもらう予定である。プレゼンテーションを通して、テーマに対する意識を高め、自己表現力と他人の考えを取り入れつつ視野を広げる力を身につけてほしい。毎回の授業では、語彙力チェックのために、単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The First African-American President
3. From an Eloquent Orator to a Practitioner
4. Struggles for Freedom and Self-respect
5. Prospects for the Automobile Industry
6. An Encounter with Destiny
7. The Statue of Liberty
8. Keys to Success
9. Transformation in New York
10. A Surprising Exhibition in front of the White House
11. Lawsuits and Self-justification
12. Legitimate Self-defense or Excessive Self-defense
13. Too Much is as Bad as Too Little
14. From Japan's Food Culture to Zen Buddhism
15. The United States Composed of Immigrants
16. 期末試験

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度30%、プレゼンテーション20%、小テスト10%、期末テスト40%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・予習：毎回の授業で次回の予習範囲を指示するので、しっかり準備をしてきてください。特に不明な単語は調べておくこと。単語テストにも備えてください。
- ・復習：間違えた問題を中心に、授業で学習したことを再確認する時間をとるようにしてください。
- ・プレゼンテーション：プレゼンテーション担当の学生は、スムーズに行えるように、原稿をしっかり準備すること。必要であれば、自分の意見やテーマに沿った写真などを載せたレジュメを配布してもよい。

8. 教科書・参考書

教科書：Japan and U.S. Relations for a Better Future 連動するアメリカと日本の社会（松柏社）ISBN: 9784881986387

9. オフィスアワー

質問等は、講義終了後あるいは、メールで受け付けます。
E-mail: serinako29@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 今川 京子

1. 概要

英語で児童文学を精読することで、読解力や思考力を養成しつつ、テキストを読んだ後に自分の感想や意見を英語で相手に伝える自己表現力を身に付けることを目標とする。各チャプター読後は、英語でサマリーを提出してもらうことで、要約し、自分の言葉で言い換えて英語で書くライティング能力の向上を図る。また、テキストでは文字化されない「行間」を読み取る感性を培うと同時に、物語ならではの英語のリズムやテンポ、ユーモアに触れ、楽しみながら英語と児童文学の世界を吸収することを目指す。

2. キーワード

リーディングスキル、理論的思考力、プレゼンテーション、異文化理解

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Karlson on the Roof
3. Karlson Builds a Tower
4. Karlson Pitches a Tent
5. Karlson Lays a Bet
6. Karlson Has a Lark
7. Karlson Plays Spook
8. Karlson Uses Magic
9. Karlson Attends a Birthday Party
10. English Presentation (1)
11. English Presentation (2)
12. English Presentation (3)
13. English Presentation (4)
14. English Presentation (5)
15. Review *Karlson on the Roof*

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、プレゼンテーション 10%、確認テスト・課題 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で 60%以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3分の2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のあるテキストの該当箇所を事前に読み、内容を把握しておくこと。授業後に提示する課題を次の授業時にきちんと提出すること。また授業のなかでペアになり互いに授業で読んだ箇所について内容確認の問題を出し合う活動を取り入れるので、毎回 3つほど英語で質問を考えてくること。

8. 教科書・参考書

教科書：『Karlson on the Roof』(Oxford UP, 2008) ISBN: 978-0192727725

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
e-mail: kyoko.gyan@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test
16. Explanation

5. 評価の方法・基準

Class attendance (20%)、Class participation (20%)、Final test (60%)。

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

今回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：『The UK & the USA』(南雲堂) 830/O-10

9. オフィスアワー

授業時間 15分前後 iida0818@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

AFP World Academic Archive のニュース映像と合わせて、世界中で起こる現代社会の様々な問題に触れながら、英語を聞き内容を理解する力と、英文を読み内容を理解する力を培い、総合的な英語力の向上を目指します。また、各課のテーマについて問題意識をもち、自ら意見を述べる力を培います。適宜に、パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高めます。また、各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションを行い、積極的な授業への参加を期待します。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. イントロダクション.
2. Lesson 4. Climate Change.
3. Lesson 5. Food Safety.
4. Lesson 6. Alternative Energy.
5. Lesson 7. Women and Education.
6. Lesson 9. Wildlife and Development.
7. Lesson 12. The Berlin Wall.
8. Lesson 14. Luxurious Items.
9. Lesson 15. Immigration Policy.
10. Lesson 16. Future Technology.
11. Review
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ヴェニスの商人』
—名場面より
13. 『ヴェニスの商人』のDVD鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2 回目から 10 回目までは各 Lesson の予習をしてください。3 回目から 11 回目までは前 Lesson の復習、及び、復習小テストの勉強をしてください。12 回目は『ヴェニスの商人』の予習をしてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：『AFP World News Report 3』（2016 年度版）成美堂 ISBN978-4-7919-4793-5 C1082

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義は、小説・詩・伝記・エッセイを始めとする英語で書かれた良質な「文学作品」に触れることで、総合的な英語読解能力を身につけると同時に、文章を読み解く力を養うことを目的としている。毎回の授業ではそれぞれ担当者を決め、「文学」に関する英語でのプレゼンテーションを行ってもらうことを通し、自らの論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化の為、授業内容に即した単語テストを行う。

2. キーワード

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Language of Humor
3. George Bernard Shaw, Pygmalion
4. Japanese Stories in Translation: Kenji and Ryunosuke
5. Suzanne Vega, "Luca"
6. Two Autobiographies: Martin Luther King and Ellen Glasgow
7. Graham Green, A Sort of Life
8. Raymond Carver の短篇小説
9. Haiku and Japanese Poems
10. Four Types of Poetry
11. Tennessee Williams, A Streetcar Named Desire
12. Benjamin Franklin, "Thirteen Virtues" and "Poor Richard's Maxims"
13. Tim O'Brien, "Ambush"
14. Lori Peikoff, "Table for Two"
15. Charles Dickens, *Great Expectations*

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：American Dynamics（金星堂） ISBN: 9784764739444

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C I English C I

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 1) Read the text book before class.
- 2) Check the meaning of keywords before class using dictionaries and internet.
- 3) Be ready to discuss readings in class.

8. 教科書・参考書

『Realise Britain』(Kinseido) ISBN: 978-4-7647-3982-6

9. オフィスアワー

Mondays: 12:00 – 2:30pm.
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

英語 C I English C I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Overview of class, video homework
2. Seminar: Video homework/Chapter 1 Food
3. Seminar: Video homework & Chapter 1/Chapter 2 Urban Problems
4. Seminar: Video homework & Chapter 2/Chapter 3 Culture
5. Seminar: Video homework & Chapter 3/Chapter 4 Environment
6. Seminar: Video homework & Chapter 4/Chapter 5 Work
7. Seminar: Video homework & Chapter 5/Chapter 6 Health
8. Seminar: Video homework & Chapter 6/Chapter 7 Family
9. Seminar: Video homework & Chapter 7/Chapter 8 Money/Financial Problems
10. Seminar: Video homework & Chapter 8/Chapter 9 Gender Issues
11. Seminar: Video homework & Chapter 9/Chapter 10 Personal Issues
12. Seminar: Video homework & Chapter 10/Chapter 11 Space
13. Seminar: Video homework & Chapter 11/Chapter 12 Social Media
14. Seminar: Video homework & Chapter 12/Chapter 13 Global Militarization
15. Exam
16. Seminar: Video homework & Chapter 13/Review

5. 評価の方法・基準

Weekly Seminar Reports 40%, Chapter Homework 40%, Tests 20%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Watch the Youtube videos (class homework) that relate to each theme and write out important questions and comments to talk about in class. Also, read ahead in the next chapter so as to familiarize yourself with the tasks and vocabulary.

8. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Third Edition) (Perceptia Press) ISBN: 9781411680692

9. オフィスアワー

Monday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00
Tuesday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00
long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406 General Education Building)

英語 C II English C II

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

演習型授業。最終的な目標は英語で情報発信ができるようになること。英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って構成される。よって、これを理解することにより、的確に読み、理解される文章を書き、話すことができる。本授業では、英文の特徴を分析しながら英文を読み、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の後半には、口頭発表による情報発信も行う。

2. キーワード

英文スタイル、作文

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Report (1)
3. Report (2)
4. Report (3)
5. Speech (1)
6. Essay (1)
7. Essay (2)
8. Speech (2)
9. Review (1)
10. Review (2)
11. Project (1)
12. Project (2)
13. Critiques (1)
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、小レポートを総合的に判断して評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- ・3 分の 2 以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- ・自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・事前に指示された課題を行った上で出席すること。
- ・授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー : 研究室前の掲示を参照
- ・研究室 : 総合教育棟 410
- ・連絡先 : hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C II English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Chap 8 Manga
3. Chap 9 Lack of Entrepreneurs
4. Chap 10 Distinctive Kansai
5. Chap 12 Japanese Quality Food
6. Chap 13 Craze Culture
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト 予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

Good-bye, Galapagos-Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ ラーニング) ISBN: 978-4-86312-216-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室 : 総合教育棟 S408)

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Thw Washington Cherry Trees
3. A Modern Day Japanese Knight
4. Mona Lisa---A Mysterious Painting
5. Space Shuttle Challenger
6. Honesty Wins
7. The Family Bridge
8. Dr.Shinya Yamanaka
9. Made in Japan
10. Youth
11. Deadly Progress
12. John Matthew Ottoson
13. It's a No-brainer
14. The Genius in You
15. A Commitment to Honesty: Academic Integrity

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 Reading Compass (Sanshusha) ISBN: 9784384334494C1082

9. オフィスアワー

木曜日 4限目（総合教育棟 4階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とスピーチを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. The Castle of Otranto についての全体説明
2. The Castle of Otranto (1)
3. The Castle of Otranto (2)
4. The Castle of Otranto (3)
5. The Castle of Otranto (4)
6. The Castle of Otranto (5)
7. Review Test 1
8. The Castle of Otranto (6)
9. The Castle of Otranto (7)
10. The Castle of Otranto (8)
11. The Castle of Otranto (9)
12. The Castle of Otranto (10)
13. スピーチ (1)
14. スピーチ (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Castle of Otranto (Oxford Classics)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第7版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）（総合教育棟 3階：S313）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

やや難解な英文を読解することで、英文読解力を高めるとともに、扱われた topic を通じて日々変容する世界への洞察を深める。また、十分な情報収集を行い、人を惹きつける情報提示の方法を模索する。

2. キーワード

環境問題、プレゼンテーション

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. orientation
2. The Wisdom of Crowds
3. The Language of Culture
4. The Happiest Day of Our Lives
5. You Are What You Eat
6. The Paperless Office?
7. Wonderbrain
8. In the Name of God
9. Presentation/Teaching/Pros and Cons
10. Presentation/Teaching/Pros and Cons
11. Presentation/Teaching/Pros and Cons
12. Presentation/Teaching/Pros and Cons
13. Presentation/Teaching/Pros and Cons
14. Presentation/Teaching/Pros and Cons
15. Presentation/Teaching/Pros and Cons
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読んでおくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや英字新聞、書籍などで調べること。
- ・プレゼンテーションのための十分な情報収集や効果的のプレゼンテーション方法の学習を行うこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Knowledge in the Making（成美堂）ISBN: 9784791910458

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前に掲示
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

本授業は ABC News の DVD 映像を通してアメリカの社会現象・社会問題を疑似体験し、コミュニケーションの第一歩であるリスニング力を高め、情報をキャッチする力を養うことが第一目標とする。さらに、そのスクリプトを読解し、内容を詳細に検討し解釈することで、各人が自身の考えを発展させ、物事を見る視点を広げてゆくことをさらなる目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解、考える力

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Royal Visit: Prince William in Japan
3. Unit 2 Free-Range Parenting
4. Unit 2 Free-Range Parenting
5. Unit 3 Security Breach: Drone Crashes on White House Lawn
6. Unit 3 Security Breach: Drone Crashes on White House Lawn
7. Unit 5 Operation Pizza
8. Unit 6 Big Powerball Jackpot Growing
9. Unit 8 Real Money Investigation: Thieves Holding Your Data Hostage
10. Unit 8 Real Money Investigation: Thieves Holding Your Data Hostage
11. Unit 9 Burger Wars: Billion Dollar Burger?
12. Unit 9 Burger Wars: Billion Dollar Burger?
13. Unit 13 Measles on the Move
14. Unit 13 Measles on the Move
15. より視野を広げる活動：まとめと考察

5. 評価の方法・基準

評点の満点を100%とし、その内授業での発言や活動を40%、定期試験を60%として評価する。総合評価で60%以上を合格とする。（初回の授業で配転の説明詳しくするので、必ず出席すること）

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。（携帯電話の辞書機能は使用禁止）
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。
- ・授業の進み方が変則的なので注意すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしておくこと。
- ・毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- ・復習方法としては「音読」、「付属 DVD を使ったシャドーイング」を勧める。具体的には DVD を見ながらニュースの英語が理解できるまで聞くこと。
- ・本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語でアメリカの社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：ABC World News 18（金星堂）ISBN: 9784764740143

9. オフィスアワー

授業時間前後
（連絡方法はオリエンテーションの時に伝えます）

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

英字新聞記事を読むことにより、英語の運用能力を高めると同時に、現代という時代を感知し、視野を広げ、新しい時代に向けた知見を得ることを目標とする。英文読解力を強化し、練習問題を通じ、リスニング力、ライティング力と総合的に英語の能力を高めていく。関連する学習として、毎回、最新のニュースの提示、解説も行なう。英語を読み解き、英文を通じ、現代社会を捉え、未来への橋渡しとすることを教育目標とする。

2. キーワード

英字新聞読解、最新ニュース、文法理解

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 8 More Japanese libraries lending e-books but challenges remain
3. Chapter 8 More Japanese (2)
4. Chapter 9 Japan, other countries, should beef up measures to prevent (1)
5. Chapter 9 Japan (2)
6. Chapter 10 Chinese tourists flocking back to Japan in droves after downturn in 201 2 (1)
7. Chapter 10 Chinese tourists (2)
8. Chapter 11 Republicans win control of U.S. Senate (1)
9. Chapter 11 Republicans (2)
10. Chapter 12 "Dangerous drugs" toxicity like Russian Roulette (1)
11. Chapter 12 "Dangerous drugs" (2)
12. Chapter 13 Time capsule dating to 1795 included coins, newspapers (1)
13. Chapter 13 Time capsule (2)
14. Chapter 14 Arab allies pledge to fight Islamic State group
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- ・各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- ・小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書: News Gallery 2016 (Kaibunsha Publications)
ISBN: 978-4-87571-727-0 C1382

参考書: リーダース英和辞典 (研究社) の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス: teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

世界のニュースを通して効果的な 4 技能の学習を目指す。採り上げるトピックはあらゆる分野に渡り、身近なもので学生の興味、関心を引くものである。難しいと思われがちなニュース英語を読むことで語彙力、読解力を培い、英語力に自信をつけることを目標とする。

2. キーワード

語彙力、読解力、英字新聞に慣れ親しむ

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

01. オリエンテーション (授業の進め方、目標等の説明)
02. 全てはコミュニティカレッジのお陰
03. スマホ使いの「ゾンビ」出現で街中が大混乱
04. 連合王国のイギリス、分裂か・他
05. 韓国旅行の目的は買い物とアゴの整形
06. 「子供の頃の夢」の巨匠
07. 麻薬取引でアマゾン川辺境の植民地が一変
08. 3D プリンターで医療が変わる
09. 女性がテロリストになる時
10. 野球のインタビューで通訳されないこと
11. 裁判で「絵文字」は証拠物件に採用されるのか
12. 小麦派と米派
13. LED 照明がノーベル物理学賞に輝く
14. 難民の流入を食い止めるためブルガリアは壁を建設
15. 期末試験
16. 試験の説明等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験 (70%)

出席点、受講態度 (30%) により総合的に評価し、60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

予習: 次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習: 前回の Unit に関連するレポートを次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書 15 Selected Units of English through the News Media (Asahi Press) ISBN: 9784255155890

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようにすることを目標とする。内容については、現代社会のニーズに応ずるため、「ナウル島の問題」「良い教師とは」「デートの作法」「男性の脳、女性の脳」など社会生活に直接的に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

社会的話題、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Island of Nauru
3. Impact of Good Teachers
4. Dating
5. The Different Layers of the Brain
6. Mirror Neurons
7. Sugar Addiction
8. これまでのまとめと表現活動
9. Active Listening
10. Nostalgia
11. Right Brain-Left Brain
12. Winning Friends and Influencing People
13. The Evolution of Marriage
14. Male and Female Brains
15. これまでのまとめと表現活動
16. 試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験 - 60%
 - (2) 授業での小テスト - 20%
 - (3) 授業での発表や提出物 - 20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。
- ・授業終了時に示す英作文課題を完成させ提出すること。
- ・毎回の授業の復習をすること。

8. 教科書・参考書

教科書 : Life Topics 3 : Deeper Connections (南雲堂) ISBN: 978-4-523-17823-1 C0082 (その他、適宜プリントを配布する。)

9. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール (アドレス : morichiz@fukuoka-edu.ac.jp) で随時受け付けます。

英語 C II English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 河野 世莉奈

1. 概要

本講義では、アメリカの歴史、人種問題、宗教、移民問題などをテーマにした英文を読み解くことで、読解力を高めると同時に、現代社会における問題に意識的になり、様々な問題を英語で考えられるようになることを目的とする。1 回の授業につき 1 つのチャプターを読む。受講者には、各チャプターのテーマに沿ったプレゼンテーションを英語で行ってもらう予定である。プレゼンテーションを通して、テーマに対する意識を高め、自己表現力と他人の考えを取り入れつつ視野を広げる力を身につけてほしい。毎回の授業では、語彙力チェックのために、単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The American West: Myth and Reality
3. Race and Class in America
4. Interracial Love and Marriage
5. Religion: America's Double Vision
6. The Jury System
7. Hate Crime
8. Guns and Media
9. Heros: Legends and Lies
10. War and Media: The First Casualty
11. Sports and the American Way
12. Health and Diet
13. Failing Grades: Teachers in American Public Education
14. Rock Music and American Values
15. Hollywood and 9/11
16. 期末試験

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・予習 : 毎回の授業で次回の予習範囲を指示するので、しっかり準備をしてきてください。特に不明な単語は調べておくこと。単語テストにも備えてください。
- ・復習 : 間違えた問題を中心に、授業で学習したことを再確認する時間をとるようにしてください。
- ・プレゼンテーション : プレゼンテーション担当の学生は、スムーズに行えるように、原稿をしっかりと準備すること。必要であれば、自分の意見やテーマに沿った写真などを載せたレジュメを配布してもよい。

8. 教科書・参考書

教科書 : Reading Contemporary America 15 Critical Views of Culture and Society 問題意識を持って読むアメリカ 15 のトピック (松柏社) ISBN: 9784881986400

9. オフィスアワー

質問等は、講義終了後あるいは、メールで受け付けます。
E-mail: serinako29@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 今川 京子

1. 概要

英語で児童文学を精読することで、読解力や理論的思考力を養成しつつ、テキストを読んだ後に自分の感想や意見を英語で相手に伝える自己表現力を身に付けることを目標とする。各チャプター読後は、英語でサマリーを提出してもらうことで、要約し、自分の言葉で言い換えて英語で書くライティング能力の向上を図る。また、テキストでは文字化されない「行間」を読み取る感性を培うと同時に、物語ならではの英語のリズムやテンポ、ユーモアを味わい、楽しみながら英語と児童文学の世界を吸収していくことを目指す。

2. キーワード

異文化理解、論理的思考力、リーディング・スキル、プレゼンテーション

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Little Old Mrs. Pepperpot
3. Mrs. Pepperpot Goes to Buy Macaroni
4. Christmas Present
5. The Queen of Crows
6. Mrs. Pepperpot Goes to the Bazaar
7. Mrs. Pepperpot Looks After a Baby
8. Mrs. Pepperpot Goes to Pick Bilberries
9. Lookout
10. Mrs. Pepperpot and Hidden Treasures
11. Mrs. Pepperpot's Husband
12. Mrs. Pepperpot's Coffee Cup Divination
13. Mrs. Pepperpot Climbs a Pile of Bonfire
14. English Presentation (1)
15. English Presentation (2)

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、プレゼンテーション 10%、確認テスト・課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・予習として事前に次回の授業で扱う範囲の章を読んでくること。また授業のなかでペアになり互いに授業で読んだ箇所について内容確認の問題を出し合う活動を取り入れるので、毎回 3 つほど英語で質問を考えてくること。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- ・事前に指定された箇所のテーマについて考え、課題を期日までに提出すること。指定については授業の進捗状況に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書: Little Old Mrs. Pepperpot (Hutchinson, 2012)
ISBN: 978-0857540058

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後にお願いします。
e-mail: kyoko.gyan@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと日本の文化を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英日比較

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. British sports everywhere!
3. The Beatles forever.
4. From the cradle to the grave?
5. Great novelists.
6. History of the Royal Families.
7. Pound or Euro?
8. What is the Tube?
9. Two -party politics?
10. Art collections in Britain.
11. New house, old house.
12. Are British foods tasty?
13. Newspaper, TV or iPad?
14. Review
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (20%)、Class participation (20%)、Final test (60%)。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

1. 次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと
2. 不明な点は授業終了後に質問に来ると良い。個別にアドバイスをする。

8. 教科書・参考書

教科書: Cross-Cultural Views on Britain (南雲堂) ISBN: 9784523177531

9. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 池田 景子

1. 概要

Arthur Conan Doyle の Holmes シリーズのひとつ “The Red-Headed League” を読む。書かれている英語の構文を理解して、あらすじを追うだけに終わらず、小説特有の表現 (比喩、アイロニーなど) にも注目することで、作品に対する理解を深め、異文化理解の一端を極めていく。

2. キーワード

異文化理解、読解、文学

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション (Doyle と Holmes について概説)
2. “The Red-Headed League” (1)
3. “The Red-Headed League” (2)
4. “The Red-Headed League” (3)
5. “The Red-Headed League” (4)
6. “The Red-Headed League” (5)
7. 中間テスト
8. “The Red-Headed League” (6)
9. “The Red-Headed League” (7)
10. “The Red-Headed League” (8)
11. “The Red-Headed League” (9)
12. “The Red-Headed League” (10)
13. “The Red-Headed League” (11)
14. “The Red-Headed League” (12)
15. 課題提出
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

平常点、課題提出、中間テスト、学期末テストを総合的に評価する。但し、毎回行う小テストを 10 パーセント以上含める。

上記の総合評価が 60 点以上になった者を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・ 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とするため、十分注意すること。
- ・ 予習、復習を前提とした授業形態である点を心に留めること。
- ・ 授業態度が悪い場合 (私語、内職、携帯の使用など) は減点や除名の対象となることがある。
- ・ 辞書を持参すること。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

予習・復習・課題の範囲は授業内で指示する。また、課題は期日内に仕上げて発表・提出すること。期日を守らないものには単位を出さないで、注意すること。

8. 教科書・参考書

- ・ ハンドアウトを配布する。
- ・ 参考書 1 (原書) : The Complete Sherlock Holmes : ISBN: 978-0-553-328257
- ・ 参考書 2 (日本語注釈つき) : The Adventures of Sherlock Holmes (英光社) ISBN: 978-4-87097-006-9

9. オフィスアワー

質問等は講義終了後に申し出てください。

英語 C II English C II

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義では、銃規制、人種、移民といった現代アメリカ社会を考える上で不可欠なトピックと扱った英文を読み解くことで、総合的な英語能力を養うと同時に、現代社会を取り巻く問題を英語で考える能力を養うことを目的とする。受講生には、各セッションのテーマに即したプレゼンテーションを行ってもらい、毎回のセッションで扱われているトピックに関する深い考察を行ってもらおうと同時に、論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化の為に単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1 年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1, The Popularity of the Japanese Language
3. The Job Search for College Seniors
4. Visiting the Birthplace of Jazz
5. What Makes Hollywood Films Wonderful?
6. Is Illegal Immigration a Problem?
7. Gun Control: Two Opposing Sides
8. Wall Street After 9/11
9. The Future of Auto Industry
10. Major League Dreams and Odds
11. F1 Racing Comes to America!
12. Environmental Champions Muir and Pinchot
13. Balancing Growth and Protectionism
14. The Leadership of Female CEO's
15. Today's Feminist Movement (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- ・ 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・ 十分な予習をすること。
- ・ 積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書 : 『English Through Literature 文学で学ぶ英語リーディング』 (研究社) ISBN:978-4-327-42185-4

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。
tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 1) Read the text book before class.
- 2) Check the meaning of keywords before class using dictionaries and internet.
- 3) Be ready to discuss readings in class.

8. 教科書・参考書

Realise Britain (Kinseido) ISBN: 978-4-7647-3982-6

9. オフィスアワー

Mondays: 12:00 – 2:30pm.
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

英語 C II English C II

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目)

学年: 2年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

提供されるテーマや技能訓練について、1年次科目で培った基本的能力を活用することができる。

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

For homework, respond to each of the Internet postings logically and meaningfully, using long and complex sentences to express your ideas. Also, check out any of the five websites and post your comment on any of the news articles or forums. Print out your comment and any replies to it.

8. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press) ISBN: 9784939130960

9. オフィスアワー

Monday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00
Tuesday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00
long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406, General Education Building)

英語 D I English D I

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 1 単位

担当教員名 田吹 昌俊・Ian Ruxton・Robert Long・
虹林 慶・八丁 由比・大野 瀬津子・
前田 雅子・吉村 理一・田吹 香子・
雨森 未来・Denis Jonnes

1. 概要

世界の諸問題を材料にアカデミック・イングリッシュの養成をめざす、ほぼ英語のみを用いた少人数授業。分析的に文献を読む練習を通じて批判的思考力を身につけるとともに、読んだ題材に関する自分の意見を発信できるような英語運用能力を涵養する。この授業を通じ、国際社会の一員としての基礎力を高めて欲しい。

2. キーワード

cultural literacy, paragraph reading, discussion, CLIL, critical thinking

3. 到達目標

さまざまなトピックについて議論する基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 01 (preparation)
3. Topic 01 (discussion)
4. Topic 02 (preparation)
5. Topic 02 (discussion)
6. Topic 03 (preparation)
7. Topic 03 (discussion)
8. Review Test
9. Topic 04 (preparation)
10. Topic 04 (discussion)
11. Topic 05 (preparation)
12. Topic 05 (discussion)
13. Topic 06 (preparation)
14. Topic 06 (discussion)
15. Final exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業内活動を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回教科書と辞書を持参すること。
- ・教科書で扱うテーマに関する書籍やビデオ (付属図書館所蔵) を授業時間外に見ることを薦める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

毎週、指示された通りに授業の準備をしていくこと。

8. 教科書・参考書

別途指示する。

9. オフィスアワー

別途指示する。

英語 D II English D II

対象学科 (コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位数: 1 単位

担当教員名 田吹 昌俊・Ian Ruxton・Robert Long・
虹林 慶・八丁 由比・大野 瀬津子・
前田 雅子・吉村 理一・田吹 香子・
雨森 未来・Denis Jonnes

1. 概要

世界の諸問題を材料にアカデミック・イングリッシュの養成をめざす、ほぼ英語のみを用いた少人数授業。分析的に文献を読む練習を通じて批判的思考力を身につけるとともに、読んだ題材に関する自分の意見を発信できるような英語運用能力を涵養する。この授業を通じ、国際社会の一員としての基礎力を高めて欲しい。

2. キーワード

cultural literacy, paragraph reading, discussion, CLIL, critical thinking

3. 到達目標

さまざまなトピックについて議論する基本的能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 01 (preparation)
3. Topic 01 (discussion)
4. Topic 02 (preparation)
5. Topic 02 (discussion)
6. Topic 03 (preparation)
7. Topic 03 (discussion)
8. Review Test
9. Topic 04 (preparation)
10. Topic 04 (discussion)
11. Topic 05 (preparation)
12. Topic 05 (discussion)
13. Topic 06 (preparation)
14. Topic 06 (discussion)
15. Final exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業内活動を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回教科書と辞書を持参すること。
- ・教科書で扱うテーマに関する書籍やビデオ (付属図書館所蔵) を授業時間外に見ることを薦める。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

毎週、指示された通りに授業の準備をしていくこと。

8. 教科書・参考書

別途指示する。

9. オフィスアワー

別途指示する。

選択英語Ⅰ Selective English I

対象学科(コース): 全学科

学年: 全年次 学期: 前期 単位区分: 選択 単位数: 1 単位

担当教員名 渡邊 浩明

1. 概要

This intensive course is both an orientation to TOEFL (Test of English as a Foreign Language), and a communicative course aimed at improving students' oral and interactive skills. The course is divided on various academic and communicative skills as they pertain to visiting and studying abroad. Students will be asked to discuss TOEFL questions (listening, grammar and reading) in groups, and to demonstrate their competency in interactive skills.

2. キーワード

Communication, interactive skills, discussion, reading, listening, grammar, TOEFL

3. 到達目標

- To learn practical communication in English by working in pairs.
- To learn academic skills measured by TOEFL and to improve them by completing training assignments.
- To improve interactive skills through activities in pairs and in groups.

4. 授業計画

1. Introduction, TOEFL style mini-test
2. Communicative activities in pairs 1/TOEFL questions and group discussion 1
3. Communicative activities in pairs 2/TOEFL questions and group discussion 2
4. Communicative activities in pairs 3/TOEFL questions and group discussion 3
5. Communicative activities in pairs 4/TOEFL questions and group discussion 4
6. Communicative activities in pairs 5/TOEFL questions and group discussion 5
7. Communicative activities in pairs 6/TOEFL questions and group discussion 6
8. Communicative activities in pairs 7/TOEFL questions and group discussion 7
9. Communicative activities in pairs 8/TOEFL questions and group discussion 8
10. Communicative activities in pairs 9/TOEFL questions and group discussion 9
11. Communicative activities in pairs 10/TOEFL questions and group discussion 10
12. Communicative activities in pairs 11/TOEFL questions and group discussion 11
13. Communicative activities in pairs 12/TOEFL questions and group discussion 12
14. TOEFL style mini-test
15. Final Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Quiz 30%, Active participation in class activities 30%, Daily English Training 20%, Final Exam 20%

Students must have at least 60 % to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries will be needed.

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

Daily practice is required to complete Daily English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.

8. 教科書・参考書

Handouts will be provided as needed.

参考書:『TOEFL test によく出る英単語 2500』水本 篤 明日香出版社

Available at the library and Language Lounge 830.7/M-100

9. オフィスアワー

Instructor is available after each class session.

選択英語Ⅱ Selective English II

対象学科(コース): 全学科

学年: 全年次 学期: 後期 単位区分: 選択 単位数: 1 単位

担当教員名 渡邊 浩明

1. 概要

This course is both an orientation to TOEFL (Test of English as a Foreign Language), and a communicative course aimed at improving students' interactive skills. The course is focused on various academic skills as they pertain to studying abroad. Students will be asked to discuss TOEFL questions (listening, grammar and reading) in groups, and to demonstrate their competency in interactive skills.

2. キーワード

TOEFL, interactive skills, discussion, reading, listening, grammar

3. 到達目標

- To learn academic skills measured by TOEFL and to improve them by completing training assignments.
- To improve interactive skills through activities in groups.

4. 授業計画

1. Introduction, TOEFL style mini-test
2. TOEFL questions and group discussion 1
3. TOEFL questions and group discussion 2
4. TOEFL questions and group discussion 3
5. TOEFL questions and group discussion 4
6. TOEFL questions and group discussion 5
7. TOEFL questions and group discussion 6
8. TOEFL questions and group discussion 7
9. TOEFL questions and group discussion 8
10. TOEFL questions and group discussion 9
11. TOEFL questions and group discussion 10
12. TOEFL questions and group discussion 11
13. TOEFL questions and group discussion 12
14. TOEFL style mini-test
15. Final Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Quiz 30%, Active participation in class activities 30%, Weekly English Training 20%, Final Exam 20%

Students must have at least 60 % to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries will be needed.

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

Daily practice is required to complete Weekly English Training. Students must show the evidence of their training on the training sheet provided.

8. 教科書・参考書

Handouts will be provided as needed.

参考書:『TOEFL test によく出る英単語 2500』水本 篤 明日香出版社

Available at the library and Language Lounge 830.7/M-100

9. オフィスアワー

Wednesday 14:40 - 16:00

選択英語 I Selective English I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 全年次 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

This intensive course is both an orientation to student exchange programs, and a communicative course aimed at improving students' social, interactive, pragmatic and oral skills. The course is divided on various skills as they pertain to living abroad as well as better understanding foreign societies and cultures. In addition, students will be asked to discuss various aspects of Japanese culture in role-plays, and to evaluate their own performance.

2. キーワード

Exchange program, interactive skills, cultural literacy, discussion, critical thinking, Japanese culture, foreign cultures

3. 到達目標

- To learn how to initiate discussions with foreigners, and to respond to various kinds of situations and problems.
- To discuss aspects concerning Japanese culture in-depth.
- To improve one's self-assessment in communicative effectiveness

4. 授業計画

1. Introduction: Asking about travel plans/Talking about Japanese sports
2. Asking and answering questions at immigration/Japanese music
3. Giving directions/Japanese food
4. Reserving rooms/Japanese handicrafts
5. Talking about interests, sight-seeing/Japanese holidays
6. Selecting and renting a car/Japanese games
7. Meeting and talking with strangers/Japanese cities and places
8. Mid-term exam
9. Negotiating prices/relaxing in Japan
10. Inviting and socializing with friends/famous people in Japan
11. Reading a menu, ordering food/Japanese superstitions
12. Simulating a trip to Los Angeles/Japanese anime
13. Simulating a side-trip to San Francisco/Japanese Arts and Theater
14. Simulating a trip to ODU/Japanese customs
15. Final exam
16. Simulating a trip to Malaysia/Japanese Buildings and Gardens

5. 評価の方法・基準

Homework, class participation and exams will make up the credit of this class. Students must have at least 60 points to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries might be needed. It is important to participant and to prepare for various role-plays beforehand. As this course is intensive, class time will involve three periods per day.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Daily practice is required, and thus students should be prepared to handle homework for the next day.

8. 教科書・参考書

Encounters Abroad. Author: Michael Critchley ISBN: 9784523175391

9. オフィスアワー

Tuesday: 8 : 00 - 12 : 00

外国系科目（初修外国語）

初修外国語科目について

1. 目的

外国語は未知なる世界の扉を開ける鍵である。形は千種百様のように見えるが、開け方そのものは実に共通している部分が多い。要領を一つ心得ておけば応用が可能となる。また、不思議なことに、それが何らかの形で母語にフィードバックし、客観的に日本語を見つめ直すきっかけを与えてくれる。これまでの英語学習ですでにその経験をした学生は新しい扉へと進み、そうでない学生は今度こそとゼロからチャレンジしてもらおうことが初修外国語科目の目的である。アジアとヨーロッパからそれぞれ2カ国語ずつ用意しているが、もちろんこれで十分というわけではない。グローバル化が加速する中、何語が役に立つかを考えるよりもむしろ、何語にでも取り組む姿勢や心意気が大事だと思われる。真の国際人として時代の要請に応えていくための一歩を、とにかくここから踏み出してくれるよう望む。

2. 内容

ドイツ語 I II III IV

中国語 I II III IV

フランス語 I II III IV

韓国語 I II III IV

3. 履修上の注意

I II は1年次の選択必修科目である。どの言語を履修するか、希望調査を基に決定する。なお、同じ言語でクラスが複数ある場合も、クラスの適正規模を考慮し、適宜に振り分ける。

III IV は2年次の選択語学科目である。1年次に履修した言語と英語D I / D II のどちらかを選択して2単位修得しなければならない。

ドイツ語 I German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語IIまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介 I
- 第2回 飲み物を注文しよう
- 第3回 アルファベット、つづりと発音
- 第4回 挨拶 <<国民性や常識の違いに注意>>
- 第5回 自己紹介 II <<名前、呼び方、敬語？>>
- 第6回 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
- 第7回 つづき
- 第8回 持っている物、欲しい物について話す
- 第9回 買い物のロールプレイ
- 第10回 買い物のロールプレイ
- 第11回 自分の家族を紹介しよう
- 第13回 一緒に温泉へ行こう
- 第14回 ドイツの映画を見よう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 前期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み 20%+ロールプレイ 20%+期末テスト 60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみる。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース):機械知能・建設社会(人間科学科目)
 学年:1年次 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

大学では外国語として英語以外に、第2外国語を学習する。英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思想を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に寄与している。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統・文化に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直して欲しい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎(独検4級程度)を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことを主たる目的とする。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを考えなおす。さらに学生諸君には日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みて欲しい。

●授業の位置付け

ドイツ語を学ぶことによって、はっきりした効果が目に見える形でははないものの、強靱で幅広い思考力が培われる。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1回目:ドイツおよびドイツ語について
- 2回目:ドイツ語の発音
- 3回目:「おはようございます」ドイツ語のあいさつ、数詞
- 4回目:「タナカマコトと申します①」人称代名詞
- 5回目:「タナカマコトと申します②」動詞の現在人称変化、seinの人称変化
- 6回目:「何をしているの①」habenの人称変化
- 7回目:「何をしているの②」名詞の性、語順
- 8回目:「その帽子はいくらですか①」定冠詞と名詞の変化
- 9回目:「その帽子はいくらですか②」名詞の複数形
- 10回目:発音のテスト
- 11回目:「コーヒーが一杯欲しい①」不定冠詞
- 12回目:「コーヒーが一杯欲しい②」所有冠詞、否定冠詞
- 13回目:「こちらザビーネです①」不規則な動詞①
- 14回目:「こちらザビーネです②」名詞の3格、疑問代名詞
- 15回目:発音のテスト、前期授業内容の総括

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み(出席等)30% 発音のテスト20% 期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

授業には必ず辞書を持ってくること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業の前後

E-mail: k.hirakawa@uma.bbq.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース):電気電子・総合システム(人間科学科目)
 学年:1年次 学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介Ⅰ
- 第2回 飲み物を注文しよう
- 第3回 アルファベット、つづりと発音
- 第4回 挨拶 <<国民性や常識の違いに注意>>
- 第5回 自己紹介Ⅱ <<名前、呼び方、敬語?>>
- 第6回 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
- 第7回 つづき
- 第8回 持っている物、欲しい物について話す
- 第9回 買い物のロールプレイ
- 第10回 買い物のロールプレイ
- 第11回 自分の家族を紹介しよう
- 第13回 一緒に温泉へ行こう
- 第14回 ドイツの映画を見よう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 前期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+ロールプレイ20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、アルファベット、つづりと発音（1）
- 第2回 アルファベット、つづりと発音（2）
- 第3回 おはようございます！
- 第4回 タナカ マコトと申します（1）
- 第5回 タナカ マコトと申します（2）
- 第6回 何をしているの（1）
- 第7回 何をしているの（2）
- 第8回 その帽子はいくらですか？（1）
- 第9回 その帽子はいくらですか？（2）
- 第10回 発音テスト（1）
- 第11回 コーヒーが一杯欲しい（1）
- 第12回 コーヒーが一杯欲しい（2）
- 第13回 こちらザビーネです（1）
- 第14回 こちらザビーネです（2）
- 第15回 発音テスト（2）、前期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（定刻出席、課題の達成、辞書の持参）30% + 発音テスト20% + 期末テスト50%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてこくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 第1回 前期のまとめ・復習
- 第2回 カフェにて
- 第3回 迷子になったらどうしよう？ 道案内
- 第4回 自分の部屋を紹介しよう
- 第5回 ホテルでの宿泊Ⅰ
- 第6回 ホテルでの宿泊Ⅱ
- 第7回 電車の旅Ⅰ
- 第8回 電車の旅Ⅱ
- 第9回 ドイツ人の食生活
- 第10回 クリスマスの手紙を書いてみよう
- 第11回 過去のことを話そうⅠ
- 第12回 過去のことを話そうⅡ
- 第13回 自分の生い立ち
- 第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20% + ロールプレイ20% + 期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科(コース):機械知能・建設社会(人間科学科目)
 学年:1年次 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思想を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に中心的な役割を果たしている。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直してほしい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎(独検4級程度)を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを視野に入れる。さらに日本語や英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みる。

●授業の位置付け

「ドイツ語Ⅰ」に引き続きドイツ語の基礎(独検4級程度)を学習する。ドイツ語を学ぶことによって、強靱で幅広い思考力、複眼的なものの見方を培う。さらにヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できるようにする。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1回目:「何を注文する?①」 不規則な動詞②
- 2回目:「何を注文する?②」 人称代名詞、非人称のes
- 3回目:「市庁舎へはどう行ったらいいのですか?①」 前置詞
- 4回目:「市庁舎へはどう行ったらいいのですか?②」 前置詞と定冠詞の融合形
- 5回目:「歩いてホテルまで行くことができますか?①」 話法の助動詞の人称変化
- 6回目:「歩いてホテルまで行くことができますか?②」 話法の助動詞の意味
- 7回目:「その列車は何時に発車しますか?①」 分離動詞
- 8回目:「その列車は何時に発車しますか?②」 命令形、時刻表現
- 9回目:「音楽に興味があります」 再帰代名詞、再帰動詞
- 10回目:発音のテスト
- 11回目:「とてもよかった!①」 動詞の3基本形
- 12回目:「とてもよかった!②」 過去人称変化
- 13回目:「おいしかった!①」 現在完了
- 14回目:「おいしかった!②」 分離動詞の現在完了
- 15回目:発音のテスト、後期授業内容の総括

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み(出席等)30% 発音のテスト20% 期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

授業には必ず辞書を持ってくること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業の前後

E-mail: k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科(コース):電気電子・総合システム(人間科学科目)
 学年:1年次 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 第1回 前期のまとめ・復習
- 第2回 カフェにて
- 第3回 迷子になったらどうしよう? 道案内
- 第4回 自分の部屋を紹介しよう
- 第5回 ホテルでの宿泊 I
- 第6回 ホテルでの宿泊 II
- 第7回 電車の旅 I
- 第8回 電車の旅 II
- 第9回 ドイツ人の食生活
- 第10回 クリスマスの手紙を書いてみよう
- 第11回 過去のことを話そう I
- 第12回 過去のことを話そう II
- 第13回 自分の生き立ち
- 第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+ロールプレイ20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」(朝日出版社) ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。ドイツ語技能検定試験（独検）4級合格を目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 第1回 何を注文する？（1）
 第2回 何を注文する？（2）
 第3回 市庁舎にはどう行ったらいいですか？（1）
 第4回 市庁舎にはどう行ったらいいですか？（2）
 第5回 歩いてホテルまで行くことができますか？（1）
 第6回 歩いてホテルまで行くことができますか？（2）
 第7回 その列車は何時に発車しますか（1）
 第8回 その列車は何時に発車しますか（2）
 第9回 発音テスト（1）
 第10回 音楽に興味があります
 第11回 とてもよかったです！（1）
 第12回 とてもよかったです！（2）
 第13回 おいしかったです！（1）
 第14回 おいしかったです！（2）
 第15回 発音テスト（2）、後期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（定刻出席、課題の達成、辞書の持参）30% + 発音テスト20% + 期末テスト50%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてこくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅲ German III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、パウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4級程度）に引き続くドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 具体的な指示を聞き取ることができる。
- ② 平易なテキストを理解することができる。
- ③ 基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④ 要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 学生の期待の確認 ドイツⅠ・Ⅱの復習
 第2回 挨拶≪国民性や常識の違いに注意≫
 自己紹介 “Ich komme aus Japan”
 第3回 発音 もっと上手になろう！
 第4回 家族の人や獣人の紹介
 “mein Bruder studiert Jura in Hamburg”
 第5回 仕事と余暇 ドイツ旅行に必要なフレーズ
 第6回 持っている物、欲しい物
 “ich habe leider kein Auto”
 第7回 つづき
 第8回 ドイツパン “in Deutschland gibt es 300 Brotsorten”
 第9回 つづき
 第10回 食生活 VTR “die Deutschen essen abends kalt”
 第11回 中間テスト
 第12回 レストランでの食事
 “Currywurst mit Pommes bitte”
 第13回 マナーと常識 この時にはどう言ったらいいの？
 第14回 ドイツの映画を見て、感想を書きましょう第15回 復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20% + 中間テスト20% + 期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行った会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりい」（朝日出版社、2016年）ISBN: 9784255523879

9. オフィスアワー

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅲ German III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

人間の思考は言語によって作り出される。すなわちどの言語によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4級程度）に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

第1回 ドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習、発音の復習、日常使う単語の確認

第2回 ドイツへ さまざまな人々 いろいろな文化（1）

第3回 ドイツへ さまざまな人々 いろいろな文化（2）

第4回 旅行大国ドイツ（1）

第5回 旅行大国ドイツ（2）

第6回 ドイツ生まれの車（1）

第7回 ドイツ生まれの車（2）

第8回 発音テスト（1）

第9回 パンとドイツ料理（1）

第10回 パンとドイツ料理（2）

第11回 ヨーロッパの付加価値税（1）

第12回 ヨーロッパの付加価値税（2）

第13回 ドイツ人は犬が好き（1）

第14回 ドイツ人は犬が好き（2）

第15回 発音テスト（2）、前期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

- ・授業には必ず辞書を持参すること。
- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のCDを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実にこなすこと。

8. 教科書・参考書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりい」（朝日出版社、2016年）ISBN: 9784255523879

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅳ German IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、パウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることであり、

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話力を身につけてもらいたい。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検4級程度）に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ②説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

第1回 前期のまとめ・復習

第2回 ドイツのペット事情 “Auch Hunde fahren Zug”

第3回 助動詞を詳しく学ぼう

第4回 フリーマーケットでの買い物
“Ich liebe alte Sachen！”

第5回 ドイツ人のエコライフ “Ist das eine Pfandflasche?”

第6回 つづき

第7回 ドイツの教行く制度

“Machst du eine Lehre, oder willst du studieren?”

第8回 ドイツの大学

第9回 中間テスト

第10回 過去のこと話しましょう（過去形・現在完了形）

第11回 クリスマスカードを書きましょう

“Frohe Weihnachten”

第12回 自分の生い立ち

“Ich habe 3 Jahre in Wien gewohnt”

第13回 作文に挑戦

第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る

第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+中間テスト20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・復習を欠かさないこと。
- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行った会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりい」（朝日出版社、2016年）ISBN: 9784255523879

9. オフィスアワー

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅳ German IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

人間の思考は言語によって作りだされる。すなわち、どの言語によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

前期「ドイツ語Ⅲ」に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。学生職君には、授業の枠を超えて、積極的に直接ドイツの伝統・文化に触れて欲しい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 第1回 蚤の市（1）
- 第2回 蚤の市（2）
- 第3回 ドイツの大学（1）
- 第4回 ドイツの大学（2）
- 第5回 クリスマス（1）
- 第6回 クリスマス（2）
- 第7回 発音テスト（1）
- 第8回 原子力発電（1）
- 第9回 原子力発電（2）
- 第10回 ドイツの中の日本（1）
- 第11回 ドイツの中の日本（2）
- 第12回 ドイツ文を読む（1）
- 第13回 ドイツ文を読む（2）
- 第14回 ドイツ文を読む（3）
- 第15回 発音テスト（2）、後期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

- ・ 授業には必ず辞書を持参すること。
- ・ 辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してくこと。
- ・ ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のCDを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実にを行うこと。

8. 教科書・参考書

森田悟、川上博子、跡森美音「たいむりい」（朝日出版社、2016年）ISBN: 9784255523879

9. オフィスアワー

授業時間の前後

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音1 声調、単母音、複母音
3. 発音2 声母
4. 発音3 鼻音を伴う母音
5. 発音4 声調変化など
6. 発音のまとめ
7. 第1課 “是”を使った文、名前の言い方など
8. 第1課 復習
9. 第2課 “的”の使い方、疑問詞疑問文
10. 第2課 復習
11. 第3課 動詞述語文、連動文、副詞“也”
12. 第3課 復習
13. 第4課 形容詞述語文、助動詞“想”、反復疑問文
14. 第4課 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課
6. 第1課
7. テスト（発音）
8. 第2課
9. 第2課
10. 第3課
11. 第3課
12. 第4課
13. 第4課
14. テスト（1-4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席20%、音読10%、試験70%

6. 履修上の注意事項

講義回数2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟413

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音1 声調、単母音、複母音
3. 発音2 声母
4. 発音3 鼻音を伴う母音
5. 発音4 声調変化など
6. 発音のまとめ
7. 第1課 “是”を使った文、名前の言い方など
8. 第1課 復習
9. 第2課 “的”の使い方、疑問詞疑問文
10. 第2課 復習
11. 第3課 動詞述語文、連動文、副詞“也”
12. 第3課 復習
13. 第4課 形容詞述語文、助動詞“想”、反復疑問文
14. 第4課 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課
6. 第1課
7. テスト（発音）
8. 第2課
9. 第2課
10. 第3課
11. 第3課
12. 第4課
13. 第4課
14. テスト（1-4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席20%、音読10%、試験70%

6. 履修上の注意事項

講義回数2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟413

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. 発音
- 2. 発音
- 3. 発音
- 4. 発音
- 5. 第1課
- 6. 第1課
- 7. テスト（発音）
- 8. 第2課
- 9. 第2課
- 10. 第3課
- 11. 第3課
- 12. 第4課
- 13. 第4課
- 14. テスト（1-4）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1. 復習
- 2. 第5課 年齢の言い方、動詞“有”、比較の言い方、数詞
- 3. 第5課 復習4の文、“把”構文
- 4. 第6課 経験を表す“過”、動詞“喜歡”、助動詞“要”、数詞
- 5. 第6課 復習
- 6. 第7課 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞“在”、文末の“了”
- 7. 第7課 復習
- 8. 第8課 前置詞“從”・“往”、動詞に付く“了”、時間量の言い方、量詞
- 9. 第8課 復習
- 10. 第9課 動詞の“在”、“是～的”構文、進行、方位詞
- 11. 第9課 復習
- 12. 第10課 主述述語文、助動詞“能”、結果補語
- 13. 第10課 復習
- 14. まとめ1
- 15. まとめ2

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は 2/3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴覚練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課
2. 第5課
3. 第6課
4. 第6課
5. 第7課
6. 第7課
7. テスト（5-7）
8. 第8課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第9課
12. 第10課
13. 第10課
14. テスト（8-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第5課 年齢の言い方、動詞“有”、比較の言い方、数詞
3. 第5課 復習4の文、“把”構文
4. 第6課 経験を表す“過”、動詞“喜歡”、助動詞“要”、数詞
5. 第6課 復習
6. 第7課 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞“在”、文末の“了”
7. 第7課 復習
8. 第8課 前置詞“從”・“往”、動詞に付く“了”、時間量の言い方、量詞
9. 第8課 復習
10. 第9課 動詞の“在”、“是～的”構文、進行、方位詞
11. 第9課 復習
12. 第10課 主述述語文、助動詞“能”、結果補語
13. 第10課 復習
14. まとめ1
15. まとめ2

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1. 第5課
- 2. 第5課
- 3. 第6課
- 4. 第6課
- 5. 第7課
- 6. 第7課
- 7. テスト（5-7）
- 8. 第8課
- 9. 第8課
- 10. 第9課
- 11. 第9課
- 12. 第10課
- 13. 第10課
- 14. テスト（8-10）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1. 第5課
- 2. 第5課
- 3. 第6課
- 4. 第6課
- 5. 第7課
- 6. 第7課
- 7. テスト（5-7）
- 8. 第8課
- 9. 第8課
- 10. 第9課
- 11. 第9課
- 12. 第10課
- 13. 第10課
- 14. テスト（8-10）
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅲ Chinese III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真壽美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはしい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. 第11課
2. 第11課
3. 第12課
4. 第12課
5. 第13課
6. 第13課
7. テスト（11-13）
8. 第14課
9. 第14課
10. 第15課
11. 第15課
12. 第16課
13. 第16課
14. テスト（14-16）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項

全講義回数の 2/3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：

- ①新出単語のピンインと日訳を記入しておく。
- ②本文とポイントを一読しておく。

復習：

- ①ポイントを再確認する。
- ②モデル会話を暗唱する。
- ③問題を解いてみる。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

中国語Ⅲ Chinese III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書く・聞く・話すの 4 つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. 第11課
2. 第11課
3. 第12課
4. 第12課
5. 第13課
6. 第13課
7. テスト（11-13）
8. 第14課
9. 第14課
10. 第15課
11. 第15課
12. 第16課
13. 第16課
14. テスト（14-16）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場 簡明版』（朝日出版社）ISBN: 9784255452371

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅳ Chinese IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真壽美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはしい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 第1課
2. 第2課
3. 第3課
4. 第4課
5. 第5課
6. 復習
7. テスト（1-5）
8. 第6課
9. 第7課
10. 第8課
11. 第9課
12. 第10課
13. 復習
14. テスト（6-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項

全講義回数の 2/3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：

- ① 新出単語のピンインと日訳を記入しておく。
- ② 本文とポイントを一読しておく。

復習：①ポイントを再確認する。

②モデル会話を暗唱する。

③問題を解いてみる

8. 教科書・参考書

教科書：陳淑梅、劉光赤『しゃべっていいとも中国語 2 ステップアップ編』（朝日出版社）ISBN: 9784255452296

9. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

中国語Ⅳ Chinese IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書く・聞く・話すの4つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 第1課
2. 第2課
3. 第3課
4. 第4課
5. 第5課
6. 復習
7. テスト（1-5）
8. 第6課
9. 第7課
10. 第8課
11. 第9課
12. 第10課
13. 復習
14. テスト（6-10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2/3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：陳淑梅、劉光赤『しゃべっていいとも中国語 2 ステップアップ編』（朝日出版社）ISBN: 9784255452296

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

実践中国語Ⅰ Practical Chinese I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：3年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要
未定
2. キーワード
未定
3. 到達目標
未定
4. 授業計画
未定
5. 評価の方法・基準
未定
6. 履修上の注意事項
未定
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
未定
8. 教科書・参考書
未定
9. オフィスアワー
未定

実践中国語Ⅱ Practical Chinese II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：3年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要
未定
2. キーワード
未定
3. 到達目標
未定
4. 授業計画
未定
5. 評価の方法・基準
未定
6. 履修上の注意事項
未定
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
未定
8. 教科書・参考書
未定
9. オフィスアワー
未定

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学びます。テキストの1課に授業3回をあて、受講者の理解度を見ながらゆっくりとしたペースで進めます。

文法規則など初めは難しく感じられるフランス語も、特有の表現や発音方法を少しずつ理解していくことで、楽しくなってくるはずです。

テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 1－(1)
- 2) Leçon 1－(2)
- 3) Leçon 1－(3)
- 4) Leçon 2－(1)
- 5) Leçon 2－(2)
- 6) Leçon 2－(3)
- 7) Leçon 3－(1)
- 8) Leçon 3－(2)
- 9) Leçon 3－(3)
- 10) Leçon 4－(1)
- 11) Leçon 4－(2)
- 12) Leçon 4－(3)
- 13) Leçon 5－(1)
- 14) Leçon 5－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点(30点)、定期試験(70点)により評価。

6. 履修上の注意事項

授業内で使う単語について、ミニ辞書を作成して配布するので、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学びます。テキストの1課に授業3回をあて、受講者の理解度を見ながらゆっくりとしたペースで進めます。

文法規則など初めは難しく感じられるフランス語も、特有の表現や発音方法を少しずつ理解していくことで、楽しくなってくるはずです。

テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 1－(1)
- 2) Leçon 1－(2)
- 3) Leçon 1－(3)
- 4) Leçon 2－(1)
- 5) Leçon 2－(2)
- 6) Leçon 2－(3)
- 7) Leçon 3－(1)
- 8) Leçon 3－(2)
- 9) Leçon 3－(3)
- 10) Leçon 4－(1)
- 11) Leçon 4－(2)
- 12) Leçon 4－(3)
- 13) Leçon 5－(1)
- 14) Leçon 5－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点(30点)、定期試験(70点)により評価。

6. 履修上の注意事項

授業内で使う単語について、ミニ辞書を作成して配布するので、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 原田 裕里

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学びます。毎回の授業では、文法解説の後、ペアでその日の会話表現をロールプレイングします。

テキストの1課に授業3回をあて、受講者の理解度を見ながらゆっくりとしたペースで進めます。初めは難しく感じられるフランス語も、特有の表現や発音方法を少しずつ理解していくことで、楽しくなってくるはずです。

また、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①アルファベットを正確に発音することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 1－(1)
- 2) Leçon 1－(2)
- 3) Leçon 1－(3)
- 4) Leçon 2－(1)
- 5) Leçon 2－(2)
- 6) Leçon 2－(3)
- 7) Leçon 3－(1)
- 8) Leçon 3－(2)
- 9) Leçon 3－(3)
- 10) Leçon 4－(1)
- 11) Leçon 4－(2)
- 12) Leçon 4－(3)
- 13) Leçon 5－(1)
- 14) Leçon 5－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点（30点）、定期試験（70点）により評価
（状況に応じて中間テストを実施。その場合中間（30点）、期末（40点）の配分となります）

6. 履修上の注意事項

授業内で単語を辞書で調べたりすることがあるため、フランス語の辞書を用意しておくこと（出来るだけ紙媒体のもの。もしくは電子辞書）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形に加えて、過去や未来など、より広範囲の時制について学びます。毎回の授業では、文法解説の後に発音練習をしっかりと行い、ペアで楽しくロールプレイングします。

授業は受講者の理解度をみながら、ゆっくりとしたペースで進めます。テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 6－(1)
- 2) Leçon 6－(2)
- 3) Leçon 6－(3)
- 4) Leçon 7－(1)
- 5) Leçon 7－(2)
- 6) Leçon 7－(3)
- 7) Leçon 8－(1)
- 8) Leçon 8－(2)
- 9) Leçon 8－(3)
- 10) Leçon 9－(1)
- 11) Leçon 9－(2)
- 12) Leçon 9－(3)
- 13) Leçon 10－(1)
- 14) Leçon 10－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点（30点）、定期試験（70点）により評価。

6. 履修上の注意事項

前期に配布したミニ辞書を、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形に加えて、過去や未来など、より広範囲の時制について学びます。毎回の授業では、文法解説の後に発音練習をしっかりと行い、ペアで楽しくロールプレイングします。

授業は受講者の理解度をみながら、ゆっくりとしたペースで進めます。テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 6－(1)
- 2) Leçon 6－(2)
- 3) Leçon 6－(3)
- 4) Leçon 7－(1)
- 5) Leçon 7－(2)
- 6) Leçon 7－(3)
- 7) Leçon 8－(1)
- 8) Leçon 8－(2)
- 9) Leçon 8－(3)
- 10) Leçon 9－(1)
- 11) Leçon 9－(2)
- 12) Leçon 9－(3)
- 13) Leçon 10－(1)
- 14) Leçon 10－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点(30点)、定期試験(70点)により評価。

6. 履修上の注意事項

前期に配布したミニ辞書を、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 原田 裕里

1. 概要

フランス語の初級文法と会話を学びます。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形に加えて、過去や未来など、より広範囲の時制について学びます。毎回の授業では、文法解説の後に発音練習をしっかりと行い、ペアで楽しくロールプレイングします。

授業は受講者の理解度をみながら、ゆっくりとしたペースで進めます。テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

秋のフランス語検定試験の受験希望者にはサポートを行います。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) Leçon 6－(1)
- 2) Leçon 6－(2)
- 3) Leçon 6－(3)
- 4) Leçon 7－(1)
- 5) Leçon 7－(2)
- 6) Leçon 7－(3)
- 7) Leçon 8－(1)
- 8) Leçon 8－(2)
- 9) Leçon 8－(3)
- 10) Leçon 9－(1)
- 11) Leçon 9－(2)
- 12) Leçon 9－(3)
- 13) Leçon 10－(1)
- 14) Leçon 10－(2)
- 15) フランス映画鑑賞

5. 評価の方法・基準

平常点(30点)、定期試験(70点)により評価

(状況に応じて中間テストを実施。その場合中間(30点)、期末(40点)の配分となります)

6. 履修上の注意事項

授業内で単語を辞書で調べたりすることがあるため、フランス語の辞書を用意しておくこと(出来るだけ紙媒体のもの。もしくは電子辞書)

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

学習した内容をノートを見ながら復習してください。授業で練習した会話表現を、繰り返し音読してください。

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-3

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅲ French III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 甲斐 春香

1. 概要

フランス語の中級文法と会話。文法復習を取り入れながら、自分の身近なことについて、フランス語で表現する方法を学びます。毎回の授業では、文法学習の後に、その日の内容をペアでロールプレイングする時間を多めにとります。聞き取りや仏作文の練習も行います。

テキストの1課に授業3回をあて、ゆっくりとしたペースで進めます。新しく学ぶ文法事項も加わり、覚える内容も増えてきますが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが。

テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期授業内容の説明など
- 2) Leçon 11- (1)
- 3) Leçon 11- (2)
- 4) Leçon 11- (3)
- 5) Leçon 12- (1)
- 6) Leçon 12- (2)
- 7) Leçon 12- (3)
- 8) フランス映画鑑賞
- 9) Leçon 13- (1)
- 10) Leçon 13- (2)
- 11) Leçon 13- (3)
- 12) Leçon 14- (1)
- 13) Leçon 14- (2)
- 14) Leçon 14- (3)
- 15) 前期のまとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅲ French III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古野 千恵

1. 概要

フランス語の中級文法と会話。文法復習を取り入れながら、自分の身近なことについて、フランス語で表現する方法を学びます。毎回の授業では、文法学習の後に、その日の内容をペアでロールプレイングする時間を多めにとります。聞き取りや仏作文の練習も行います。

テキストの1課に授業3回をあて、ゆっくりとしたペースで進めます。新しく学ぶ文法事項も加わり、覚える内容も増えてきますが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが、その分表現範囲が広がり楽しくなってくるはずですが。

テキスト以外にも、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期授業内容の説明など
- 2) Leçon 11- (1)
- 3) Leçon 11- (2)
- 4) Leçon 11- (3)
- 5) Leçon 12- (1)
- 6) Leçon 12- (2)
- 7) Leçon 12- (3)
- 8) フランス映画鑑賞
- 9) Leçon 13- (1)
- 10) Leçon 13- (2)
- 11) Leçon 13- (3)
- 12) Leçon 14- (1)
- 13) Leçon 14- (2)
- 14) Leçon 14- (3)
- 15) 前期のまとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅳ French IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 甲斐 春香

1. 概要

フランス語Ⅲの続きとして、中級レベルのフランス語を学びます。文法復習を取り入れながら、会話の練習や、簡単なテキスト読解も行います。

会話の練習では、実際の旅行や生活を想定して楽しくロールプレイングします。テキスト読解では、文法を確認しながら、少しずつゆっくりと読む練習をします。

後期の半ばには、秋季フランス語検定試験の対策のための期間を設けます。聞き取りや仏作文の練習も行います。

そのほか、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 1) イントロダクション—後期授業内容の説明
- 2) 会話の練習—旅行編（1）
- 3) 会話の練習—旅行編（2）
- 4) フランス語検定試験対策（1）
- 5) フランス語検定試験対策（2）
- 6) フランス語検定試験対策（3）
- 7) フランス語検定試験対策（4）
- 8) フランス映画鑑賞
- 9) テキスト読解（1）
- 10) テキスト読解（2）
- 11) テキスト読解（3）
- 12) テキスト読解（4）
- 13) 会話の練習—生活編（1）
- 14) 会話の練習—生活編（2）
- 15) 後期のまとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅳ French IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古野 千恵

1. 概要

フランス語Ⅲの続きとして、中級レベルのフランス語を学びます。文法復習を取り入れながら、会話の練習や、簡単なテキスト読解も行います。

会話の練習では、実際の旅行や生活を想定して楽しくロールプレイングします。テキスト読解では、文法を確認しながら、少しずつゆっくりと読む練習をします。

後期の半ばには、秋季フランス語検定試験の対策のための期間を設けます。聞き取りや仏作文の練習も行います。

そのほか、最新のフランス映画や音楽等、映像を見ながら楽しく学習します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 1) イントロダクション—後期授業内容の説明
- 2) 会話の練習—旅行編（1）
- 3) 会話の練習—旅行編（2）
- 4) フランス語検定試験対策（1）
- 5) フランス語検定試験対策（2）
- 6) フランス語検定試験対策（3）
- 7) フランス語検定試験対策（4）
- 8) フランス映画鑑賞
- 9) テキスト読解（1）
- 10) テキスト読解（2）
- 11) テキスト読解（3）
- 12) テキスト読解（4）
- 13) 会話の練習—生活編（1）
- 14) 会話の練習—生活編（2）
- 15) 後期のまとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

テキスト：

大久保政憲『Parlons et lisons le français きみと話したい！フランス語』朝日出版社 ISBN: 9784255352473

参考書：

『プチロワイヤル仏和辞典』第4版：旺文社：853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

韓国語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ハングルとは？（文字、あいさつ、教室用語）
2. ハングル文字（基本母音）
3. ハングル文字（基本子音）
4. ハングル文字（激音、濃音）
5. ハングル文字（二重母音）
6. ハングル文字（パッチム）
7. ハングル文字（2文字パッチム）
8. まとめ
9. 発音（有声音化、連音化など）
10. 発音（激音化、濃音化など）
11. 第1課（自己紹介）
12. 第2課（指示・疑問文）
13. 第3課（存在文）
14. 第4課（否定文）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ハングルとは？（文字、あいさつ、教室用語）
2. ハングル文字（基本母音）
3. ハングル文字（基本子音）
4. ハングル文字（激音、濃音）
5. ハングル文字（二重母音）
6. ハングル文字（パッチム）
7. ハングル文字（2文字パッチム）
8. まとめ
9. 発音（有声音化、連音化など）
10. 発音（激音化、濃音化など）
11. 第1課（自己紹介）
12. 第2課（指示・疑問文）
13. 第3課（存在文）
14. 第4課（否定文）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ハングルとは？（文字、あいさつ、教室用語）
 2. ハングル文字（基本母音）
 3. ハングル文字（基本子音）
 4. ハングル文字（激音、濃音）
 5. ハングル文字（二重母音）
 6. ハングル文字（パッチム）
 7. ハングル文字（2文字パッチム）
 8. まとめ
 9. 発音（有声音化、連音化など）
 10. 発音（激音化、濃音化など）
 11. 第1課（自己紹介）
 12. 第2課（指示・疑問文）
 13. 第3課（存在文）
 14. 第4課（否定文）
 15. まとめ
- 5. 評価の方法・基準**
 出席、小テスト、課題…50%、試験…50%
- 6. 履修上の注意事項**
 2/3以上出席すること。
- 7. 授業外学習（予習・復習）の指示**
 必ず予習して授業に参加すること。
- 8. 教科書・参考書**
 教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376
- 9. オフィスアワー**
 csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課（漢数字）
 2. 第6課（用言の活用）
 3. 第7課（固有数字）
 4. 第8課（時刻、時間と曜日）
 5. 第9課（過去形）
 6. まとめ
 7. 第10課（目的、羅列、提案）
 8. 第11課（依頼、意志、接続詞）
 9. 第12課（感嘆、希望、比較）
 10. 第13課（可能、不可能）
 11. 第14課（命令、勧告）
 12. 第15課（推量、原因、義務）
 13. まとめ
 14. 実践会話（1）
 15. 実践会話（2）
- 5. 評価の方法・基準**
 出席、小テスト、課題…50%、試験…50%
- 6. 履修上の注意事項**
 2/3以上出席すること。
- 7. 授業外学習（予習・復習）の指示**
 必ず予習して授業に参加すること。
- 8. 教科書・参考書**
 教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376
- 9. オフィスアワー**
 csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課（漢数字）
 2. 第6課（用言の活用）
 3. 第7課（固有数字）
 4. 第8課（時刻、時間と曜日）
 5. 第9課（過去形）
 6. まとめ
 7. 第10課（目的、羅列、提案）
 8. 第11課（依頼、意志、接続詞）
 9. 第12課（感嘆、希望、比較）
 10. 第13課（可能、不可能）
 11. 第14課（命令、勧告）
 12. 第15課（推量、原因、義務）
 13. まとめ
 14. 実践会話（1）
 15. 実践会話（2）
5. 評価の方法・基準
出席、小テスト、課題…50%、試験…50%
6. 履修上の注意事項
2/3以上出席すること。
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
必ず予習して授業に参加すること。
8. 教科書・参考書
教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376
9. オフィスアワー
csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課（漢数字）
 2. 第6課（用言の活用）
 3. 第7課（固有数字）
 4. 第8課（時刻、時間と曜日）
 5. 第9課（過去形）
 6. まとめ
 7. 第10課（目的、羅列、提案）
 8. 第11課（依頼、意志、接続詞）
 9. 第12課（感嘆、希望、比較）
 10. 第13課（可能、不可能）
 11. 第14課（命令、勧告）
 12. 第15課（推量、原因、義務）
 13. まとめ
 14. 実践会話（1）
 15. 実践会話（2）
5. 評価の方法・基準
出席、小テスト、課題…50%、試験…50%
6. 履修上の注意事項
2/3以上出席すること。
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
必ず予習して授業に参加すること。
8. 教科書・参考書
教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376
9. オフィスアワー
csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅲ Korean Ⅲ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。先ず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. レベルテスト
- 2. 基本文型と会話（1）可能、不可能、接続詞
- 3. 基本文型と会話（2）進行、義務
- 4. 基本文型と会話（3）間違いやすい助詞
- 5. 基本文型と会話（4）羅列、理由、原因
- 7. 基本文型と会話（5）副詞形、決定
- 8. まとめ
- 9. 基本文型と会話（6）逆説、方向
- 10. 基本文型と会話（7）尊敬
- 11. 基本文型と会話（8）同意、推量
- 12. 基本文型と会話（9）連体形その1
- 13. 基本文型と会話（10）逆説、比較、仮定
- 14. 基本文型と会話（11）連体形その2
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅲ Korean Ⅲ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 井田 茂雄

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。先ず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 1. レベルテスト
- 2. 基本文型と会話（1）可能、不可能、接続詞
- 3. 基本文型と会話（2）進行、義務
- 4. 基本文型と会話（3）間違いやすい助詞
- 5. 基本文型と会話（4）羅列、理由、原因
- 7. 基本文型と会話（5）副詞形、決定
- 8. まとめ
- 9. 基本文型と会話（6）逆説、方向
- 10. 基本文型と会話（7）尊敬
- 11. 基本文型と会話（8）同意、推量
- 12. 基本文型と会話（9）連体形その1
- 13. 基本文型と会話（10）逆説、比較、仮定
- 14. 基本文型と会話（11）連体形その2
- 15. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

授業内にて指示

韓国語Ⅳ Korean IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。先ず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 基本文型と会話（1）変則活用その1
2. 基本文型と会話（2）状況、練習問題
3. 基本文型と会話（3）変則活用その2
4. 基本文型と会話（4）経験、命令
5. 基本文型と会話（5）変則活用その3
6. 基本文型と会話（6）過去の経験、状態
7. まとめ
8. 基本文型と会話（7）変則活用その4
9. 基本文型と会話（8）推測
10. 基本文型と会話（9）予定、選択
11. 基本文型と会話（10）理由、原因
12. 基本文型と会話（11）変則活用その5
13. 基本文型と会話（11）変則活用その6
14. 基本文型と会話（12）継続
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅳ Korean IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 井田 茂雄

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。先ず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 基本文型と会話（1）変則活用その1
2. 基本文型と会話（2）状況、練習問題
3. 基本文型と会話（3）変則活用その2
4. 基本文型と会話（4）経験、命令
5. 基本文型と会話（5）変則活用その3
6. 基本文型と会話（6）過去の経験、状態
7. まとめ
8. 基本文型と会話（7）変則活用その4
9. 基本文型と会話（8）推測
10. 基本文型と会話（9）予定、選択
11. 基本文型と会話（10）理由、原因
12. 基本文型と会話（11）変則活用その5
13. 基本文型と会話（11）変則活用その6
14. 基本文型と会話（12）継続
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

授業内にて指示

6. 履修上の注意事項

授業内にて指示

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業内にて指示

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Pointで学ぶ韓国語2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

授業内にて指示

保健体育系科目の概要

I. 「保健体育系」の目的・目標

1. 身体、身体運動やスポーツ (Muscular Activity) についての科学的思考能力の育成
2. 健康 (度) や体力 (フィットネス) の保持・増進
3. 運動、スポーツ技能の修得
4. 社会性やコミュニケーション能力の育成
5. 運動、スポーツ文化の継承と発展
6. 生涯スポーツへの橋渡し

II. 保健体育系における授業の方向性

スポーツ運動学の実技において身体活動や筋運動を通じた教授学習過程におけるシークエンスの観点からすると、以下の事が基本原則である。

体育実技における教授・学習計画の基本法則

1. 運動 (スポーツ種目) 強度
「軽度から中等度をへて高強度へ」
2. 時間 (継続、実施)
「短」から「長」へ
3. 頻度
「少」から「多」へ
4. 量 (強度 x 時間)
「少」から「多」へ
5. タイプ
「易」から「難」へ
「簡単」から「複雑」へ

III. 保健体育系科目の種類

1. 人間科学基礎科目：スポーツ運動学実技 A およびスポーツ運動学実技 B
2. 人間科学副専門科目：健康スポーツ科学論
「保健体育系」の目的・目標の理論的立場の教授と学習、さらなる応用的側面を講義では取り扱う。
3. リレー講義科目関連：リレーセミナー
上記のスポーツ運動学の実技、講義の受講以降、実験・実習科目としても少人数による教育をおこなっている。大学院教育 (生命体工学研究科 生体機能 生体適応システム講座) との関連で言及する内容を一部、講義・演習形式できるように実施している。それは「体力」あるいは「ヒトの適応能」の定量化実験を含んだ内容から構成されている。

スポーツ運動学実技 A Sports & Exercise Practice

対象学科 (コース)：全学科 学年：1 年次 学期：前期

単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 小幡 博基ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広くの受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進 (health promotion) の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育 (スポーツ) 活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力 (Physical Fitness) 増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして (あるいは身体運動に関する) 学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項

- ・前期は、比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

体調管理を十分行い、前回の授業の学習事項をイメージングし、確認しておく。

8. 教科書・参考書

適宜指示する。

9. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目 (16:30 ~ 18:00)

スポーツ運動学実技 B Sports & Exercise Practice

対象学科(コース):全学科 学年:1年次 学期:後期

単位区分:必修 単位数:1単位

担当教員名 小幡 博基ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広くの受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進(health promotion)の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育(スポーツ)活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力(Physical Fitness)増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして(あるいは身体運動に関する)学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体トレーニング

体力=健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

後期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. "
- 6~14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項

- ・比較的運動強度の高い心肺機能の向上を計るために効果的な集団スポーツ種目を男女別々に開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

《女子学生へ》

スポーツ運動学実技・B(後期)に関しては、木曜5時限目の「女子体育」を受講すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

体調管理を十分行い、前回の授業の学習事項をイメージングし、確認しておく。

8. 教科書・参考書

適宜指示する。

9. オフィスアワー

毎週月曜日の5時限目(16:30~18:00)

健康スポーツ科学論 Exercise Prescription

対象学科(コース):全学科 学年:2・3・4年次 学期:適宜

単位区分:選択 単位数:2単位

担当教員名 非常勤講師

1. 概要

●背景

「生活習慣病」(これまでの「いわゆる「成人病」)の危険因子として、肥満、高血糖、高血圧、精神的ストレスなどが指摘されている。これらの危険因子は運動実践によって十分に軽減される事が、広く認識されている。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要である。

●目的

「生活習慣病」のこれらの危険因子は、運動実践によって十分に軽減される。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要であり、それらに関する生理学的基本的事項について理解を深める。さらに、ヒトの生理的機能や身体運動に対する科学的思考能力の育成を目指すと共に「運動処方」の基本計画の策定基礎の確立を目指す。

●位置付け

毎回、ヒトの生理機能や身体運動に関する教授学習を行なう。通常、教室における講義形式をとる。

2. キーワード

ヒトの生理機能、身体トレーニング

体力=健康度の向上、生活習慣病

3. 到達目標

- 1) 今日的な健康概念の理解
- 2) ヒトの生理機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
- 3) 運動処方や身体トレーニング計画の立案・実施

4. 授業計画

- 1) 現代生活と健康-その1 寿命と疾病構造の変遷
- 2) その2 生活習慣病の出現
- 3) その3 食事と運動と休息・休養(睡眠)の関連
- 4) 「体力」概念-行動体力と防衛体力
- 5) 運動の効果-運動・スポーツに関する生理学的基础(総論)
- 6) a. 筋、神経系
- 7) b. 肥満、脂質、動脈硬化に関する効果
- 8) c. 有酸素系能力(心・血管系)に対する効果
- 9) d. 体温調節に対する効果
- 10) e. 免疫・内分泌機能に対する効果
- 11) 運動処方の実際(総論)運動処方野や療法、身体トレーニングの概念
- 12) メディカルチェック(運動実施のための健康診断)、性、年齢、活動水準に応じた運動処方 その1、その2
- 13) スポーツ障害の予防に関する諸問題

5. 評価の方法・基準

期末試験の成績で評価する。

6. 履修上の注意事項

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

本講義に関連する参考図書の中から1つを開講期間中に一読し、その概要を報告する。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しない。講義2~3回に1回の割合で資料を配付する。

1. 体育科学センター(編)スポーツによる健康づくり運動カルテ、講談社 780.1/T-14
2. 石河利寛 スポーツと健康(新書版)岩波書店 081/I-2-3/39
3. 池上晴夫 運動処方 朝倉書店 780.1/I-18
4. 池上晴夫:適度な運動とは何か 講談社 408/B-2/739
5. 時実利彦:脳の話(新書版)岩波書店 081/I-2/461,491.3/T-2

9. オフィスアワー

毎週月曜日の5時限目(16:30-18:00)

2016年リレーセミナー「労働問題の歴史と現在」

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：適宜 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成（コーディネーター）

1. 概要

〈授業の目的〉

終身雇用や年功序列型賃金、産別労組など戦後日本が築き上げてきた労働慣行は、現在大きく変貌を遂げつつある。成果主義に代表される賃金制度の変化、裁量労働制等の拡大による労働時間規制の緩和、労働組合組織率の低下などである。一方で、ブラック企業やブラックバイトのように、自己実現に名を借りた苛烈な労働環境が告発されることも多くなった。さらに、ひとり親世帯や生活保護受給世帯のように、格差や貧困の問題の拡大の中で、劣位におかれた人々の働き方にも注目が集まっている。このように、現代の日本社会を知り考察する上で、労働問題はきわめて重要なファクターのひとつである。

本セミナーでは、女工や鉱山労働者など底辺におかれた人々の労働の歴史を振り返りつつ、現代日本の労働問題がどのような背景の中で出来し、今後、企業として、また社会として、どのような労働の在り方を志向すべきなのか、分析・考究する。セミナー全体を通して、労働問題の歴史についての理解を深めるとともに、労働という観点から現代日本の企業や社会の在り方を反省的に捉えられるようになることが本セミナーの目的である。

〈授業の位置付け〉

特定のテーマについて様々な視点から考察する講義であり、複数の教員がそれぞれの専門領域を活かして講義・演習を進めるオムニバス形式である。

2. キーワード

女工、鉱山労働、ワーク・ライフ・バランス、生活困難層、労使関係、人事評価、キャリア形成、ブラック企業

3. 到達目標

- ①資料を正しく理解する。
- ②自分の考えを持ち、積極的に意見を述べることができる。
- ③論旨明瞭なレポートを作成することができる。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション（東野）
- 2回 近代化と労働（1）工業化の歴史的背景（水井・宮浦）
- 3回 近代化と労働（2）西洋の歴史事例（水井・宮浦）
- 4回 近代化と労働（3）日本の歴史事例（水井・宮浦）
- 5回 開発と労働—国際社会の課題—（水井・宮浦）
- 6回 ワーク・ライフ・バランス論（東野）
- 7回 ディスカッション（東野）
- 8回 生活困難層の働き方（東野）
- 9回 ディスカッション（東野）
- 10回 日本の労使関係（小江）
- 11回 日本の人事評価制度（小江）
- 12回 日本企業におけるキャリア形成（小江）
- 13回 「ブラック企業」生成のメカニズム（小江）
- 14回 総括（東野）
- 15回 試験（東野）
- 16回 解説（東野）

5. 評価の方法・基準

演習・ディスカッションへの貢献度、レポートで評価する。
評価は基本的にコーディネーターが行う。

6. 履修上の注意事項

少人数を前提とした演習形式の講義であるため、受講制限を行うことがある。

詳細の方法と注意事項については、第1回目の講義で説明する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

9. オフィスアワー

コーディネーター：東野（総合教育棟309室）

質問等は授業終了後に随時受け付ける。その他何かあれば、下記のメールにて連絡すること。

E-mail：higashi@dhs.kyutech.ac.jp

テーマ別リレー講義

文化—過去・現在— Culture, History and Locality

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：全学年

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 宮浦・水井

1. 概要

「文化」ということばに対して私たちはどのようなイメージを持っているのだろうか。実際に見たり聴いたりして触れることができる、文学、音楽、美術、歴史的な建築物（文化財）などが頭に浮かぶ場合もあるだろう（「文化振興」「文化財保護」など）。これらは「かたちのある文化」として、「過去」から「現代」にいたるまで、価値あるものとして人々に記憶され、さらにその記憶が共有されることで受け継がれてきた。

一方、文化には地域で生まれ、その地の地域性の核として受け継がれるものもある。「かたち」あるもの、ないもの、どちらにしても、一定の時間軸を越えて受け継がれなければ、歴史の中に消え去ってしまうため「文化」として認知されることは難しい。本講義では「文化」を考える上でとても重要な「地域性」の問題を考えることを目的として（1）日常における文化（2）文化財（3）文化史・地域研究などの観点から、多角的に検討する。

2. キーワード

地域性、近代化、文化財、記憶、日常における文化

3. 到達目標

- ①文化について、歴史的な観点から多角的に理解する。
- ②多様な地域性について検討し理解する。
- ③自らの意見を文章で論理的に表現できる。

4. 授業計画

- 第1回 ガイダンス 文化—過去・現在
- 第2回 歴史・文化・地域性 イギリスの鉱山から
- 第3回 九州からみる日本の近代化
- 第4回 近代化遺産と地域性①
- 第5回 近代化遺産と地域性②
- 第6回 近代化遺産と地域性③
- 第7回 自然環境利用の比較文化
- 第8回 都市と若者文化
- 第9回 ユネスコ
- 第10回 自然環境とヨーロッパ
- 第11回 観光資源と地域性
- 第12回 多文化の共生
- 第13回 交流による地域づくり
- 第14回 アメリカ文学と地域性
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・各回に提出するリアクション・ペーパー 40%
 - ・レポート×2本 60%
- 合計で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・毎回必ず出席し、リアクション・ペーパーを提出すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・レポート課題は自分で資料を集めて講義内容に情報を加えて作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しません。参考書は授業内で指示します。

9. オフィスアワー

コーディネーター：水井・宮浦

質問は授業時間内および前後に受け付けます。必要な場合は下記にメールで連絡すること。

mizui@dhs.kyutech.ac.jp

II-1. 教職に関する専門教育科目

II-2. 工業の教科に関する専門教育科目

教職論 Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の位置付け

教員をとりまく現代的状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2. キーワード

学習指導、生徒指導、聖職観、労働者観、専門職論、同僚、学校文化、教師文化

3. 到達目標

- ①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
- ②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
- ③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション
- 2回 学校生活の振り返りと理想の教師像
- 3回 教員免許制度の概要
- 4回 現代日本の公教育制度
- 5回 演習Ⅰ－体罰問題－
- 6回 教育の人間関係と教授法の変化
- 7回 演習Ⅱ－教授法の比較検討と教案作成－
- 8回 学校文化と教師文化
- 9回 教師という仕事
- 10回 演習Ⅲ－教員の過労問題－
- 11回 教師と生徒・保護者・地域社会
- 12回 演習Ⅳ－ロールプレイング①－
- 13回 演習Ⅴ－ロールプレイング②－
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

演習の成果 50%
 期末レポート 50%

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②演習形式（グループワーク、プレゼンテーション）を取り入れた授業であるから、グループで協力する姿勢、ひとりひとりの積極的な参加が求められる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容を十分に理解するため、下記の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

●教科書は指定しない（必要に応じて資料を配付する）

●参考文献

油布佐和子『転換期の教師』放送大学教育振興会 375.9/H-2/1062
 山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準 374.3/Y-1
 永井聖二・古賀正義『＜教師＞という仕事＝ワーク』学文社 374.3/N-3

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理 Principle of Education the 1st period Monday

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：1・2年次 学期：前期 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観、生涯発達・生涯学習、初等教育・中等教育職業教育、教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③自分の意見を的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 イントロダクション
- 2回 子どもと大人の境界線
- 3回 教える者と教えられる者
- 4回 発達と社会化
- 5回 人間の発達段階
- 6回 学校制度の国際比較
- 7回 公教育の歴史と制度
- 8回 中間テスト
- 9回 教育改革の動向
- 10回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 11回 不登校という選択
- 12回 「いじめ」とは何か？
- 13回 教育のリストラクチャリング
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 40%
 期末テスト 60%

6. 履修上の注意事項

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容を十分に理解するため、夏季の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
柴田義松他『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一『やさしい教育原理』有斐閣 371/T-4

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：1・2年次 学期：前期 単位数：2単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

●授業の目的

人間理解を深め、集団や個に応じた教育を行うための基礎知識と考え方を学ぶ。そして、授業で得られた知見を教育の実践の場で応用できるようになる。

●授業の位置づけ

授業では、教育心理学で必要な知識である、発達、学習、評価、学級集団、人格・適応を学ぶ。そして、これらの学びをより深めるために、教育心理学だけではなく様々な領域の心理学的知見について総合的に学ぶ。

2. キーワード

発達、学習、教育、学校臨床

3. 到達目標

- ①教育にかかわる心理学の基礎的な知識を理解できる。
- ②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション・教育心理学とは？
- 2回 発達に関する諸理論
- 3回 認知・言語の発達
- 4回 概念の発達
- 5回 学習
- 6回 動機
- 7回 記憶
- 8回 教育評価
- 9回 知能
- 10回 学級集団の理解
- 11回 適応と不適応
- 12回 発達障害
- 13回 学校臨床
- 14回 心理療法
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末テスト80%、レポート20%で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。日頃から教育に関する話題に関心を持ち、新聞等から情報を収集すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

- 教科書
使用しない。適宜資料を配付する。
- 参考書
大村彰道編『教育心理学Ⅰ 発達と学習指導の心理学』（1996）
東京大学出版会 371.4/K-28/1
下山晴彦編『教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学』（1998）
東京大学出版会 371.4/K-28/2
子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司『教育心理学〔新版〕ベーシック現代心理学6』（2003）有斐閣 371.4/K-30/2

9. オフィスアワー

月曜日4限目

教育社会学 Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1・2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するのではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産、エスニシティ、ジェンダー、サブカルチャー、教育制度・教育政策、学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 家族と教育
- 3回 階層と教育
- 4回 エスニシティと教育
- 5回 ジェンダーと居育
- 6回 メディアと教育
- 7回 子ども文化
- 8回 中間テスト
- 9回 若者文化
- 10回 少年非行論Ⅰ
- 11回 少年非行論Ⅱ
- 12回 組織としての学校
- 13回 カリキュラムの社会学
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト	40%
期末テスト	60%

6. 履修上の注意事項

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することががぞましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容を十分に理解するため、夏季の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。

- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

耳塚寛明ほか著『教育格差の社会学』有斐閣 ISBN: 9784641220133

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

工業教科教育法 Method of Technology Education

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：3年次 学期：通年 単位数：4単位

担当教員名 永田 萬享

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教科の指導法」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①工業科教育を広く人材育成システムの営みの中に位置づけ、多面的に考察すること。
- ②生徒の技術的発達、職業的発達の観点から工業科教育の役割について理解するとともに、現代社会における工業教育・技術教育の学びについて理解を深めること。
- ③現代の工業教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、教育実践を有効にするために、「手段」の機能をよくするとともに、その技術的能力を高めることを目指す。

●授業の位置づけ

- ①工業科教育の歴史、教育目的、教育内容そして情報機器と教材の活用を含む効果的な教育方法について教育学的に検討する。
- ②教材論、授業論などの授業実践に関わる部分を中心に教育実践的検討を行う。

2. キーワード

工業科教育、教材研究、技術教育、職業教育

3. 到達目標

- ①高校の工業の教師として工業科教育に関する基本的な知識、技術、技能の習得を目指して、工業教育の果たす役割の重要性を認識することができる。
- ②工業科教育の性格や内容、その存立基盤の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手として必要な資質を形成すること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 工業科教育と教育実践（教育実践における教師の役割）
- 2回 学校教育の課題
（総合学科の新設及び専門学科の改善充実）
- 3回 工業教育の役割と目標
（産業社会における工業技術教育のあり方）
- 4回 戦前の工業教育の歴史
（職工学校の創設、実業学校令、実業教育費国庫補助法）
- 5回 戦後の工業教育の歴史
（産業教育振興法の制定と工業技術教育の整備）
- 6回 学習指導要領の改訂と工業科の変遷
（学習指導要領のねらい、学習指導要領の構成）
- 7回 欧米における工業教育（1）
（ドイツの教育制度と工業技術教育）
- 8回 欧米における工業教育（2）
（アメリカの教育制度と工業技術教育）
- 9回 工業科の教育内容と方法（1）
（工業科の各科目の内容及び方法について検討する）
- 10回 工業科の教育内容と方法（2）（同上）
- 11回 工業科の教材研究の事例（1）（教材解釈と教材づくりを中心に教材研究のあり方を検討する）
- 12回 工業科の教材研究の事例（2）（同上）
- 13回 工業科の教材研究の事例（3）（同上）
- 14回 工業科における評価の特徴（授業評価と評価方法）
- 15回 まとめ
- 16回 普通教育と専門教育（普通教育としての技術教育と専門教育としての技術教育の違い）
- 17回 学校教育としての技術教育体系の成立
（工業化の人材育成機関としての学校）

- 18回 技術革新と工業教育の改編
（産業界の要請、工業教育の多様化）
- 19回 工業に関する学科の目標
（工業高校の目標と工業に関する各学科の目標）
- 20回 教科「工業」の目標と学科の目標
（教科「工業」の目標の変遷）
- 21回 学科の教育課程編成（生徒の実態、高校の制度改革を踏まえた教育課程のあり方）
- 22回 教材（教材の概念、教授学習過程における教材の位置）
- 23回 工業技術教育の指導性（物品製作法、オペレーション法、プロジェクト法について）
- 24回 教育評価
（学校教育における教育評価の役割・機能及び問題点）
- 25回 授業評価（教授学習過程における評価、評価方法）
- 26回 学習指導案の構成（1）
（学習指導案の構成、留意点について）
- 27回 学習指導案の構成（2）（同上）
- 28回 学習指導案例（1）
（「工業技術基礎」を事例として授業案を検討する）
- 29回 学習指導案例（2）（同上）
- 30回 まとめ

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。
- ④教育現場を知ること、生徒を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として工業高校の視察・見学を計画している。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局、1999年 375/M-7/09（平成21年3月）
齊藤武雄、田中喜美、依田有弘編著『工業高校の挑戦』学文社、2005年 375.6/S-2

9. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談を受けるため、授業終了後オフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

nagata@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法（数学）Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：3年次 学期：前期 単位数：2単位

担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この講義では、高等学校数学科の「授業を創る力」をつけるために、その基礎的な内容を考察し、理解することを目的とする。具体的には、我が国の数学教育の現状を踏まえて、これからの数学教育が目指すものを理解すると共に、数学教育の歴史、目的、指導方法、授業構成について考察する。

2. キーワード

学力調査、学習指導要領、数学教育史、数学教育の目的、数学的活動、授業スタイル

3. 到達目標

この講義では、以下の点について理解することを目標とする。

- ①我が国の数学教育の現状
- ②これからの数学教育の在り方（中教審答申、学習指導要領）
- ③数学教育の歴史
- ④数学教育の目的
- ⑤数学的活動
- ⑥数学科の授業スタイル

4. 授業計画

講義では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 我が国の数学教育の現状①—TIMSSとPISA—
- 3回 我が国の数学教育の現状②—全国学力・学習状況調査—
- 4回 これからの数学教育の在り方①—中央教育審議会答申—
- 5回 これからの数学教育の在り方②—高等学校学習指導要領—
- 6回 数学教育の歴史—教育課程の構成原理に焦点を当てて—①
- 7回 数学教育の歴史—教育課程の構成原理に焦点を当てて—②
- 8回 数学教育の目的①
- 9回 数学教育の目的②
- 10回 数学的活動①
- 11回 数学的活動②
- 12回 数学科の授業スタイル①
- 13回 数学科の授業スタイル②
- 14回 数学科の授業スタイル③
- 15回 講義のまとめ

5. 評価の方法・基準

出席30%、期末レポート70%

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
- ②授業時間外には、講義の内容や各自の興味・関心を踏まえて、数学教育に関する文献を自ら検索・収集し、積極的に読むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①予習は基本的には必要ないが、テーマによっては予習を指示する。
- ②復習として、毎回の講義の内容を振り返るとともに、テーマごとに課す宿題に取り組むこと。

8. 教科書・参考書

教科書は使わないが、テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

9. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法（数学）Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：3年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この講義では、高等学校数学科の「授業を創る力」をつけるために、その実践的な内容を考察し、理解することを目的とする。具体的には、数学科の学習指導案、評価について理解すると共に、教材研究、模擬授業に取り組む。

2. キーワード

学習指導案、評価、教材研究、模擬授業

3. 到達目標

この講義では、以下の点について理解することを目標とする。

- ①学習指導案
- ②評価
- ③教材研究
- ④模擬授業

4. 授業計画

講義では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 高等学校数学科の学習指導案
- 3回 高等学校数学科の評価
- 4回 中学校・高等学校・大学の数学科内容構成
- 5回 高等学校数学科の教材研究①（代数）
- 6回 高等学校数学科の教材研究②（幾何）
- 7回 高等学校数学科の教材研究③（解析）
- 8回 高等学校数学科の教材研究④（確率・統計）
- 9回 高等学校数学科の教材研究⑤（数学活用）
- 10回 高等学校数学科の模擬授業①
- 11回 高等学校数学科の模擬授業②
- 12回 高等学校数学科の模擬授業③
- 13回 高等学校数学科の模擬授業④
- 14回 高等学校数学科の模擬授業⑤
- 15回 講義のまとめ

5. 評価の方法・基準

出席30%、期末レポート70%

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
- ②授業時間外には、講義の内容や各自の興味・関心を踏まえて、数学教育に関する文献を自ら検索・収集し、積極的に読むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①予習は基本的には必要ないが、テーマによっては予習を指示する。
- ②復習として、毎回の講義の内容を振り返るとともに、テーマごとに課す宿題に取り組むこと。

8. 教科書・参考書

教科書は使わないが、テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

9. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教育課程論 Curriculum Study

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：前期 単位数：1単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

今日の教育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2. キーワード

学校、教育課程（カリキュラム）、学習指導要領、教科

3. 到達目標

- ①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。
- ③現代の課題に対応する教育課程の理論と実践について理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 はじめにー学校教育をとりまく状況ー
以下 教育課程総論
- 3・4回 教育課程とは何か ・語義/意義 ・領域/構造
- 5・6回 教育課程の変遷
- 7・8回 教育課程の類型
以下 教育課程各論
- 9・10回 教科（1）学習指導要領と教科の内容
- 11・12回 教科（2）中等教育段階における学習指導
- 13・14回 教科外の諸領域
（道徳・特別活動・総合的な学習の時間）
- 15回 小まとめと質疑

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20点）、小レポート等の提出（30点）、最終レポートの成績（50点）により評価し、合計60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業の中で指示する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、教科書の該当箇所を読み、不明な専門用語等について調べておくこと。

8. 教科書・参考書

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著『新しい時代の教育課程 第三版』有斐閣 2011年 ISBN: 9784641124318

文部科学省『中学校学習指導要領解説ー総則編ー』375.1/M-18/08-1

9. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

特別活動の指導法 Method of Extra-class Activities

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：前期 単位数：1単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2. キーワード

学校、特別活動、学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事

3. 到達目標

- ①日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
- ②中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動（ホームルーム活動）」、「生徒会活動」、「学校行事」の概要を理解する。
- ③生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 特別活動の歴史と今日的課題
- 3・4回 特別活動の目標・内容・方法的特質
- 5・6回 特別活動の指導計画・実践事例（1）
学級活動ー中学校ー
- 7・8回 特別活動の指導計画・実践事例（2）
ホームルーム活動ー高等学校ー
- 9・10回 特別活動の指導計画・実践事例（3）生徒会活動
- 11・12回 特別活動の指導計画・実践事例（4）学校行事
- 13・14回 特別活動と各教科・道徳・総合的な学習の時間を関連させたカリキュラム
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20点）、小レポート等の提出（30点）、最終レポートの成績（50点）により評価し、合計60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業の中で指示する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、教科書の該当箇所を読み、不明な専門用語等について調べておくこと。

8. 教科書・参考書

文部科学省『中学校学習指導要領解説ー特別活動編ー』375.1/M-18/08-13

文部科学省『高等学校学習指導要領解説ー特別活動編ー』375.1/M-19/09-19

9. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

教育方法 Educational Method

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：3年次 学期：前期 単位数：2単位

担当教員名 三木 やよい

1. 概要

●授業の背景

今日の学校教育をめぐる状況は、学力格差、学ぶ意欲の低下、いじめや不登校等、さまざまな教育課題を提示している。保護者や社会の要望、信頼に応え実践の指導力を獲得するためには、学校教育現場での教育実践についての確かな理論知と方法技術を学ぶ必要がある。

●授業の目的

本講義では、まず授業・学習の捉え方についてふれ、現在どのような授業が求められているのかということについて説明する。次に、学校における教育課程編成、教育方法に関して、基礎的な内容を解説する。最後に、単元計画を作成したり、VTRで実際の授業を見ることなどを通して、教育課程編成、教育方法について具体的に考える。これらを通して、授業という創造的な仕事を自ら行うための手がかりをつかんでもらいたい。

●授業の位置づけ

教職に関する科目の中でも、教育方法は最も実践的指導力に関わる領域で、各教科の指導法の基礎となるものである。

2. キーワード

教育課程、学習指導要領、アクティブラーニング、教育評価、問題解決的な学習、総合的な学習の時間

3. 到達目標

- ①現在求められている授業について理解する。
- ②教育課程編成、教育方法に関して、主要な概念を理解する。
- ③実践する立場から、授業づくりのポイントを指摘できる。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 授業観・学習観の転換1
- 3回 授業観・学習観の転換2
- 4回 学習指導要領
- 5回 学習指導の原理 問題解決学習、系統学習
- 6回 学習指導の形態 一斉教授、小集団学習、個別学習、T.T
- 7回 授業づくりに求められるもの
- 8回 学習指導案作成
- 9回 教育評価 到達度評価、ポートフォリオ評価、指導要録
- 10回 問題解決的な学習1 社会科の初志をつらぬく会の理論
- 11回 問題解決的な学習2 社会科の初志をつらぬく会の実践例
- 12回 問題解決的な学習3 極地方式研究会の理論と実践例
- 13回 総合的な学習の時間 総合学習の理論と実践例
- 14回 教師としての成長
- 15回 教育工学 視聴覚教材や教育機器の適切な活用
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

出席カード（40%）と最終課題（60%）で評価する。60点以上を合格とする。

出席カードには、授業の感想等を記入すること。

最終課題（試験）では、自筆のノートのみ持ち込み可とする。

6. 履修上の注意事項

講義形式で進めるが、発表や話し合いなども取り入れる予定である。積極的な参加を期待したい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義内容を十分理解するため講義後は内容をまとめるなどして復習を行うこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』学事出版（改訂版）375/H-4/2

●参考書

田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房 375.1/T-5

9. オフィスアワー

生徒指導（進路指導を含む。） Student Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

●授業の目的

生徒指導、進路指導について基本的な知識を得るとともに、生徒指導上の問題に対し、自ら考え取り組める力を身につける。

●授業の位置づけ

教育現場では、いじめや非行、不登校など、さまざまな問題が発生している。教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。授業ではこれらについて、講義と体験学習により習得する。

2. キーワード

発達、心理査定、進路指導、教育相談

3. 到達目標

- ①人格理解のための基礎理論について習熟する。
- ②カウンセリングの考え方について習熟する。
- ③教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基礎技法を習得する。

4. 授業計画

- 1回：オリエンテーション・生徒指導とは？
- 2回：学校内のシステム
- 3回：生徒理解の方法
- 4回：アセスメント
- 5回：懲戒、体罰
- 6回：いじめ
- 7回：非行
- 8回：虐待
- 9回：不登校
- 10回：学級運営
- 11回：進路指導とは？
- 12回：進路指導の領域と方法
- 13回：教育相談とは？
- 14回：カウンセリングの基礎技法
- 15回：まとめ

5. 評価の方法・基準

期末テスト60%、受講態度（レポート、発表など）40%で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

体験的な学習も取り入れるため、授業には積極的に参加すること。日頃から教育に関する話題に関心を持ち、新聞等から情報を収集すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』（2010）ミネルヴァ書房 375.2/K-4

小泉令三編著『図説 子どものための適応援助 生徒指導・教育相談・進路指導の基礎』（2011）北大路書房 375.2/K-3

9. オフィスアワー

月曜日4限目

教育相談 Educational Counseling

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 菊池 悌一郎

1. 概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体、性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性ももっとも高い発達期である。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかにする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談（心理援助・カウンセリング）の理論と方法についてまとめる。

2. キーワード

教育相談、思春期青年期、発達、心理障害、カウンセリング

3. 到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。

- ①思春期・青年期の発達を理解する。
- ②思春期・青年期の心理障害を理解する。
- ③教育相談・理論と方法を理解する。

4. 授業計画

- 1回：教育相談について
- 2回：発達とは
- 3回：思春期・青年期の発達①
- 4回：思春期・青年期の発達②
- 5回：学童期・思春期の心理障害①
- 6回：学童期・思春期の心理障害②
- 7回：青年期の心理障害①
- 8回：青年期の心理障害②
- 9回：教育相談・カウンセリングの理論と方法①
- 10回：教育相談・カウンセリングの理論と方法②
- 11回：教育相談・カウンセリングの理論と方法③
- 12回：教育相談・カウンセリングの理論と方法④
- 13回：カウンセリング技術の実習①
- 14回：カウンセリング技術の実習②
- 15回：まとめ
- 16回：試験

5. 評価の方法・基準

レポートおよび試験で評価する（レポート60% 試験40%）

6. 履修上の注意事項

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業のテーマについて、レポートを作成し提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書：特に指定なし

●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学（東京大学出版会）371.4/K-28/2

下山：よくわかる臨床心理学（ミネルヴァ書房）146/S-9

9. オフィスアワー

メールアドレス：kikuchi@jimu.kyutech.ac.jp

教職実践演習（高）

Practical Seminar for Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：4年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成・菊池 悌一郎・岡崎 悦明・
谷野 勝敏

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法にのっとり、大学における教職課程の総まとめを行うとともに、教員という職業に携わる者としての力量形成を図る。

●授業の位置づけ

授業は、大きく以下の4つの柱からなる。

- ①ディスカッションやロールプレアを通して、教師としての使命や責任を体得する。
- ②ボランティアやフィールドワークを通して、社会性やコミュニケーション能力を身につける。
- ③現職の高校教諭との討論や学校参加を通して、生徒の理解を促進し、学校・学級経営の実態を理解する。
- ④模擬授業などを通して、教科指導の力量の定着を図る。

2. キーワード

教師としての資質向上・力量形成

3. 到達目標

- ①これまでに履修してきた教職課程科目及びその他の活動を反省的にふり返るとともに、使命感や責任感、社会性やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- ②教員としての課題を認識し、知識・技術の定着を図る。
- ③教職及び教科指導に関する知識・技術の再確認を行う。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション
(これまでの学校生活、学修をふり返って)
- 2回 教職の意義と教員の役割①（グループディスカッション）
- 3回 教職の意義と教員の役割②（ロールプレア）
- 4回 地域フィールドワーク実習①
- 5回 地域フィールドワーク実習②
- 6回 生徒指導・進路指導・学級経営①
(グループワーク体験学習：エンカウンター)
- 7回 生徒指導・進路指導・学級経営②
(グループ体験学習：心理劇)
- 8回 生徒指導・進路指導・学級経営③
(学校現場の見学・調査)
- 9回 生徒指導・進路指導・学級経営④
(見学調査を踏まえた討論)
- 10回 数学模擬授業①
- 11回 数学模擬授業②
- 12回 工業教科模擬授業①
- 13回 工業教科模擬授業②
- 14回 模擬授業に基づく討論
- 15回 まとめ
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

平素の授業態度（30%） 発表内容（30%） 最終レポート（40%）

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②学外での活動に積極的に参加するとともに、主体的に授業に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容を十分に理解するため、夏季の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞

等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

●教科書 なし

●参考文献

高等学校学習指導要領（総則・数学・工業）

各種審議会答申

教育六法

その他、教育に関する各種新聞記事等

9. オフィスアワー

全体のマネジメントは、東野が行う。オフィスアワーは研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

職業指導 Vocational Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：4年次 学期：後期 単位数：4単位

担当教員名 永田 萬享

1. 概要

●授業の目的

社会的分業である職業に関する社会科学的認識を持つことと、職業能力を開発する手だてとしての職業教育のあり方を通して、社会のなかでの個人の位置をつかみ、自立した職業生活を営むことができるようになることを目指す。

●授業の位置づけ

授業では、①モノを作ることや働くことによって姿を現してくる社会と人間の関係に見られる奥深い真実の世界を、現実の企業社会、労働社会の織りなす具体的なデータに基づいて検討を加える。②さらに、高校教育後のいわゆる中等後段階における技術・職業教育の有り様を、職業教育・訓練の公共化の観点から現状分析する。

2. キーワード

職業指導、キャリア教育、専修学校、公共職業訓練、企業内教育

3. 到達目標

- ①現代社会における職業の性格について社会科学的認識を深めることによって、職業情報を正しく理解するための一定の判断力を養成することを目指す。
- ②職業的自立のための具体的方策として職業教育のあり方についてもその現状を通して検討する。

4. 授業計画

- 第1回：職業指導とは？
- 第2回：職業指導の社会的基底
- 第3回：経済政策と青少年問題
- 第4回：労働と職場の現実①
- 第5回：労働と職場の現実②
- 第6回：産業社会と職業分布①
- 第7回：産業社会と職業分布②
- 第8回：内部形成と外部形成
- 第9回：青年の自立と高校職業教育①
- 第10回：青年の自立と高校職業教育②
- 第11回：各種・専修学校における職業教育①
- 第12回：各種・専修学校における職業教育②
- 第13回：公共職業訓練と能力開発①
- 第14回：公共職業訓練と能力開発②
- 第15回：まとめ
- 第16回：職業の様々な側面
- 第17回：職業観の変容
- 第18回：生きがいと職業
- 第19回：社会的分業と職業
- 第20回：職業選択の意味
- 第21回：職業選択と情報
- 第22回：情報化の進展と職場の変化
- 第23回：女性の職場進出と労働
- 第24回：男女雇用機会均等法の成立と現在
- 第25回：各種・専修学校と生涯教育
- 第26回：公的職業訓練の動向
- 第27回：企業内教育とOJT
- 第28回：企業外部の教育機関とOffJT
- 第29回：学校教育と職業教育
- 第30回：まとめ
- 第31回：試験

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、右記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、経済、社会情勢に関する最新の情報を摂取すること。
- ④働く現場を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として学外授業、例えば工場見学や職業能力開発施設の視察を計画している。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容の十分な理解を得るため、右記の参考文献を各自読むこと。
- ②授業時間外には新聞等に目を通し、経済、社会情勢に関する最新の情報を摂取すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
鎌田慧『日本人の仕事』1986年、平凡社 ISBN：978-4582705022

木村保茂、永田萬享『転換期の人材育成システム』学文社、2005年 336.4/K-23

9. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談については、授業終了後をオフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

nagata@fukuoka-edu.ac.jp

Ⅲ. 人間科学科目（留学生）

留学生科目概要

1. 目的

留学生が速やかに大学の教育環境に適応し、日本社会に対する理解を深めることができるように、日本語と日本事情の教育を行う。

具体的な目標としては、

- 1) 日本社会・文化について大学生として知っておくことが望ましい知識を獲得する。
- 2) 大学生として必要な日本語の語彙や文法、読解力、聴解力を獲得する。
- 3) 日本語での情報を正確に理解し、自分なりの考えを論理的に表現する力を養う。
- 4) 自分なりの日本語学習の習慣を確立し、専門の学習に備える。

2. 日本語と日本事情の科目の履修について

日本語AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡは1年次に、日本語CⅠ、CⅡは1年次または2年次に履修する。これらの単位は外国語系科目に振り替えることができる。

日本事情A、日本事情Bは1年次または2年次に履修する。これらの単位は人文社会系科目に振り替えることができる。

上記の科目の他に1年次から3年次の学生を対象にした日本事情C、日本事情Dが金曜日に開講され、これらの単位を取得して人文社会系科目に振り替えることができる。時間割を参照して、履修を希望する者は最初の講義に必ず出席すること。

日本語AⅠ Japanese I

対象学科(コース):全学科(留学生科目) 学年:1年次

学期:前期 単位区分:選択 単位数:1単位

担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

●読む力、聞く力を向上させる。

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

●考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回	第1課	いちろく銀行
第3回～第4回	第2課	動物園
第5回～第6回	第3課	仮想現実
第7回～第8回	第4課	体の時間
第9回～第10回	第5課	自然
第11回～第12回	第6課	左利き
第13回～第14回	第7課	共生住宅
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

授業への参加度(20%)、課題(20%)、学期末試験(60%)で評価する。

6. 履修上の注意事項

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

毎回課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子:現代日本語中級総合講座(アルク)810.7/M-22

9. オフィスアワー

火曜日3限

日本語 A I Japanese I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

さまざまなタイプの文書を書く方法を身につける。メールや説明文、報告書、ミニプレゼンテーションを経て、論文書式でレポートを作成する。

●授業の位置付け

中上級レベルの日本語能力を総合的に養成するためのものである。積極的に資料を使い、自分の考えを組み立て、的確に発信する力を養う。日本社会に対する理解を深める。

2. キーワード

「目的と書き方」「プレゼンテーション」「論文書式」

3. 到達目標

- ・さまざまな文書で、相手に伝わる方法を身につける。
- ・プレゼンテーションの準備方法を学ぶ。
- ・論文書式で事象の説明と自分の考察をまとめる。

4. 授業計画

第1回～第2回 メール

第3回～第4回 説明文

第5回～第6回 資料収集の方法

第7回～第8回 アイディアの発表

第9回～第10回 プレゼンテーションの準備と発表

第11回～第12回 報告書

第13回～第14回 論文書式に向けて

第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

中上級レベルの学習者を対象とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

課題を必ず提出し、準備をきちんとすること。

8. 教科書・参考書

参考書

- 1) 因京子他：日本語表現道場（ピーエフアール）
- 2) 野田尚史他：日本語を書くトレーニング（ひつじ書房）816/N-12

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。また、科学技術に関する読み物への導入を行い、研究室見学を行って、実際の場で日本語を使ってみる。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

- ①読む力、聞く力を向上させる。
- ②社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
- ③考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。
- ④平易な科学的な読み物を読み、学んだ語彙を使って考えを述べる。

4. 授業計画

第1回～第2回 第8課 カラー柔道着

第3回～第4回 第9課 料理技能の検定

第5回～第6回 第10課 発明王

第7回～第8回 第11課 花の洋風化

第9回～第10回 第12課 さいせん回数券

第11回～第13回 KIT 版科学読み物

第14回 研究室見学

第15回 総復習

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22
- 2) アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

9. オフィスアワー

火曜日 3 限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対しての確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

2. キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

3. 到達目標

- ①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できる。
- ②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができる。

4. 授業計画

毎回の授業は、その時々々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。適宜、語彙の復習テストを行う。

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

8. 教科書・参考書

なし

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 B I Japanese B I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実際に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイディア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- ・科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- ・聞き取った内容を的確に把握する。
- ・科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 説明文の表現練習
- 第2回 テーマ：再生木材
- 第3回 テーマ：新エネルギー開発
- 第4回 テーマ：バイオメトリクス認証
- 第5回 テーマ：3Dプリンター
- 第6回 テーマ：エコタウン
- 第7回 テーマ：超能力はあるのか
- 第8回 テーマ：人工光合成
- 第9回 テーマ：超音速旅客機
- 第10回 テーマ：ロボットカー
- 第11回 テーマ：スペースデブリ
- 第12回 研究室見学
- 第13回 テーマ：にょいのおの不思議
- 第14回 テーマ：新型風車
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文（20%）、試験（60%）

6. 履修上の注意事項

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を各自書き出してリストを作成すること。

8. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 B II Japanese B II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実際に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- ・科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- ・聞き取った内容を的確に把握する。
- ・科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ：スペースシャトル事故
- 第2回 テーマ：折り紙工学
- 第3回 テーマ：自動車エンジン開発
- 第4回 テーマ：巨大津波のメカニズム
- 第5回 テーマ：東京大地震
- 第6回 テーマ：人工筋肉
- 第7回 テーマ：長寿遺伝子
- 第8回 テーマ：災害レスキューロボット
- 第9回 テーマ：磁石研究とエコカー
- 第10回 テーマ：バイオミメティクス
- 第11回 テーマ：熱電発電
- 第12回 テーマ：砂漠で発電
- 第13回 テーマ：ロボットカー
- 第14回 研究室見学
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文・課題（20%）、試験（60%）

6. 履修上の注意事項

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を各自書き出してリストを作成すること。

8. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C I Japanese C I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

様々な話題に応じた語彙や表現を学び、自分に興味のあることを詳しく説明できる力を育てる。

●授業の位置付け

会話やスピーチなど、中上級話者の話す能力を養う。

2. キーワード

「会話」「スピーチ」「説明」「興味をもってもらう」

3. 到達目標

- ①詳しい説明や描写ができる。
- ②聞き手の興味や理解を確かめながら話せる。
- ③共に話を展開させる聞き方を身につける。
- ④メモをもとにスピーチができる。

4. 授業計画

- 第1回 インタビューと他者紹介
- 第2回 前回のフィードバック：話し方を考える
- 第3回 きっかけを語る
- 第4回 方法説明のスピーチ
- 第5回 失くした体験
- 第6回 図の分析
- 第7回 性格を分析する
- 第8回 うごきの説明
- 第9回 健康・ストレス解消法
- 第10回 物語の説明（1）
- 第11回 物語の説明（2）
- 第12回 ゲームの説明
- 第13回 最近の出来事
- 第14回 将来の夢
- 第15回 日本の文化に慣れるとは

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、授業内での発表（30%）、説明方法のスピーチ（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

毎回の授業で得た手がかりを基に、共に会話を深めることができる話し手、聞き手となるよう心がけること。自分の話し方を内省し、課題を克服する努力をすること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回小課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

●教科書

1) 荻原稚佳子他：日本語上級話者への道（スリーエーネットワーク）810.7/O-22

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C II Japanese C II

対象学科 (コース): 全学科 (留学生科目) 学年: 2 年次

学期: 後期 単位区分: 選択 単位数: 1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか、自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。具体的には、日本語能力試験 N1 の問題を客観的な指標の一つとして参考にしながら、自分の日本語能力を測る。小レポートを書いて、それを推敲してプレゼンテーションに発展させる。

2. キーワード

「自己評価」「自律的学習」「日本語能力試験 N1」

3. 到達目標

- ①自分の日本語能力を客観的に評価できる。
- ②不十分な技能を磨くための学習方法を知る。
- ③自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける。
- ④説得力のあるプレゼンテーションができる。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション: 自己評価とは
 第2回 自分の力を知る: 語彙の広さ、量
 第3回 前回のフィードバック、練習
 第4回 自分の力を知る: 文法的な正確さ
 第5回 前回のフィードバック、文法の正確さのための練習
 第6回 自分の力を知る: 主旨や発話者の意図を理解する力
 第7回 前回のフィードバック、練習
 第8回 自分の力を知る: 論理的に話を組み立てる力
 第9回 前回のフィードバック、練習
 第10回 自分の力を知る: 表現力・説得力
 第11回 前回のフィードバック、練習
 第12回 プレゼンテーションに向けて (1) 構成
 第13回 プレゼンテーションに向けて (2) 説得力
 第14回 プレゼンテーションに向けて (3) 練習
 第15回 プレゼンテーション

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題 (50%)、プレゼンテーション (50%) で評価する。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

8. 教科書・参考書

特になし

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本事情 A Japanese Culture and Society A

対象学科 (コース): 全学科 (留学生科目) 学年: 1 年次

学期: 前期 単位区分: 選択 単位数: 2 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す。
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
- ③異なる文化や社会を客観的に分析する力を持つ。
- ④日本の社会についての考えを深める。

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング
 第2～4回 日本の家族
 第5～7回 労働、産業
 第8～9回 環境の維持
 第10～11回 子供と教育
 第12～14回 日本社会再考
 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

毎回のノート (30%)、討論への参加度 (20%)、試験 (50%) で評価する。

6. 履修上の注意事項

積極的に自己を振り返り、意見を出すこと、他人の考えを深く知る姿勢を持つこと。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

テーマについての事前の課題を考えて授業に臨む。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

9. オフィスアワー

月曜日 3 限

日本事情B Japanese Culture and Society B

対象学科(コース):全学科(留学生科目) 学年:1年次

学期:後期 単位区分:選択 単位数:2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

最近のニュースの話題について日本人学生と共に討議する。自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。異なる背景を持つ人と意見を出し合って協働するための行動力を身につける。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を母国の状況を踏まえて理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ
- ③異なる文化、社会について理解する視点を持つ
- ④日本の社会や文化について考えを深める
- ⑤グループで協働して討議を深め、意見をまとめる姿勢を獲得する

4. 授業計画

最近のニュースから、学生自身が興味ある話題を取り上げ、皆で討議する問題を提起する。討議のための資料を作成し、皆に討議資料を説明する。グループで意見を出し合い、発表する。自分の意見をまとめ、振り返る。

第1回 アイスブレイキング

第2～14回 問題提起と討論、グループ発表

第15回 まとめのポスター発表

5. 評価の方法・基準

ポスター発表・レポート(60%)及び毎回提出のノート・授業への参加度(40%)で評価する。

6. 履修上の注意事項

ニュースに関心を持ち、日本や世界の最新の動向を確認しておくこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

授業中に出された課題から興味のあるテーマについて考えを深めて、ポスター発表し、レポートにまとめる準備をする。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

9. オフィスアワー

月曜日3限

日本事情C Japanese Culture and Society C

対象学科(コース):全学科(留学生科目) 学年:2年次

学期:前期 単位区分:選択 単位数:2単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本人学生と共に、日本及び他の留学生の出身地の地理・歴史・政治・経済などに関する知見を広め、考えを深める。留学生が日本と関わる際に知っておくべき、日本の地理・歴史・政治・経済などに関する知識を習得する。自分の出身地と他地域の同異を分析し、その背景を考察する。

●授業の位置付け

本科目では、留学生と日本人学生が協同して学習を進める。留学生は自分の出身地の地理・歴史・政治・経済などについて、日本人学生は日本の地理・歴史・政治・経済などについて発表を行う。その際は基本的な事項の確認と共に、時事問題にも目を向ける。発表終了後はクラス全体で討論をし、その結果を振り返りシートにまとめる。

2. キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」「異文化理解」「討論」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す。
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
- ③異なる文化や社会を客観的に分析する力を持つ。
- ④日本の社会についての考えを深める。

4. 授業計画

第1回 データでみる日本

第2回 日本の地理・気候

第3回 憲法

第4回 政治制度

第5回 選挙と世論

第6回 戦後経済史

第7回 消費者をめぐる問題

第8回 労働問題と社会保障

第9回 宗教

第10回 日本の歴史(1)

第11回 日本の歴史(2)

第12回 現代日本社会の諸問題

第13回 福岡県の地理と歴史

第14回 日本の地理・歴史・政治・経済についてのまとめ作成

第15回 総まとめ討論会

5. 評価の方法・基準

レポート(30%)、発表(30%)、振り返りシート(20%)、授業への参加度(20%)で評価する。

6. 履修上の注意事項

積極的に自己を振り返り、意見を出すこと。

他人の考えを深く知る姿勢を持つこと。

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

新聞やテレビなどで日本や世界の最新の動向を確認しておくこと。

8. 教科書・参考書

特に指定しない

9. オフィスアワー

アブドゥハン教員を通して質問すること

日本事情D Japanese Culture and Society D

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

●授業の位置付け

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

2. キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

3. 到達目標

- ①丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
- ②「頼む」「断る」「苦情を言う」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

4. 授業計画

- | | |
|--------|--------------------|
| 第1回 | 人間関係を調節する表現についての概論 |
| 第2－4回 | さまざまな表現と使い方 |
| 第5－7回 | 頼むとき・頼まれたとき |
| 第8－10回 | 苦情を言うとき・言われたとき |
| 第11回 | 意見を述べる |
| 第12回 | 感謝・謝罪 |
| 第13回 | ほめる・ほめられる |
| 第14回 | 出身地の文化についてのまとめ作成 |
| 第15回 | 総まとめ発表会 |

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート（70%）と授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

9. オフィスアワー

アプドゥハン教員を通して質問すること

九州工業大学

郵便番号 804-8550

北九州市戸畑区仙水町1番1号

電話 北九州(093)884-3088